

7. 資料編

7-1. 上位関連計画での位置づけ

(1) 国の関連計画

1) 観光立国推進基本計画、明日の日本を支える観光ビジョン

国においては、観光立国の実現を目指すために平成19年に観光立国推進基本法（平成18年法律第117号）を施行し、観光庁の設置やビザの緩和など、戦略的に観光振興に取り組んできた。また、観光は我が国の成長戦略の柱、地方創生への切り札であるという認識の下、世界が訪れたいくなる「観光先進国・日本」への飛躍を図ることを目的に、平成28年には「明日の日本を支える観光ビジョン（明日の日本を支える観光ビジョン構想会議決定）」を策定した。本ビジョンでは、「観光先進国」の実現に向けた3つの視点と10の改革を定めている。また、観光立国の実現に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、国民経済の発展、国民生活の安定向上及び国際相互理解の増進を図るため、新たな「観光立国推進基本計画（平成29年度～32年度）」を定めた。

□ 「観光先進国」の実現に向けた3つの視点と10の改革（明日の日本を支える観光ビジョン）

視点	10の改革
観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に	<ul style="list-style-type: none">「魅力ある公的施設」を、ひろく国民、そして世界に開放「文化財」を「保存優先」から観光客目線での「理解促進」、そして「活用」へ「国立公園」を、世界水準の「ナショナルパーク」へおもな観光地で「景観計画」をつくり、美しい街並みへ
観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国の基幹産業に	<ul style="list-style-type: none">古い規制を見直し、生産性を大切にする観光産業へあたらしい市場を開拓し、長期滞在と消費拡大を同時に実現疲弊した温泉街や地方都市を、未来発想の経営で再生・活性化
すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に	<ul style="list-style-type: none">ソフトインフラを飛躍的に改善し、世界一快適な滞在を実現「地方創生回廊」を完備し、全国どこへでも快適な旅行を実現「働きかた」と「休みかた」を改革し、躍動感あふれる社会を実現

出典：「明日の日本を支える観光ビジョン（平成28年3月30日明日の日本を支える観光ビジョン構想会議決定）」

□ 観光立国の実現に関する施策についての基本的な方針（観光立国推進基本計画）

①国民経済の発展

観光を我が国の基幹産業へ成長させ、日本経済を牽引するとともに、地域に活力を与える。

②国際相互理解の増進

観光を通じて国際感覚に優れた人材を育み、外国の人々の我が国への理解を深める。

③国民生活の安定向上

全ての旅行者が「旅の喜び」を実感できるような環境を整え、観光により明日への活力を生み出す。

④災害、事故等のリスクへの備え

国内外の旅行者が安全・安心に観光を楽しめる環境をつくり上げる。観光を通じて東北の振興を加速化する。

各計画の目標

項目	目標値 (観光立国推進基本計画)	目標値 (明日の日本を支える観光ビジョン)	
	令和2(2020)年まで	令和2(2020)年	令和12(2030)年
国内旅行消費額	21兆円	21兆円	22兆円
訪日外国人旅行者数	4,000万人	4,000万人	6,000万人
訪日外国人旅行消費額	8兆円	8兆円	15兆円
訪日外国人リピーター数	2,400万人	2,400万人	3,600万人
訪日外国人旅行者の地方部における延べ宿泊者数	7,000万人泊	7,000万人泊	1億3,000万人泊
アジア主要国における国際会議の開催件数に占める割合	3割以上・アジア最大の開催国		
日本人の海外旅行者数	2,000万人		

出典：「観光立国推進基本計画（平成29年3月28日閣議決定）」

「明日の日本を支える観光ビジョン（平成28年3月30日明日の日本を支える観光ビジョン構想会議決定）」

2) 観光ビジョン実現プログラム2020

第13回観光立国推進閣僚会議（令和2年7月14日）において、政府の今後1年を目途とした行動計画である「観光ビジョン実現プログラム2020」が決定された。本プログラムでは、新型コロナウイルス感染症によって観光需要が大幅に減少し、観光関連産業に深刻な影響が生じていることを受け、観光関連産業の体質強化に取り組むこととしている。また、国内外の感染症の状況を十分に見極めつつ、国内旅行とインバウンドの回復を図り、再び観光を成長軌道に乗せることで、観光立国の実現を目指している。

□ プログラム内容

- ①国内の観光需要の回復と観光関連産業の体質強化
 - ・雇用の維持と事業の継続に対する支援
 - ・反転攻勢に転じるための基盤の整備
 - ・国内旅行の需要喚起
 - ・インバウンドの回復
- ②インバウンド促進に向け引き続き取り組む施策
 - ・外国人が楽しめる当たり前の受入環境整備
 - ・地域の自然、気候、文化の魅力を生かした体験型アクティビティの充実
 - ・宿泊施設等の再生・活性化
 - ・世界水準のスノーリゾート整備
 - ・日本政府観光局の発信力強化
 - ・富裕層が満足できるコンテンツづくり

(2) 県の関連計画

1) 新たな振興計画（素案）

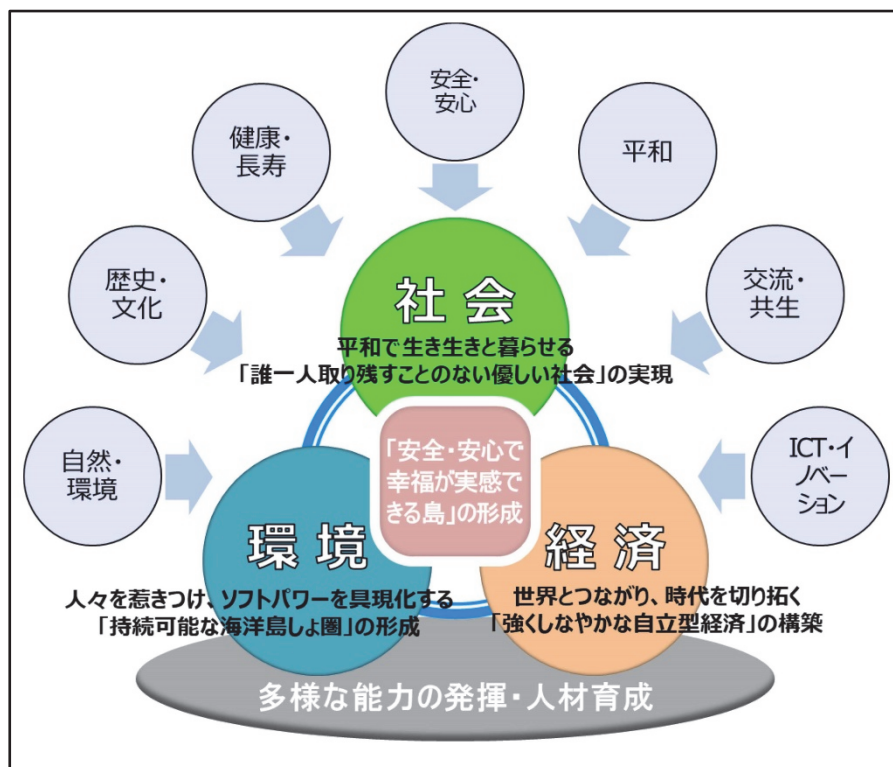
新たな振興計画（素案）は、沖縄振興特別措置法に基づき、沖縄振興分野を包括する総合的な基本計画であり、沖縄振興の基本方向や基本施策等を明らかにするものである。計画期間は、「沖縄 21 世紀ビジョン」が想定する概ね 20 年の後期 10 年に相当する、令和 4 年度から令和 13 年度である。計画策定の意義として、沖縄振興策の推進、日本経済発展への貢献、海洋島しょ圏の特性を生かした海洋立国への貢献を挙げており、沖縄県の発展は国家戦略としても重要な意義を有することを示している。

□ 計画の目標

- 施策展開にあたっては、SDGs を取り入れ、社会・経済・環境の三つの側面が調和した「持続可能な沖縄の発展」と「誰一人取り残さない社会」を目指す。
- ウイズ／アフターコロナの新しい生活様式に適合する「安全・安心で幸福が実感できる島」を形成し、県民全ての幸福感を高め、我が国の持続可能な発展に寄与することを目指す。
- 「沖縄 21 世紀ビジョン」で掲げる 5 つの将来像の実現と 4 つの固有課題の解決を図り、本県の自立的発展と住民が豊かさを実感できる社会の実現を目標とする。

□ 施策展開の 3 つの枠組み

SDGs を掲げた 2030 アジェンダでは、社会、経済、及び環境の 3 つの側面を不可分のものとして調和させる統合的取組を目指している。沖縄県では、この三側面と「沖縄 21 世紀ビジョン」の将来像とを連動させ、総合的な課題解決の視点とともに、将来像の実現に向けた各種施策を展開する、社会・経済・環境の 3 つの枠組みを設定している。



出典：「新たな振興計画（素案）」沖縄県（令和 3 年 5 月）

□ 基本施策

新たな振興計画（素案）では、観光に関連する基本施策として「3 - (2) 世界から選ばれる持続可能な観光地の形成と沖縄観光の変革」を位置付けている。施策において、「新しい生活様式／ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進、SDGs に適応する観光ブランド力の強化、多彩かつ質の高い観光の推進、DX による沖縄観光の変革、マリンタウン MICE エリアの形成を核とした戦略的な MICE の振興に取り組むこととしている。

基本施策	3-(2) 世界から選ばれる持続可能な観光地の形成と沖縄観光の変革		
主要指標	観光収入		
施策展開ア		「新しい生活様式／ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進	
施策①	「安全・安心の島」の構築に向けた受入体制等の整備	成果指標	観光客が「沖縄は安全であると感じる」割合
施策②	快適で魅力ある観光まちづくりの推進	成果指標	リピーター率
施策③	多様な受入環境の整備	成果指標	高齢者等の来沖者数
施策展開イ		SDGsに適応する観光ブランド力の強化	
施策①	サステナブル・ツーリズムの推進	成果指標	(県民・観光客・観光事業者)持続可能な観光に係る満足度
施策②	持続的観光指標の設定と観光地マネジメント	成果指標	県民、地域、事業者、観光客の満足度
施策展開ウ		多彩かつ質の高い観光の推進	
施策①	国内外観光客のマーケティング	成果指標	国内・国外観光客の行動歴・販売データのサンプル件数
施策②	沖縄のソフトパワーを生かしたツーリズムの推進	成果指標	平均滞在日数
施策③	多様な市場における沖縄観光の価値を訴求する誘客活動の展開	成果指標	国内客及び外国空路客の入域観光客数及び一人当たり観光消費額
施策④	質の高いクルーズ観光の推進	成果指標	プレミアム/ラグジュアリークラスのクルーズ船の寄港回数
施策⑤	観光消費額向上に資する新たな拠点形成や観光プログラムの創出	成果指標	1人あたり観光消費額(娯楽・入場費、宿泊費)
施策⑥	空港・港湾と観光拠点エリアにおける観光二次交通の利便性向上	成果指標	空港と観光拠点エリアの移動時間
施策展開エ		デジタルトランスフォーメーションによる沖縄観光の変革	
施策①	ICTによる新たな観光体験の創出促進	成果指標	ヴァーチャル観光客数
施策②	ICT・通信インフラを拡充した観光施設等の受入体制構築	成果指標	観光施設におけるコンタクトレス決済普及率
施策③	世界のビジネスパーソン等が訪れるワーケーション拠点の形成	成果指標	ワーケーションを目的とした来県者数
施策④	リアルタイムな観光情報の提供	成果指標	沖縄旅行の満足度(案内表記のわかりやすさ)
施策⑤	観光二次交通の利用促進	成果指標	公共交通機関の利用割合
施策展開オ		マリンタウンMICEエリアの形成を核とした戦略的なMICEの振興	
施策①	MICE振興とビジネスツーリズムの推進	成果指標	MICE開催による経済波及効果(直接効果)
施策②	マリンタウンMICEエリアを核とした全県的なMICE受入体制の整備	成果指標	1,000人以上のMICE開催件数
施策③	MICEを活用した関連産業の振興	成果指標	MICE開催による経済波及効果(間接効果)

出典：「新たな振興計画（素案）」沖縄県（令和3年5月）

2) 第5次沖縄県観光振興基本計画改訂版

本計画は、「沖縄21世紀ビジョン基本計画」をふまえつつ、沖縄県観光振興条例第7条に基づき、観光の振興に関する基本的な方向を示すために策定された。計画期間は、平成24年度から令和3年度までの10か年である。沖縄全体の今後のめざすべき姿を示す「沖縄21世紀ビジョン」で掲げる「世界水準の観光リゾート地」の実現に向けて、沖縄観光が国内外に広く認知される基盤を構築することを目的としている。

目標フレーム

項目		単位	(新)目標値 (～33年度)
(1)	観光収入	兆円	1.1
(2)	観光客一人あたり消費額	円	93,000
(3)	平均滞在日数	日	4.5
(4)	人泊数(延べ宿泊者数)	万人泊	4,200
	うち国内客※	万人泊	3,200
	外国空路客	万人泊	1,000
(5)	入域観光客数総数	万人	1,200
	国内客	万人	800
	外国客数	万人	400

出典:「第5次沖縄県観光振興基本計画改訂版」沖縄県(平成29年3月)

※国内客については、県外空港から国内線を利用して、沖縄県へ来訪する外国人観光客(国内トランジット外国人客も含む)。

圏域別の基本方向(東村に関する箇所のみ抜粋)

(1)北部圏域

【主な特性】

北部3村(国頭村、大宜味村、東村)においてやんばる国立公園が新規指定されるとともに、同地域が西表島、鹿児島県奄美大島及び徳之島とあわせ世界自然遺産の候補地となるなど、優れた自然環境を有している。

【施策の基本方向】

多様で個性豊かな自然環境を活用したエコツアーリズムや、民泊など体験・参加型観光の取組による地域特性・地域産業と密接に連携した観光スタイルなどの充実を促進するとともに、金武湾の特性や自然、文化を活かした健康保養をテーマとした滞在型観光や海洋レジャーなどの取組を促進する。
あわせて、沖縄を代表する観光リゾート地としての沿道景観整備やまちなみ景観創出など、地域にふさわしい個性豊かな風景づくりを進め、観光イメージや地域の魅力向上を図る。

※「第6次沖縄県観光振興基本計画」は、本計画策定時期において素案段階であったため、参照せず。

(3) 村の関連計画

1) 第5次東村総合計画基本構想・後期基本計画

～第2期東村むら・ひと・しごと創生総合戦略～

「第5次東村総合計画 基本構想・後期基本計画～第2期東村むら・ひと・しごと創生総合戦略～」は、第5次総合計画後期計画と第2期東村総合戦略を策定するにあたり、これら2つの計画を一本化したものである。計画期間は令和3年から令和7年にかけての5年間である。

第5次総合計画は本村の最上位計画であることから、計画の方向性に即した観光振興計画を取りまとめる必要がある。

□ 第5次総合計画 後期計画

第5次総合計画の基本構想において、将来像・キャッチフレーズを「ひと・むら・自然が共生する 未来に輝く農村をめざして」とし、6つの基本目標と9つの重点プロジェクトを定めている。

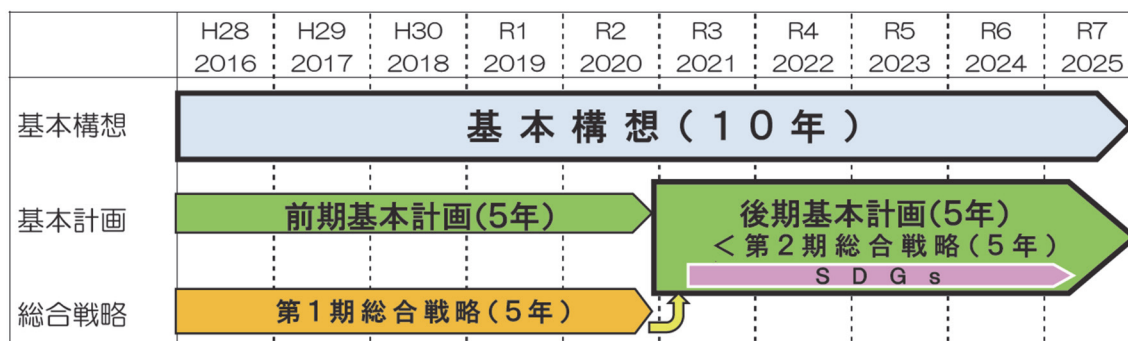
観光に関連する基本目標として、「東村ブランド力の向上による産業の育成」が位置づけられており、やんばるの自然環境の保全活用による持続可能なエコ・グリーン・ブルーツーリズムを推進すること、世界自然遺産の登録を見据え、3村連携による体制づくりに取り組むことなどが基本方針として定められている。施策としては、「戦略的農業の推進」や「地域特産品のPR・開発・販路拡大の促進」、「エコ・グリーン・ブルーツーリズム、観光型体験の充実強化」および「観光施設の整備推進」が定められており、これに加えて基本目標「未来の村につなぐ優先的な施策」に位置付けられた「跡地利用の推進」も本村の観光を考える上で重要となる。

□ 第2期東村むら・ひと・しごと創生総合戦略

第2期東村総合戦略では、国や県の地方創生にむけた計画を勘案しながら、産業・人口などに関する地域データやアンケート調査結果等を分析し、地域の特性に応じたむら・ひと・しごとの好循環を確立することを目的としている。

総合戦略では、5つの基本目標と横断的な目標の「新しい時代の流れを力にする」を掲げている。観光に関連する基本目標として、「東村の特徴・資源をいかした「しごと」の創出」が示されており、「東村の特産品を使用した新商品数の増加」や「ブルーツーリズムの推進」の基本施策が掲げられている。

計画期間



□ 施策体系

将来像・キャッチフレーズ

ひと・むら・自然が共生する 未来に輝く農村をめざして

後期基本計画の基本目標・施策・具体的な取組(抜粋)

基本目標	大項目	施策	具体的な取組
東村ブランド力の向上による産業の育成	1 農業	1-2 戦略的農業の推進	②パインアップルのブランド化
	4 商工業・新産業誘致	4-1 地域特産品のPR・開発・販路拡大の促進	①地域特産品のPR・販路拡大
			②特産品の開発
	5 観光・交流	5-1 エコ・グリーン・ブルーツーリズム、観光型体験の充実強化	①農家と連携したグリーンツーリズムの推進、ブルーツーリズムの振興
			②新しいツーリズムの創出
			③観光人材の育成
			④ツーリズムの相乗効果、広域的連携の推進
⑤観光振興計画の策定推進			
5-2 観光施設の整備推進	①「奄美・琉球世界自然遺産」登録への取組の促進		
	②村民の森施設等の整備の継続促進		
	③施設管理運営体制の充実		
未来の村づくりにつなぐ優先的な施策	1 過疎対策の推進	1-3 跡地利用の推進	①慶佐次通信所(ロランC局)跡地利用の推進
			②五味観光跡地利用計画の推進

第2期東村むら・ひと・しごと創生総合戦略の基本施策・施策の方向性(抜粋)

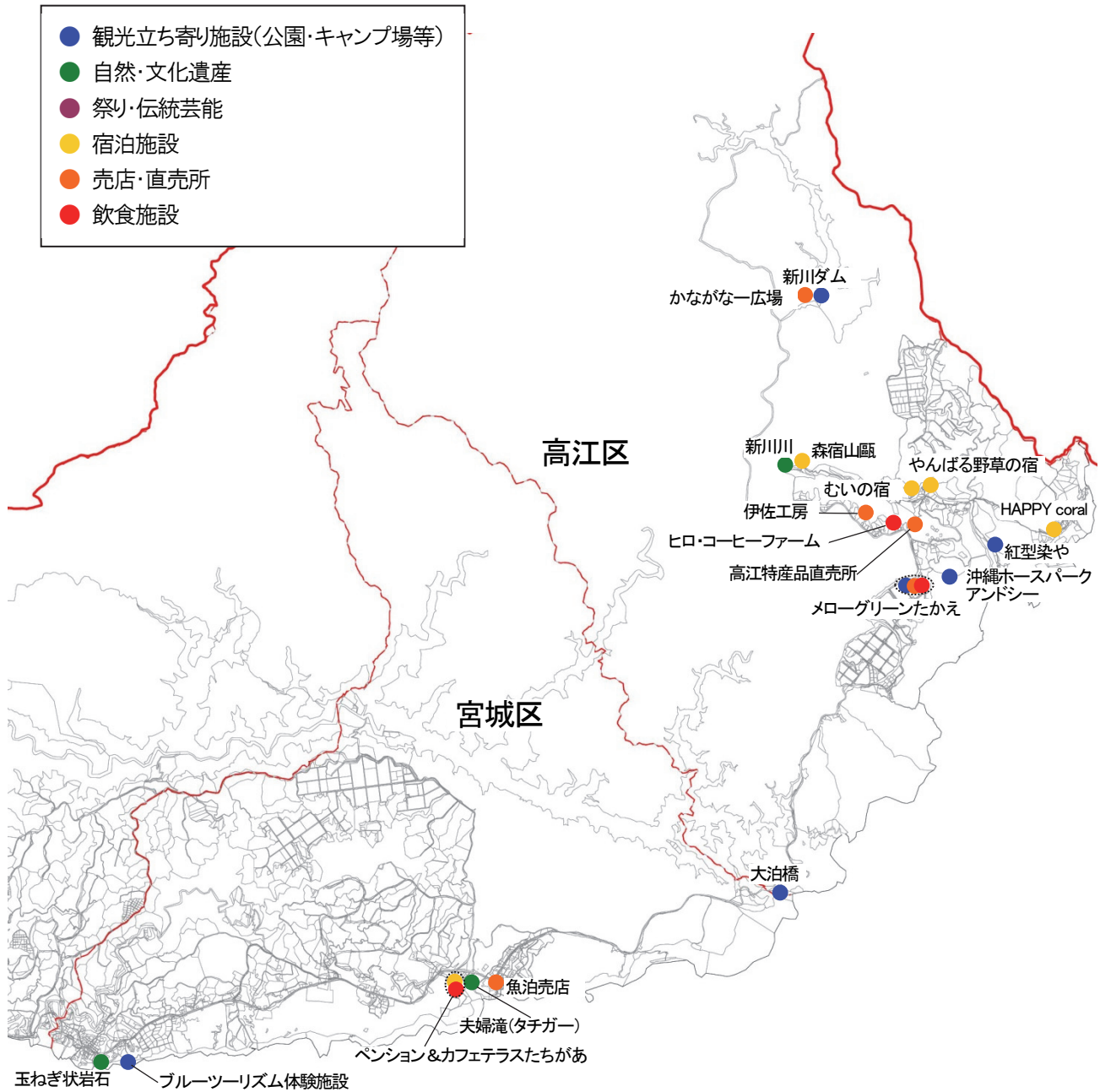
基本目標 1 東村の特徴・資源をいかした「しごと」の創出						
	基本施策	施策の方向性	重要業績評価指標(KPI)	単位	基準値	目標値
産業の振興	②東村の特産品を使用した新商品数の増加	商工会(村内加工事業者)と連携し、パインアップル等の特産品を活用した加工品等の商品開発(観光客用の土産等)及び村外企業(小売業者)と連携した商品開発と販売促進を実施する。	新商品数	個	34	39
	③ブルーツーリズムの推進	マリンインストラクター等の育成を図るとともに、福地川海浜公園やブルーツーリズム体験施設等の誘客向上並びに観光体験者数の増加をめざす。	ブルーツーリズム関連観光の誘客向上・観光体験者数	人	1,032	10,000 (年間延数)

7-2. 東村の観光資源と取組

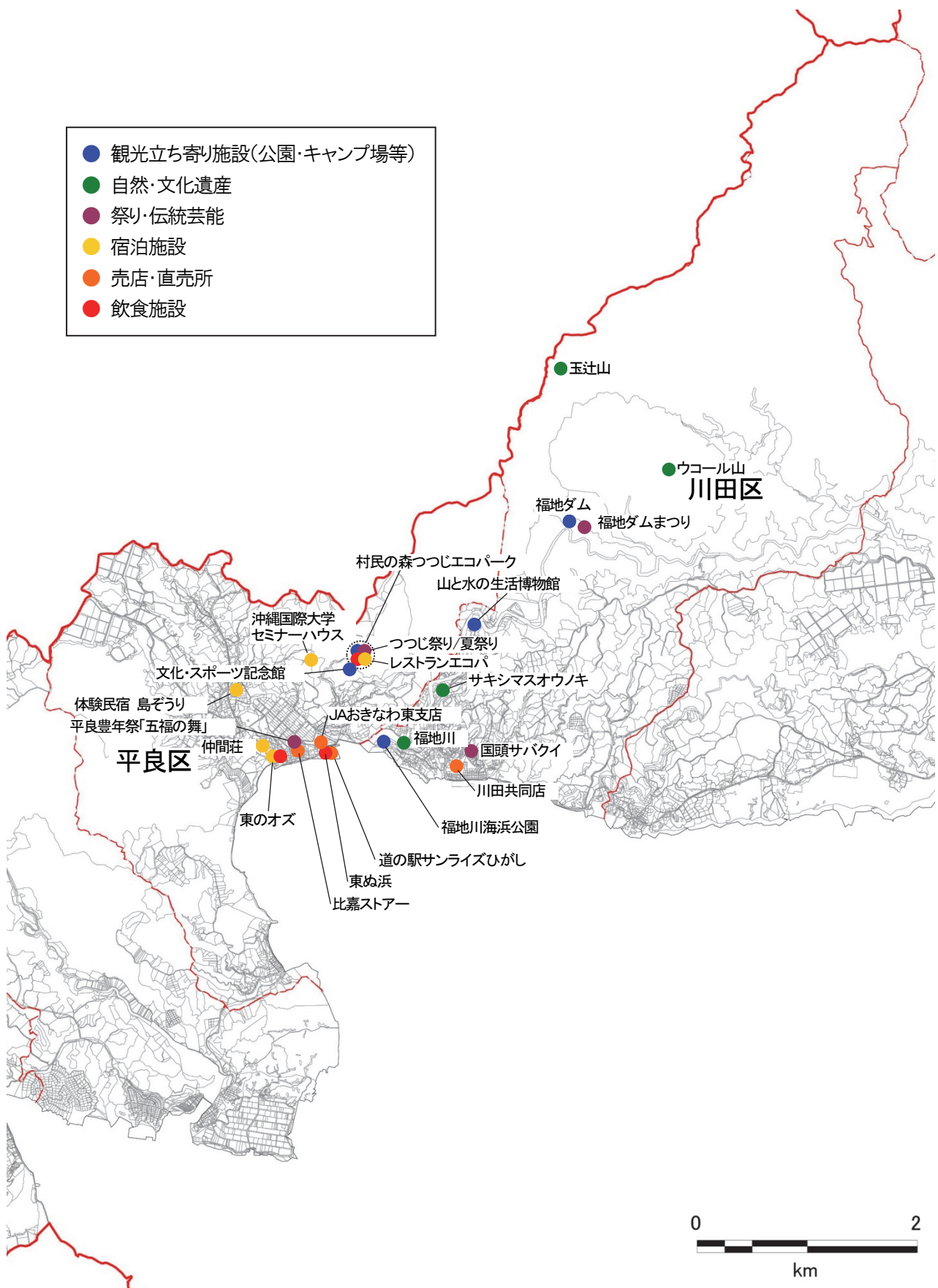
(1) 村内の主な観光施設及び観光資源

村内の主な観光施設及び観光資源は次図・表の通りである。主要な観光施設としては、福地川海浜公園、村民の森つつじエコパーク、道の駅サンライズひがし、ブルーツーリズム体験施設、東村文化・スポーツ記念館等がある。

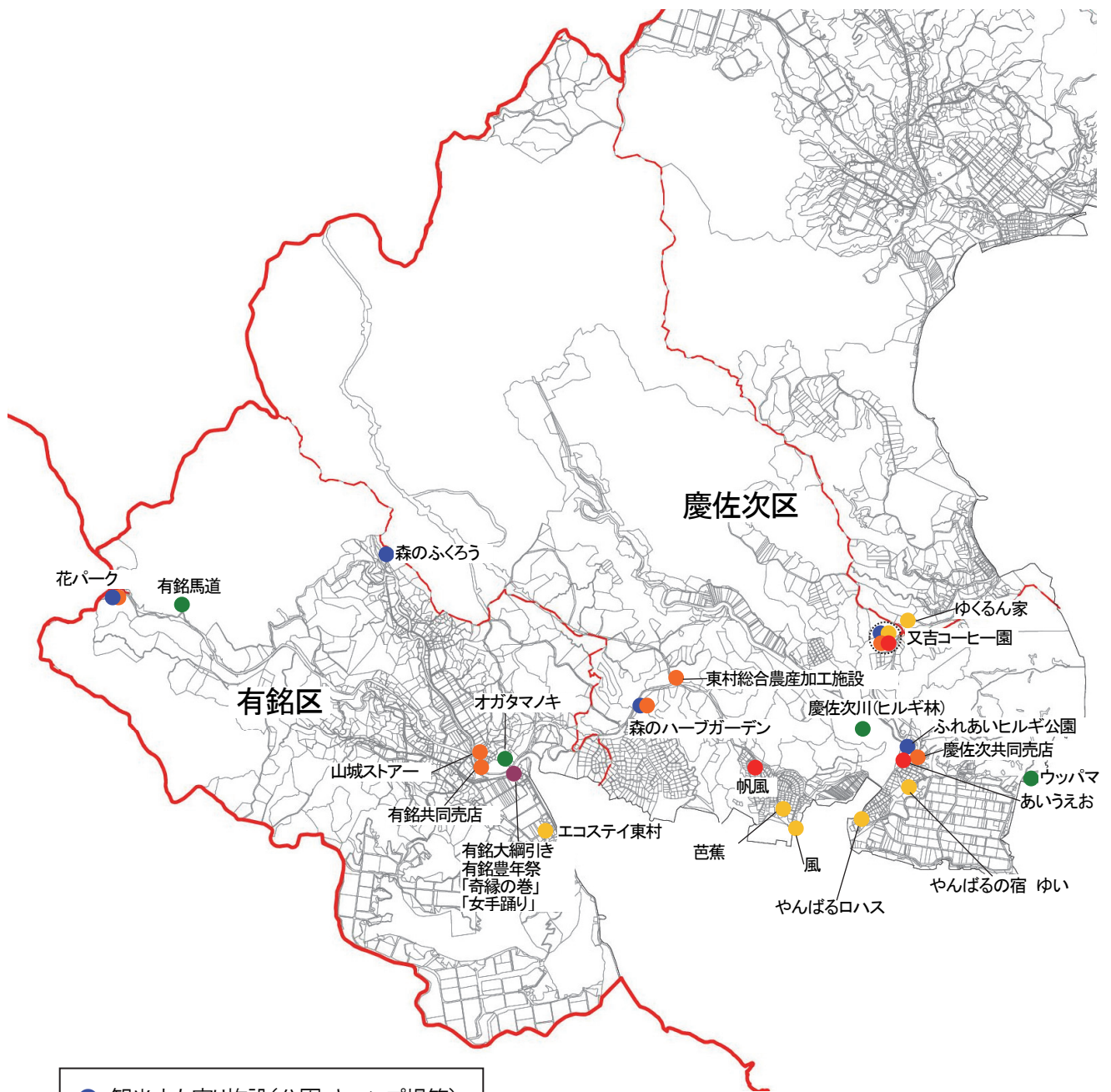
各区における観光施設及び資源等の分布状況(宮城区、高江区)



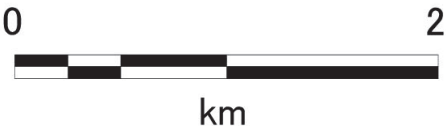
各区における観光施設及び資源等の分布状況(平良区、川田区)



各区における観光施設及び資源等の分布状況(有銘区、慶佐次区)



- 観光立ち寄り施設(公園・キャンプ場等)
- 自然・文化遺産
- 祭り・伝統芸能
- 宿泊施設
- 売店・直売所
- 飲食施設



村内における観光施設等

分類	名称	地区	概要
公園・ キャンプ場	村民の森つつじエコパーク	平良	毎年3月に「つつじ祭り」が盛大に催される「つつじ園」をはじめ、バンガロー、オートキャンプ場、パークゴルフ場、冒険教育施設などがある。
	福地公園	川田	「東村立山と水の生活博物館」に隣接する公園。やんばる船を模した遊具や展望台がある。
	福地川海浜公園	川田	遊泳無料(遊泳期間:4/1～10/31)でハブクラゲ防止ネットあり。温水シャワー／3分間¥200、水シャワー／無料。
	東村ふれあいヒルギ公園	慶佐次	都市との交流を促進するため慶佐次湾のヒルギ林周辺に整備された公園。ヒルギを間近で観察できる木道や展望台が設けられている。
	ブルーツーリズム体験施設	宮城	平成26年度に整備した便益施設。トイレ、更衣室、シャワー、駐車場及び海への階段がある。
	又吉コーヒー園	慶佐次	コーヒーの収穫体験や焙煎体験のほか、広い園内をバギーとジップラインで楽しめるアクティビティがある。キャンプ場あり。
文化施設	東村立山と水の生活博物館	川田	ヤンバルの森を再現したジオラマ、様々な鳥類のはく製、川の生き物の水槽、かつての暮らしや山での仕事の様子を紹介したパネルや写真、ジュゴンの骨格標本などで東村を紹介する。
	東村文化・スポーツ記念館	平良	「東村の輩出した人材を紹介し、人材育成と地域の活性化を図る」をテーマに掲げ、三線の人間国宝の島袋正雄氏、ウエイトリフティングの吉本久也氏、プロゴルファーの宮里兄弟の活躍を祈念した記念館。
ダム施設	新川ダム	高江	二級河川の新川川に昭和52年3月、沖縄初の重力式コンクリートダムとして建設された。周辺の自然は手つかずの状態に残され、数多くの野鳥を視察することができる。駐車場や展望台、オートキャンプ場が整備されている。
	福地ダム	川田	ダムの周囲には展望台や遊歩道があり、山原の豊かな自然を肌で感じながら散歩が行える。資料館では、沖縄の水環境をパネルなどで学べ、ダム湖ではカヌー体験が可能となっている。
レジャー等	ハーブ園「メローグリーンたかえ」	高江	70種類以上のハーブの見学が可能
	紅型工房「染めや」	高江	紅型体験
	沖縄ホースパークアンドシー	高江	乗馬体験
	大泊橋	高江	絶景スポット
	村民の森つつじエコパーク	平良	プロジェクトアドベンチャー、パークゴルフ
	やんばるロハス	慶佐次	乗馬セラピー体験
	又吉コーヒー園	慶佐次	コーヒー収穫体験(11月～5月)、焙煎体験
	どきどきヤンバルランチ	慶佐次	バギー乗車体験、ジップライン体験

分類	名称	地区	概要
	花ぱーく	有銘	野ぼたんやつつじ、芳香木の植栽の見学が可能
宿泊施設	HAPPY coral	高江	一棟貸し(Airbnb)
	やんばる野草の宿	高江	一棟貸し(Airbnb)
	むいの宿	高江	一棟貸し(Airbnb)
	森宿山甌	高江	ペンション
	ペンション&カフェテラス たちがあ	宮城	ペンション
	村民の森つつじエコパーク	平良	バンガロー14棟、PA宿泊棟1棟
	仲間荘	平良	コンテナを利用した個室
	民宿「島ぞうり」	平良	宿泊棟3棟
	東のオズ	平良	2室(Airbnb)
	やんばるロハス	慶佐次	宿泊棟3棟
	又吉コーヒー園	慶佐次	コテージ、キャンピングカー
	やんばるの宿 ゆい	慶佐次	一棟貸し
	ゆるん家	慶佐次	一棟貸し(Airbnb)
	風	慶佐次	一棟貸し(Airbnb)
	芭蕉	慶佐次	一棟貸し(Airbnb)
エコステイ東村	有銘	グランピングポイント、和室棟	
飲食施設	ハーブ園「メローグリーンたかえ」	高江	ハーブティー
	ヒロ・コーヒーファーム	高江	カフェ
	食事処 東ぬ浜	平良	定食、沖縄そば
	レストランエコパ	平良	定食、沖縄 そば(つつじエコパーク内)
	東のオズ	平良	定食
	飲食「あいうえお」	慶佐次	定食
	又吉コーヒー園	慶佐次	カフェ
	帆風	慶佐次	カフェ
	森のふくろう	有銘	定食、居酒屋
売店・直売所	たま木工商店	高江	木工品、家具等
	ハーブ園「メローグリーンたかえ」	高江	ハーブ製品
	伊佐工房	高江	木工品
	魚泊売店	宮城	日用品等
	川田共同店	川田	日用品、弁当、惣菜等
	比嘉ストアー	平良	日用品、惣菜等
	道の駅 サンライズひがし	平良	特産品、農産物等

分類	名称	地区	概要
	森のハーブガーデン	慶佐次	鶏卵、苗木
	慶佐次共同売店	慶佐次	日用品、惣菜、農産物等
	又吉コーヒー園	慶佐次	コーヒー
	有銘共同売店	有銘	日用品、弁当、惣菜等
	山城ストアー	有銘	日用品、弁当、惣菜、農産物等
	トミおばあーの店	有銘	農産物
	高江特産品直売所	高江	日用品、弁当、惣菜等

エコツーリズム体験事業所

やんばる案内人 Tida-Smile/エコツアー puka puka/フォレストひがし/あまんだまん/沖縄ツアー冒険隊/
 やんばるエコフィールド島風/有限会社 やんばる自然塾/株式会社 やんばる.クラブ/東村ふるさと振興株
 式会社/株式会社 eco-adventure 計10営業所

※東村観光推進協議会登録名簿より

村内における自然・文化資源等

名称	地区	内容
シーゾーグムイ	高江	かつて水車を利用した製材所(シーゾー)があったことから命名された。美しい水が流れる渓流沿いには、やんばる固有の植物が生息し、夏場には子どもたちがタナガー(テナガエビ)を捕まえる姿がある。
新川川	高江	水鳥や蝶などの観察ができ、リバー trekking に人気のある川。
夫婦滝	宮城	二つの滝が寄り添って流れている。
ウコール山	川田	福上湖の北側に位置する山で、沖縄戦時に避難小屋や防空壕があった。ウコール山の呼称は、避難小屋跡に残された香炉(ウコール)が由来となっている。
玉辻山	川田	かつて林業で利用した林道や馬道があり、誰でも手軽に登れる山として人気がある。山頂付近は環境保護のため立入禁止である。
福地川	川田	上流に福地ダムを構え、テナガエビやウナギなどの魚やダイサギなどの鳥が観察できる。
川田のサキシマスオウノキ (東村指定天然記念物)	川田	福地川の河口から 800m ほど上流の左手の国有林界にあり、樹高 18m、胸高周囲約 2.9m で、地上から 1m 余りのところから大小 15 枚の板根がみごとな流線型をなしている。
ウツパマ	慶佐次	長さ 1km に及ぶ真っ白な砂が広がる浜で、夏場は多くの海水浴客やキャンプを楽しむ人々で賑わう。
慶佐次川	慶佐次	河口付近は広大なヒルギ林が密集しており、自然観察、木道散策、カヌー体験の場として人気が高い。
有銘馬道	有銘	かつて馬を使って木材等を運搬していた古道。以前、trekking コースとして利用されていた。
有銘のオガタマノキ (東村指定天然記念物)	有銘	字有銘の神山御嶽にあり、高さ約 15m、幹周り約 3m、樹冠約 17m という堂々とした巨木。

村内におけるイベント・行事

名称	地区	内容
つつじ祭り(3月)	平良	3月に村民の森つつじ園にて、4.5ha の敷地に色とりどりのつつじ4万8千本が咲き、日本一早い開花を迎える。様々なイベントが催される。
福地ダムまつり(隔年7月)	川田	自然観察船やカヌー体験等のダム湖を利用したアトラクションやウォータースライダー、工作体験・ダム施設見学が行われる。
夏祭り(8月)	平良	東村村営グラウンドを会場として、音楽ライブや伝統芸能、子どもエイサー、花火などが催される。
産業まつり(8月)	平良	夏祭りとの共催。村営グラウンドを会場に、村内の物産や農作物販売、シーカヤック体験、パインジャム作り体験、セリ体験などが行われる。
豊年祭(9月頃)	各区	農業の豊作や無病息災、地域の発展などを祈願する行事。農業従事者が減った現在は、地域親睦、伝統芸能の保存等の意味合いが強い。各区において3年に一度行われている。
海神祭(旧暦6月)	平良・川田	旧暦の6月26日の豊漁を祈願する行事。ハーリーなどが行われる。
国頭サバクイ(不定期)	川田	木遣り歌の一種で、国頭地方に古くから伝わる労働歌。サバクイとは琉球王朝時代の役職名で、川田のサバクイの歴史は280年になると言われている。村や区の行事・祭り等多くの場所で随時踊られている。
有銘大綱引き(旧暦6月)	有銘	明治25年に始まったとされる有銘区の伝統行事。前原(メーバリ)側と後原(クシバリ)側の東西に分かれて綱引きが行われる。かつては収穫感謝祭の後に行われていたが、現在は3年に一度、収穫感謝祭の前後の日曜日に行われている。
ツール・ド・おきなわ	各区	毎年11月第2土曜、日曜に北部地域で2日間にわたり開催される自転車ロードレース大会。

(2) 世界自然遺産登録に向けた取組

沖縄本島の北部地域に広がるやんばるの森は、国内最大級の亜熱帯照葉樹林として世界的にも数が少なく、また希少な動植物が生息・生育している。やんばるの森の世界自然遺産登録に向けては、平成15年の「世界自然遺産候補地に関する検討会」で、琉球諸島が知床と小笠原諸島とともに、世界自然遺産候補地の一つに選定された。さらに平成25年の「奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会」において、奄美大島、徳之島、沖縄島北部、西表島の4地域が推薦候補地として選定された。令和3年5月に世界遺産委員会の諮問機関である国際自然保護連合が世界自然遺産への登録を勧告したことをうけ、同年7月に開催された第44回世界遺産委員会において、世界自然遺産への登録が正式に決定された。

世界自然遺産登録に向けた経緯

年	内容	年	内容
平成15年	琉球諸島を世界自然遺産候補地に選定	平成29年	国際自然保護連合による現地調査
平成25年	科学委員会で4地域に候補地を絞り込む	平成30年	国際自然保護連合による評価結果の勧告
平成28年	やんばる国立公園の指定	平成31年 令和元年	ユネスコ世界遺産センターへの推薦書の再提出
平成29年	ユネスコ世界遺産センターへ推薦書の暫定版を提出	令和3年	国際自然保護連合による登録の勧告 世界遺産委員会にて登録が決定

出典:「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産候補地」サイト、環境省

1) 世界自然遺産とは

世界遺産は、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」で定義され、人類共通の財産として次世代に引き継いでいくべき遺産として登録されるものである。文化遺産、自然遺産、複合遺産があり、世界自然遺産はその中の一つである。国内では「屋久島」、「白神山地」、「知床」、「小笠原諸島」の4件が登録されている。登録には「顕著な普遍的価値」を有する必要がある、以下の3つの条件を満たす必要がある。

世界自然遺産登録の条件

- 4つの「世界遺産の評価基準(自然遺産)(クライテリア)」の一つ以上に適合すること
- 「完全性の条件(顕著な普遍的価値を示すための要素がそろい、適切な面積を有し、開発等の影響を受けず、自然の本来の姿が維持されていること)」を満たすこと
- 顕著な普遍的価値を長期的に維持できるように、十分な「保護管理」が行われていること

世界遺産の評価基準〈自然遺産〉

評価基準	概要	該当する遺産
(vii) 自然美	最上級の自然現象、又は、類まれな自然美・美的価値を有する地域を包含する。	屋久島
(viii) 地形・地質	生命進化の記録や、地形形成における重要な進行中の地質学的過程、あるいは重要な地形学的又は自然地理学的特徴といった、地球の歴史の主要な段階を代表する顕著な見本である。	
(ix) 生態系	陸上・淡水域・沿岸・海洋の生態系や動植物群集の進化、発展において、重要な進行中の生態学的過程又は生物学的過程を代表する顕著な見本である。	知床／白神山地／小笠原諸島／屋久島

評価基準	概要	該当する遺産
(x) 生物多様性	学術上又は保全上顕著な普遍的価値を有する絶滅のおそれのある種の生息地など、生物多様性の生息域内保全にとって最も重要な自然の生息地を包含する。	知床

出典:「日本の世界自然遺産」サイト、環境省自然環境

2) やんばるの森の価値と3村の取組

ア. 推薦候補地の特徴

「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の4つの推薦地は、世界遺産の評価基準（自然遺産）の「(x) 生物多様性」に該当するとされ、平成31年2月1日にユネスコ世界遺産センターに提出された推薦書において、推薦地の特徴として以下のように記載された。

推薦地の特徴(抜粋)

<ul style="list-style-type: none"> 推薦地は、地球規模で生物多様性保全上の重要性が認識されている日本列島の中でも生物多様性が突出して高い地域の1つである中琉球・南琉球の代表である。推薦地では多くの分類群において種数が多く、また、多数の絶滅危惧種が生息しており、その割合も多い。 さらに、さまざまな固有種の進化の例が見られ、特に、多くの遺存固有種及び／または独特な進化を遂げた種が存在する。 これらの推薦地の生物多様性の特徴はすべて相互に関連しており、中琉球及び南琉球が大陸島として形成された地史を背景として生じてきた。琉球列島の陸生生物は、ユーラシア大陸の近縁の種から分離され、さらに深い海域や黒潮などにより、北琉球、中琉球、南琉球の生物相となってきた。 また中琉球と南琉球では、大陸からの距離や分離時期の違いにより、陸生生物相の種分化と固有化のパターンが異なっている。 このように推薦地は、長期の隔離を伴う大陸島としての形成史を反映して、多数の種や固有種、国際的絶滅危惧種を含む独特な陸域生物の保護において、全体として世界的にかけがえのない高価値な地域であり、独特で豊かな中琉球・南琉球の生物多様性の生息域内保全にとって最も重要な自然の生息・生育地を包含した地域である。
--

出典:「世界遺産一覧表記載推薦書 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島(仮訳)」日本政府、2019年1月

イ. やんばる3村の取組

やんばる国立公園の位置する3村(国頭村、大宜味村、東村)では、平成29年に「やんばる3村世界自然遺産推進協議会」を設立し、世界自然遺産登録に向けて連携を図っており、令和元年以降の主な取組として以下のようなことに取り組んできた。世界自然遺産の登録後においても、3村で引き続き連携を図っていく必要がある。

やんばる3村世界自然遺産推進協議会の主な取組(令和元年以降)

取組	概要
やんばる3村ルール&マップ	3村内を散策する際に守ってほしいルールと地図を掲載した冊子
登録ガイド講習会	やんばる3村内にてガイド事業を行う人を対象とした講習会
企業連携	<ul style="list-style-type: none"> キリンビール(株)沖縄支社:応援デザイン缶販売・売上一部寄附 全日本空輸(株)(ANA):外来種の駆除活動 日本旅行業(JATA)沖縄支部:謝敷海岸における海浜清掃活動 (株)沖縄ポッカコーポレーション:応援パッケージのペットボトル売上一部寄附 よしもとエンターテインメント沖縄:アートフェスティバルでの売上一部寄附 日本航空(株)JALグループ(JTA):大宜味村田嘉里区にて外来種防除を実施

出典:「国頭村」サイト、やんばる3村世界自然遺産推進協議会の取組ページ

(3) 広域連携の取組

本村における近年の広域連携の取組として、「ヤンパク」と「「やんばるの歴史・文化・自然」周遊促進事業」がある。新型コロナウイルス感染症により多大な影響を受けた観光の振興や、やんばるの森の世界自然遺産登録を受けて、第3次観光振興計画においても広域連携に取り組んでいく必要がある。下記にそれぞれの取組の概要をまとめる。

1) ヤンパク

ア. 経緯・目的

平成20年から子ども農山村交流プロジェクトに取り組み、「やんばる交流推進連絡協議会」を軸とした連携体制が確立されてきたが、さらに一体的に取り組むため「農山漁村交流拠点整備事業」において、「合同会社くにながみ(国頭村)」「NPO法人おおぎみまるとツーリズム協会(大宜味村)」「NPO法人東村観光推進協議会(東村)」の3村で連携した農家民泊の受入体制「ヤンパク」が構築された。

イ. ヤンパクでの取組

受入窓口の一元化

- 農家民泊の受入窓口をひとつにまとめたことで、3村共同で農家民泊事業を行えるようになった。3村の連携により、大型校の受入も可能になる等、受入体制が充実した。
- 3村の連携により農家民泊前後に「自然体験」「環境保全活動」「伝統文化体験」の3つをテーマとして、様々なプログラムが実施されている。

2) 「やんばるの歴史・文化・自然」周遊促進事業

ア. 経緯・目的

北部広域市町村圏事務組合が進める本業務は、令和元年度の「沖縄北部観光推進整備検討事業」で取りまとめた北部観光における課題をふまえ、北部地域全体に観光客の周遊や消費を促し、持続可能な観光地の形成に向けて調査・検討を行うものである。2020年6月～2022年3月を3つの期間(令和元年度、令和2年度、令和3年度)に分けて進められている。

イ. 事業内容(抜粋)

周遊ルートの商品開発・PR

- 令和元年度は主に北部の周遊・消費を促すルート案が検討され、令和2年度はインフルエンサーをモニターツアーに招聘し、観光スポットの魅力や改善点の取りまとめが行われた。

やんばるのロゴデザイン・PR

- 今後、多様な魅力をもつ北部地域全体を統一したブランドを確立していくことが求められることから、やんばる(12市町村)全体のイメージデザインとなるロゴデザインが製作された。

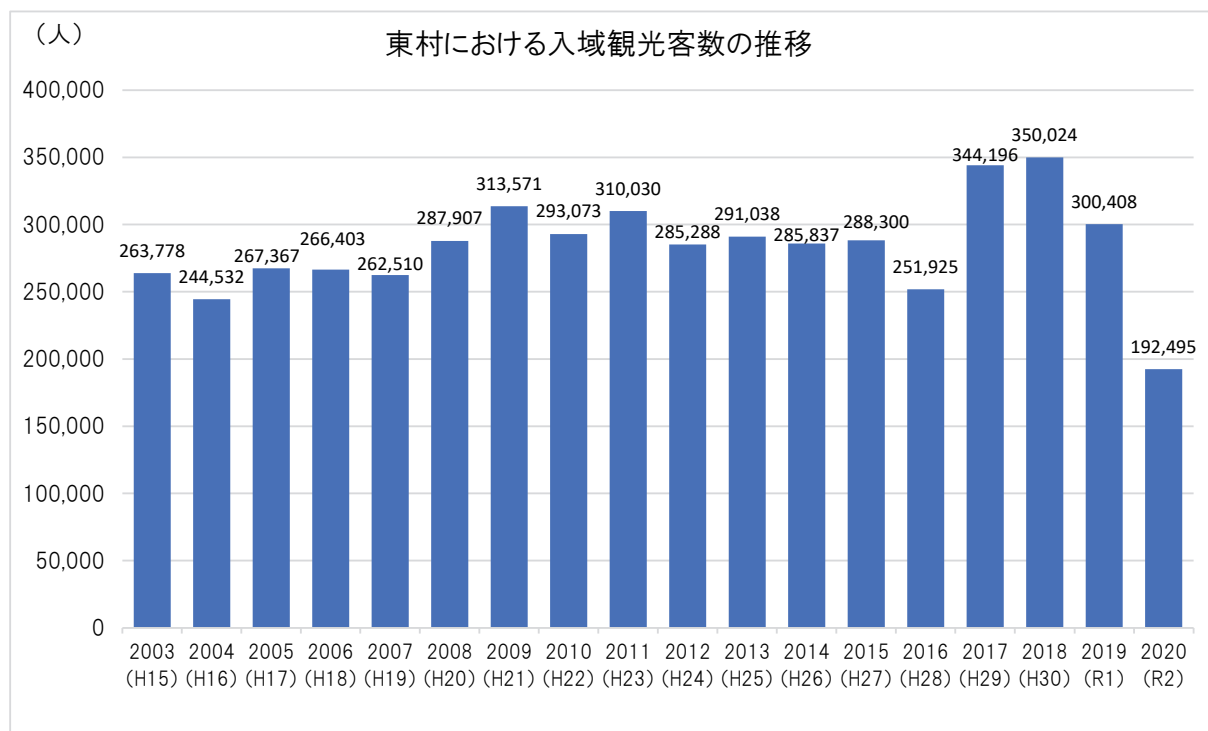
多言語ガイドに関する調査検討

- 令和元年度はガイドに関する基礎的な情報の収集、令和2年度はモニターツアーへのガイド参加や観光情報Webサイト「沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト」内でのガイドの情報登録及び情報発信が行われた。

7-3. 東村の観光動向

(1) 東村における入域観光客数の推移

東村における入域観光客数の推移は、平成 23 年度の東日本大震災以降減少傾向にあったが、平成 27 年度に福地川海浜公園が整備されたこと、平成 28 年度にやんばる国立公園に指定されたこと、民間観光施設の充実等から平成 30 年度には年間約 35 万人が訪れた。令和元年度及び令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少した。



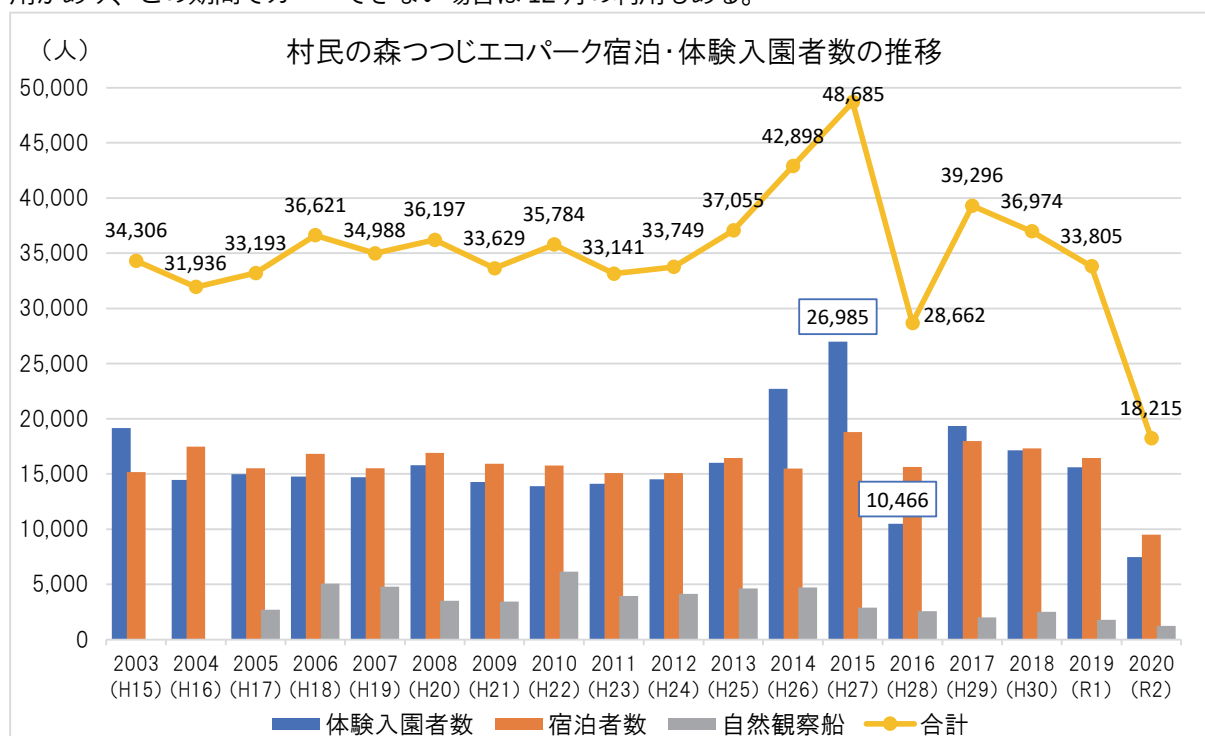
出典:村勢要覧

(2) 村民の森つつじエコパーク宿泊・体験入園者数の推移

平成14年に開園した村民の森つつじエコパークは、つつじ園をはじめ、バンガロー、オートキャンプ場、パークゴルフ場、冒険教育施設などを備えた体験型の自然公園として、家族連れでも楽しめる施設が整っている。

宿泊者数は新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和2年度を除き、毎年15,000人前後で推移している。一方、体験入園者数は年によって差が大きく、特に平成27年度は26,985人であったのに対し、平成28年度は毎年実施されていた他市町村の「エコアイランド・キャリア教育事業」が村内で行われなかったことや、パークゴルフ場が工事により半年間ほど使用できなかったこともあり10,466人と大幅に減少している。自然観察船の利用者数についても近年は減少傾向にある。

月別入域観光客数をみると、1～2月は閑散期で個人客も含め利用が少ない。4月～11月頃は団体・個人客ともに利用が増え、夏休み期間の7月～8月は個人客の利用が増える。5月～11月は修学旅行での利用があり、この期間でカバーできない場合は12月の利用もある。



出典：東村企画観光課データ

※体験入園者数はPAプログラム、パークゴルフ、体験イベント(カヌー体験、海水浴、バナナボート、博物館等施設見学、野外炊飯、川遊び)の合計。

※宿泊者数はキャンプ場、バンガロー、PA宿泊棟の合計。

つつじエコパークの月別入域観光客数(令和元年) (人)

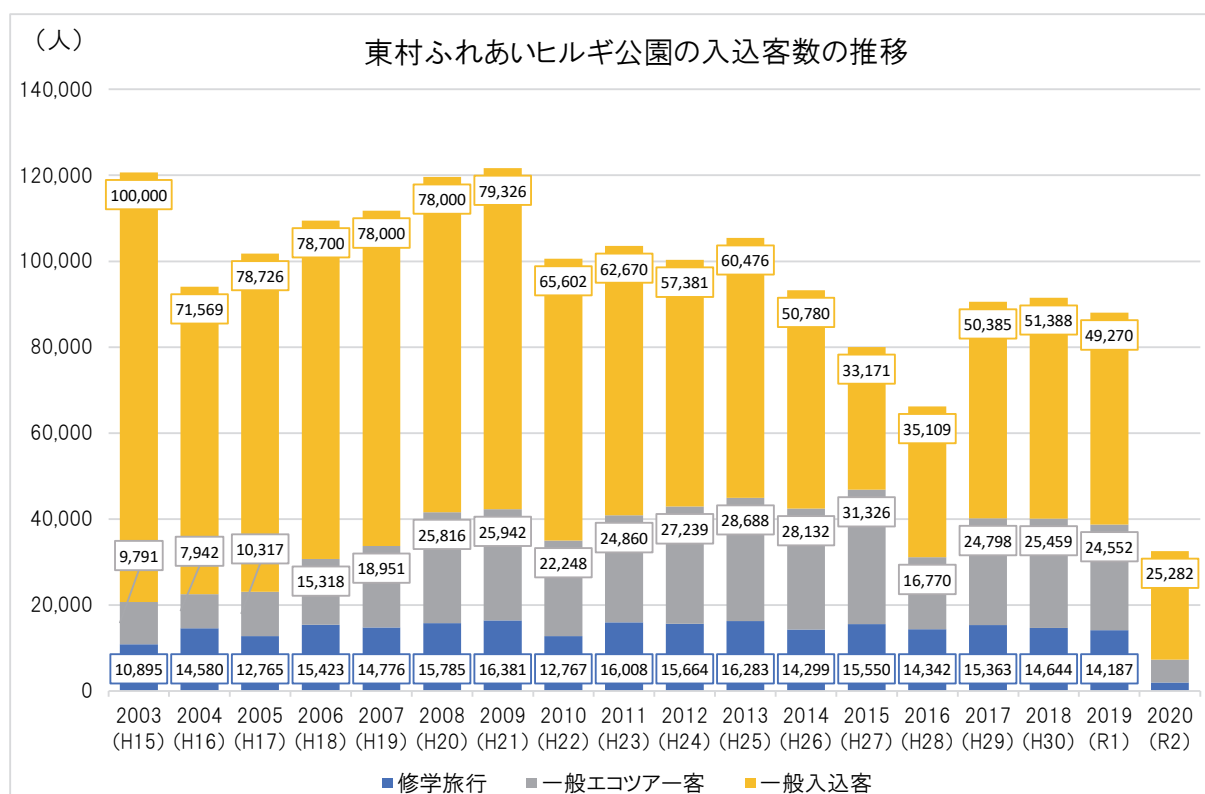
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2,109	1,725	4,708	3,818	6,329	6,403	5,882	6,087	8,527	6,410	7,852	2,639

出典：東村企画観光課データ

(3) 東村ふれあいヒルギ公園の入込客数の推移

慶佐次湾のマングローブ林は、沖縄本島では最も広く、本島で見られる4種類のマングローブ植物のうち3種類が見られる。中でもヤエヤマヒルギは、ここが分布の北限地である。また、国の天然記念物にも指定されている。

東村ふれあいヒルギ公園の一般入込客数は平成16年度から平成21年度まで増加傾向にある。しかし、平成22年度からは減少傾向にあり、平成27年度には約33,000人まで減少したが、現在は約50,000人まで回復した。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で大幅に減少した。一般エコツアー客は平成15年度から増加傾向にあり、近年は約25,000人を維持している。修学旅行も同様に約15,000人を維持しており、安定的な受入れを行っている。



出典:村勢要覧

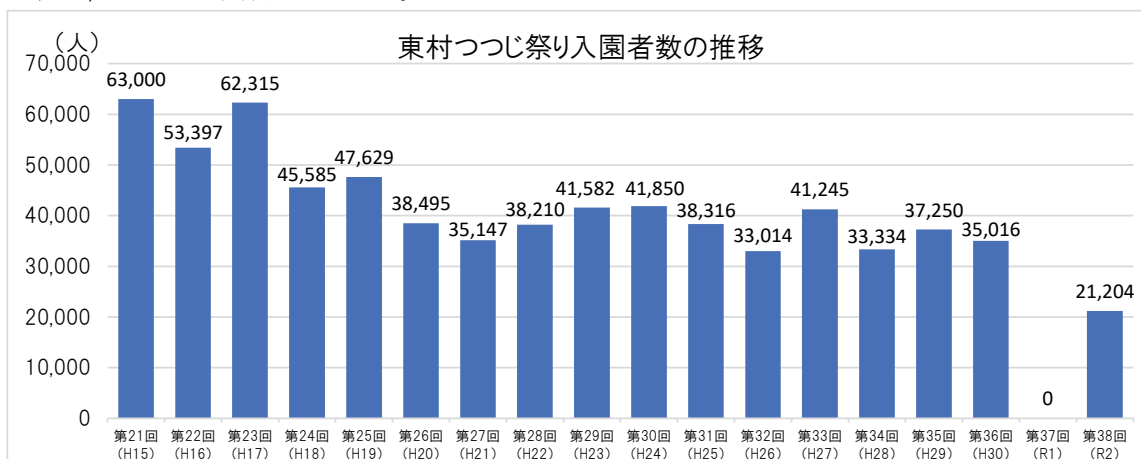
東村ふれあいヒルギ公園の月別入域観光客数(令和元年) (人)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
3,168	3,149	5,240	3,522	3,978	2,353	4,414	4,760	4,257	7,434	6,950	5,170

出典:東村企画観光課データ

(4) 東村つつじ祭り入園者数の推移

「東村つつじ祭り」は、昭和 58 年（1983 年）に村の活性化を図るために始まり、令和 2 年度で第 38 回を迎える。平成 17 年度以降入場者数は減少しているが、およそ 35,000 人～40,000 人の間で推移している。令和元年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、園内でのステージイベントや飲食物の出店を行わないこと等の対策のもとで開催し、21,204 人の入園者数となった。

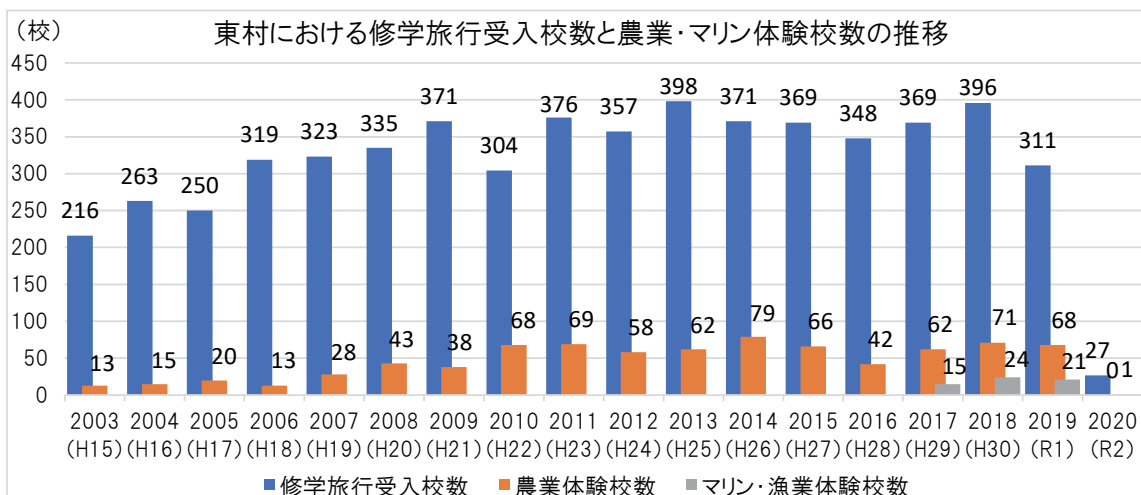


出典:村勢要覧

(5) 東村における修学旅行受入校数と農業・マリン体験校数の推移

第 5 次東村総合計画（平成 28 年策定）では、「ひと・むら・自然が共生する 未来に輝く農村をめざして」をキャッチフレーズに、エコツーリズム、グリーン・ツーリズム、ブルーツーリズム等の地域資源を活用した持続可能な事業推進のさらなる展開を目指している。

修学旅行の受入校数、農業体験校数ともに平成 15 年度より増加傾向にある。特に農業体験校数は毎年 70 校前後を受け入れており安定した実績となっている。また、農業体験校数のうち約 3 割の学校がマリン・漁業体験を実施している。修学旅行受入校数は、令和元年度の年度後半に発生した新型コロナウイルス感染症の影響により減少したと考えられる。



出典:村勢要覧、沖縄県「各年修学旅行入込状況調査の結果について」

(6) 村における案内ガイドの人数

各事業所への聞き取りによって把握した令和3年5月時点の村における案内ガイドの人数は34名であり、エコツアーのガイドが主である。また、令和元年度に東村エコツーリズム部会で行われた研修は下表のとおりである。定期的に行われている研修として、エコ・レスキュー講習が月1回実施されており、その他にも世界自然遺産の研究会・勉強会や森林ツーリズムの登録認定ガイド講習が実施されている。

東村エコツーリズム部会研修一覧(令和元年度)

分類	回数
エコ・レスキュー講習	計12回(カヤックの基本操作、安全ルールの見直し、セルフレスキュー、野外救急法等)
森林ツーリズム関連	計3回(登録ガイド講習、登録認定ガイド講習、屋久島視察)
世界自然遺産研究会	計14回(研究会、ドコモの携帯電波圏調査への協力、ミス沖縄招待ツアー等)
その他研修会	計5回(普通救急講習、RESCUE-3(群馬県)、第1回・第2回世界自然遺産勉強会、野鳥等の勉強会)

出典:東村企画観光課データ

(7) 観光事業者数と雇用者数

村における観光事業者数と雇用者数について、平成25年と令和3年5月を比較すると事業者数は増加している一方で、雇用者数は減少している。ただし、加工施設の影響が大きく、その他の業種はほぼ横ばいである。業種の傾向をみると体験事業者等では、雇用者数は1人しか増加していないが、事業者数は6事業者増加しており、新規参入が活発だとみられる。また、コロナ禍前後で比較すると、現段階においては、コロナの影響による事業者や雇用者数の減少はみられなかった。

観光事業者数と雇用者数(令和3年5月)

(事業者/人)

	平成25年時点		令和3年5月現在		備考
	事業者数	雇用者数	事業者数	雇用者数	
体験事業者等	13	78	19	79	
飲食店等	8	20	9	25	
観光農園等	3	16	0	0	H25の事業者は現在営業していない。
物販	7	15	9	23	
計	31	129	37	127	

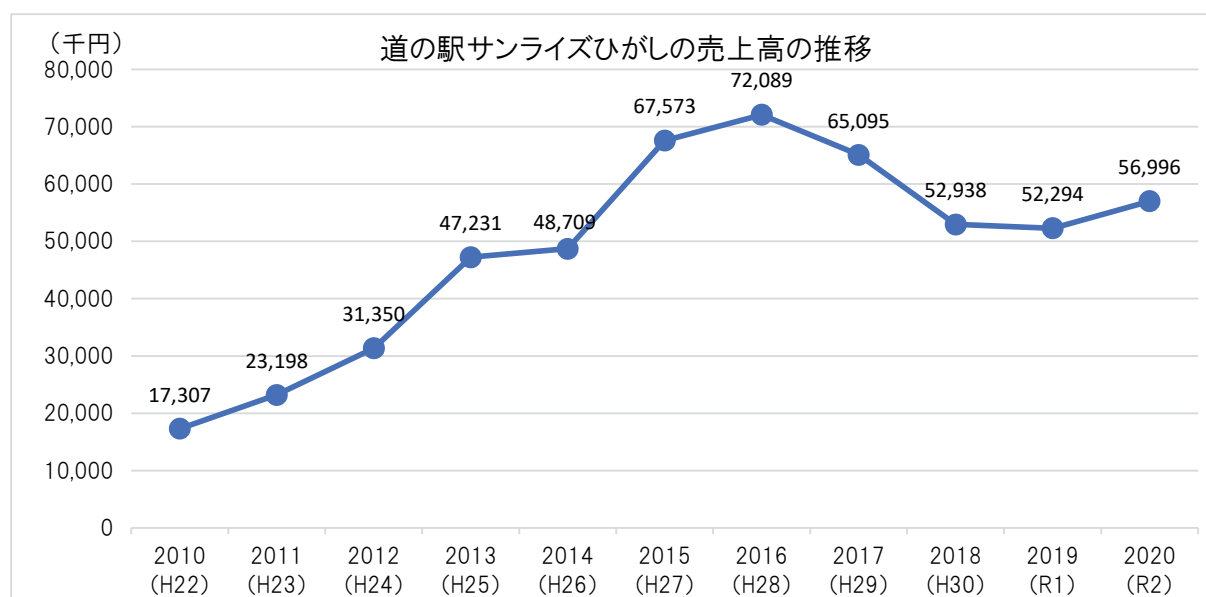
出典:東村企画観光課データ

（８）道の駅サンライズひがしの売上高の推移

村の観光施設として、東村の特産品が購入できる「道の駅サンライズひがし」がある。施設には特産品直売所の他に、レストランと特産品加工所が併設されている。特産品直売所では、村が生産量日本一を誇るパインアップルをはじめ、パインアップルを使用したジャムやソースなどの加工品、地元の農産物が販売されている。

「道の駅サンライズひがし」の売上高については、パインアップルの出荷量（特にゴールドバレル）に比例する傾向がみられる。平成28年度の売上高が高いのは、ゴールドバレルの出荷量が例年に比べて多かったことが要因であると考えられる。

同様の理由で、令和2年度においても売上高の増加傾向がみられた。コロナ禍であっても、休業中の4月、5月を除く月はおおよそ前年度並みであり、夏場は前年度を超える売上高であった。



出典：東村企画観光課データ

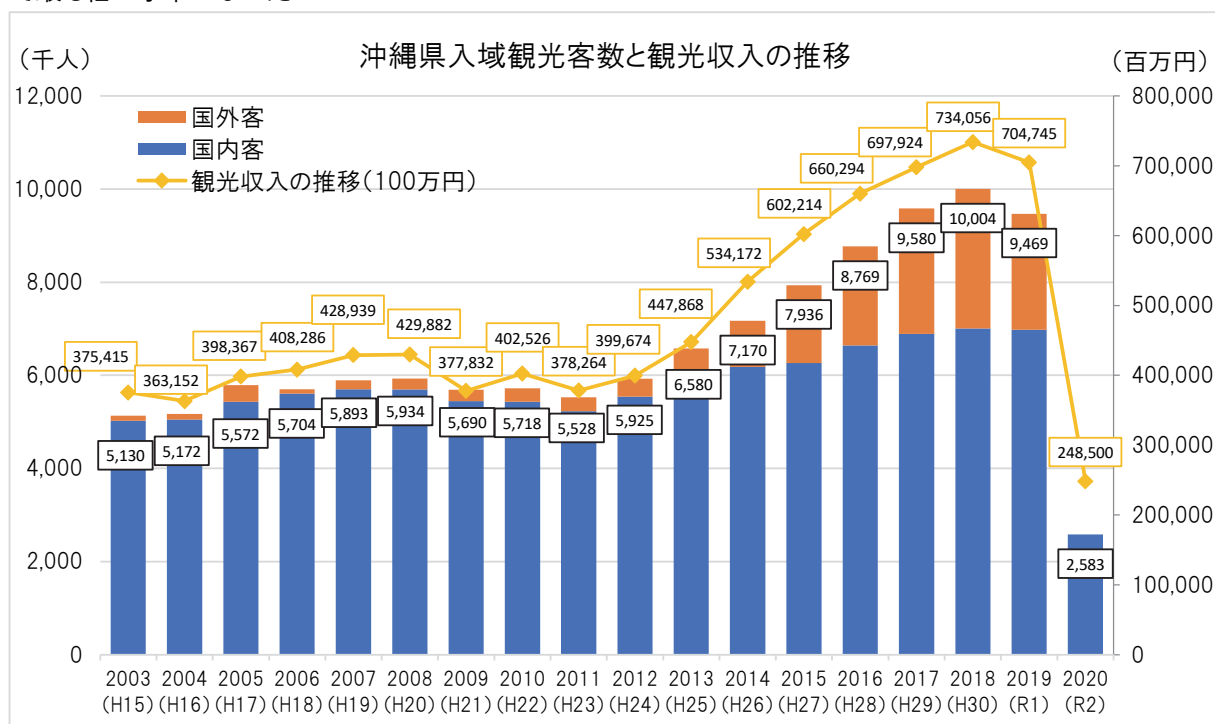
7-4. 沖縄県の観光動向

(1) 国内客の動向

1) 入域観光客数と観光収入の推移

沖縄県の入域観光客数は平成30年度に1,000万4,300人となり、6年連続で過去最高を更新した。景気回復基調が継続したことにより、全体として国内旅行需要が高まっていること、那覇空港国内線・国際線ターミナルの連結に伴うLCC施設の移転による利便性向上等により、観光客の増加が見込まれていた。令和元年度は4月～12月までは順調であったが、年度後半からの新型コロナウイルス感染症の影響により、国内旅行需要が低下し、令和2年度は258万3,600人と大幅に減少した。

観光収入の推移についても同様で、平成30年度までは好調であったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、観光収入の試算値が2,485億円となり、年度での統計をはじめた平成18年度以降で最も低い水準となった。



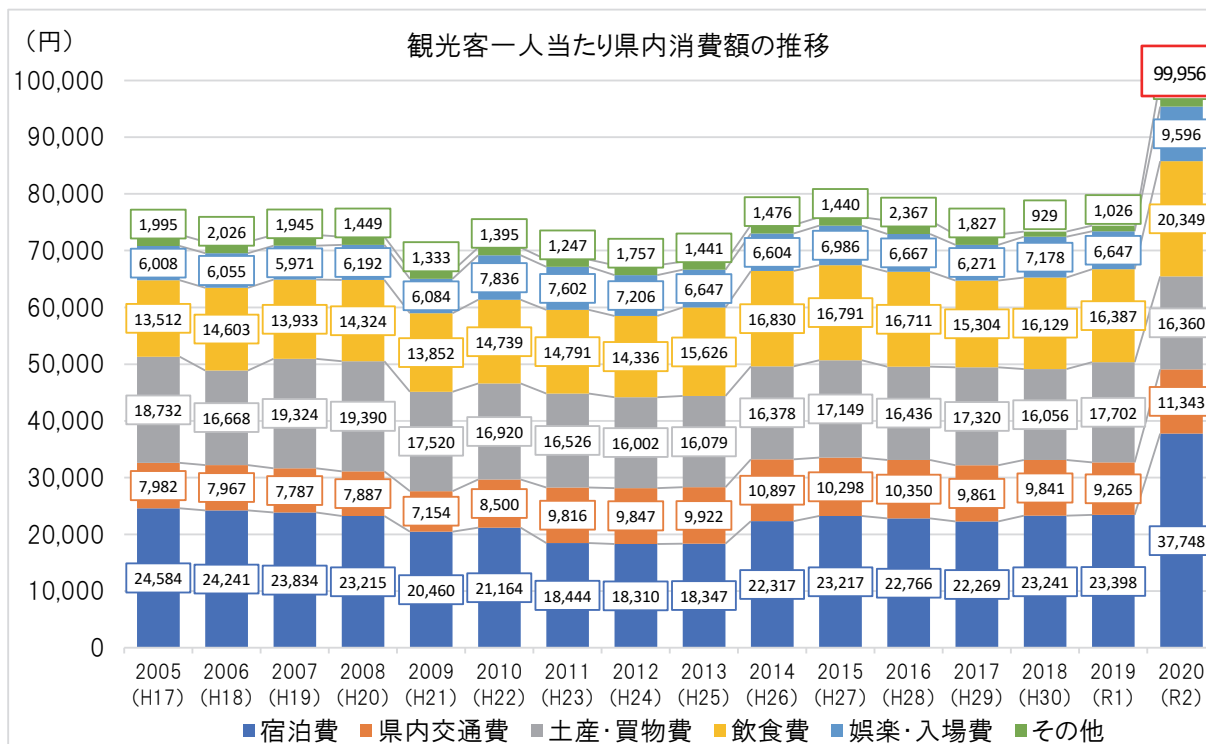
出典：沖縄県「令和元年度版観光要覧」

※令和2年度の観光収入は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年4～6月期、7～9月期の調査を中止しており、令和元年度同時期の消費単価を用いて算出した試算値。

※観光収入は、平成17年度までは暦年の数値、平成18年以降から年度の数値となっている。

2) 観光客一人当たりの県内消費額の推移

観光客一人当たりの県内消費額の推移は、平成29年度から微増傾向にあり、令和元年度は74,425円であった。しかし、令和2年度は25,531円増加の99,956円と34.3%の増加率となっており、年度での統計をはじめた平成18年度以降で最も高い水準となった。



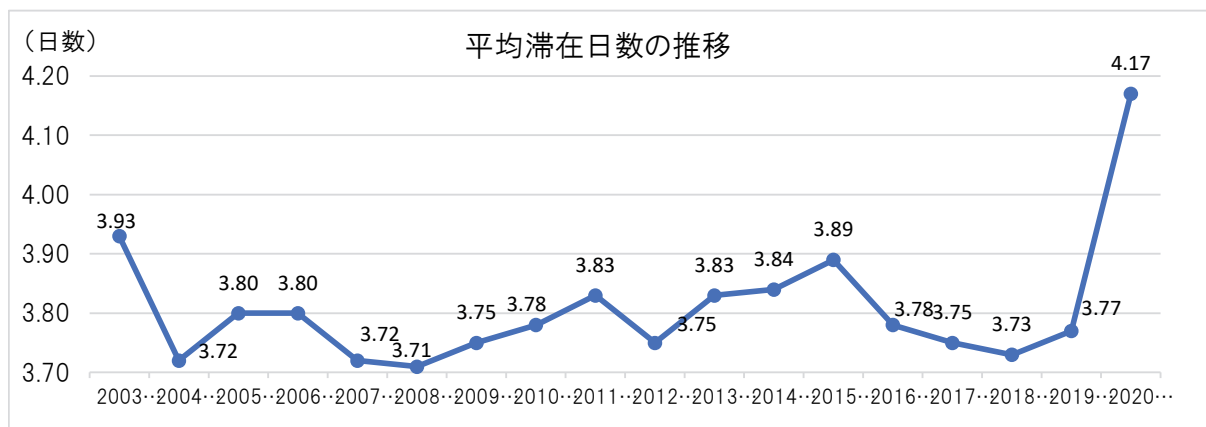
出典：沖縄県「各年度観光統計実態調査」

※四半期毎の入域観光客数をウェイトとしてサンプルに重みづけを行う加重平均を四捨五入しているため、総額が一致しない場合がある。

※令和2年度は、令和2年10-12月期、令和3年1-3月期の調査によるもの。

3) 平均滞在日数の推移

令和2年度の平均滞在日数は4.17日である。近年の平均滞在日数はおよそ3.70~3.90日であったが、令和2年度は大幅に上昇した。

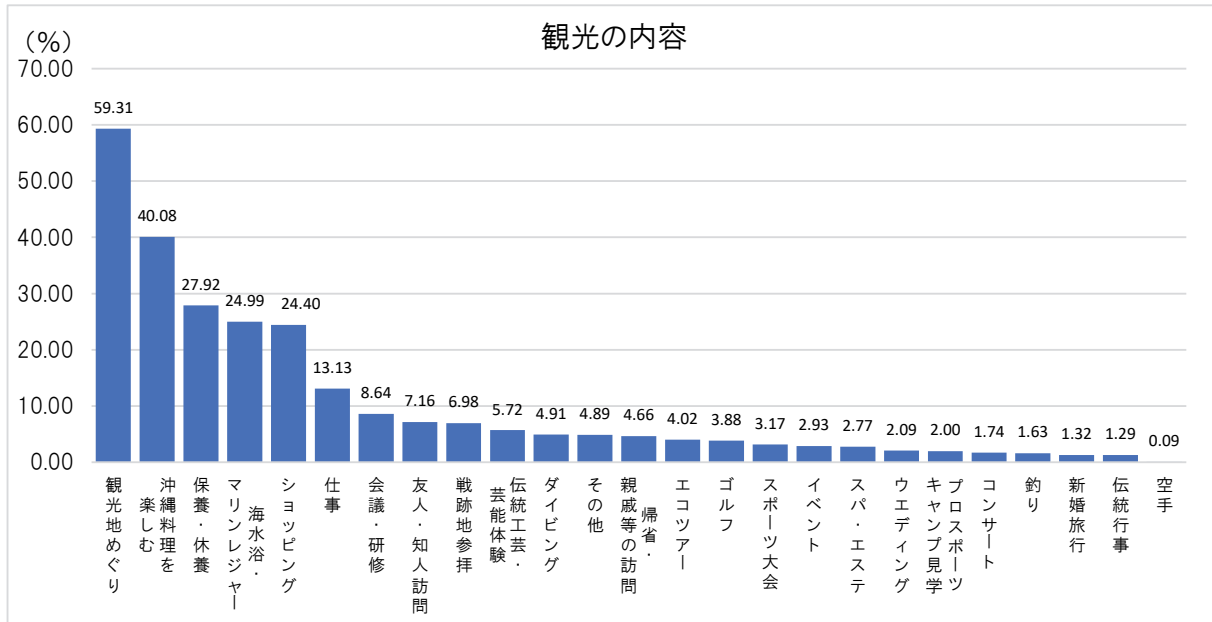


出典：沖縄県「観光統計実態調査」

※令和2年度は、令和2年10-12月期、令和3年1-3月期の調査によるもの。

4) 観光の内容

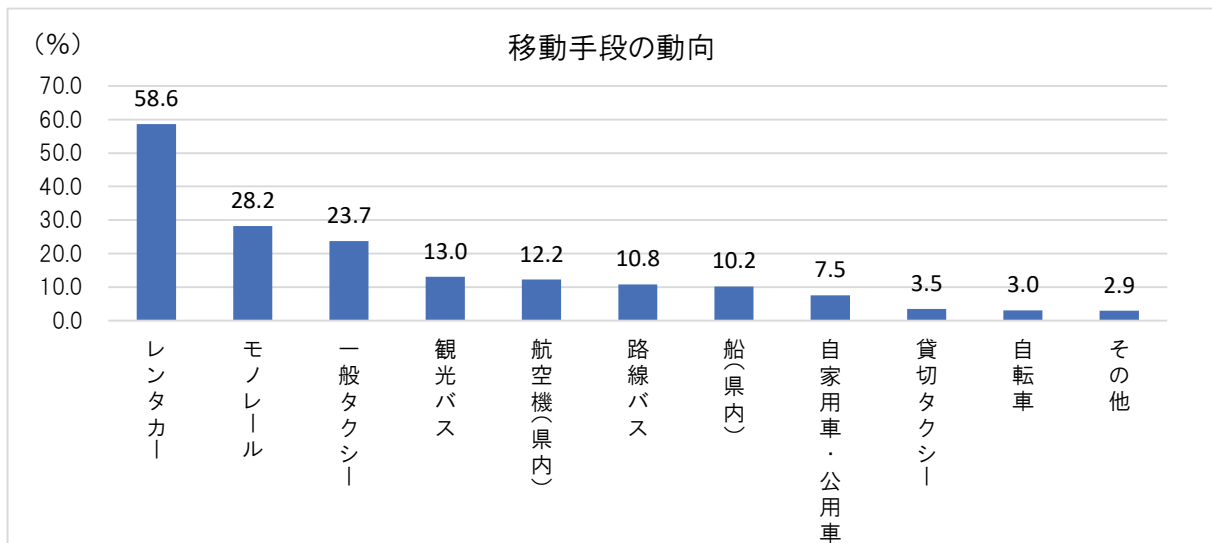
令和元年度における観光の内容としては、「観光地めぐり」が59.31%と一番高く、「沖縄料理を楽しむ」が40.08%と二番目に高くなっている。また、訪問回数別の観光の内容としては、訪問回数が多い観光客ほど「観光地めぐり」の割合が低くなる傾向にあり、「保養・休養」の割合が高くなる傾向がある。



出典: 沖縄県「令和元年度観光統計実態調査」
※複数回答。

5) 移動手段の動向

観光客の移動手段の動向をみると、「レンタカー」が58.6%と最も多く、「モノレール」が28.2%と二番目に多い。「路線バス」は10.8%にとどまっておき、多くの観光客が公共交通機関ではなくレンタカーで移動していることがわかる。

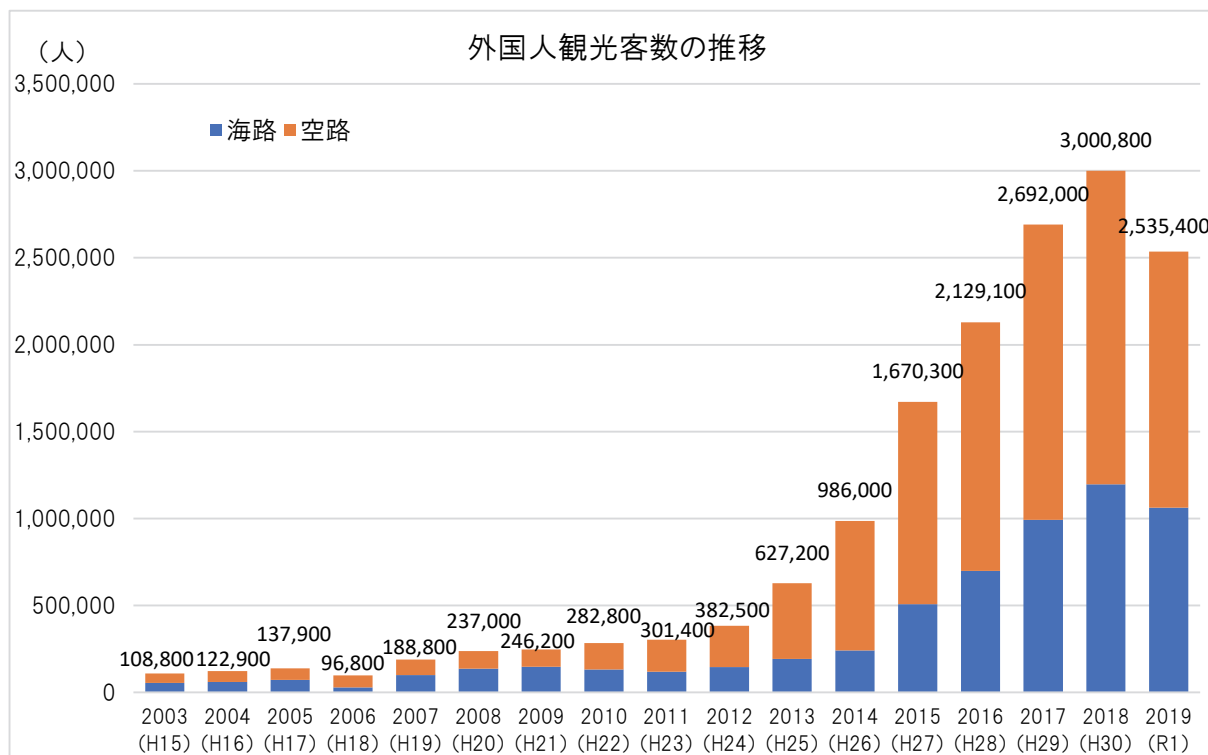


出典: 沖縄県「令和元年度版観光要覧」
※複数回答。

(2) 外国人観光客の動向

1) 外国人観光客数の推移

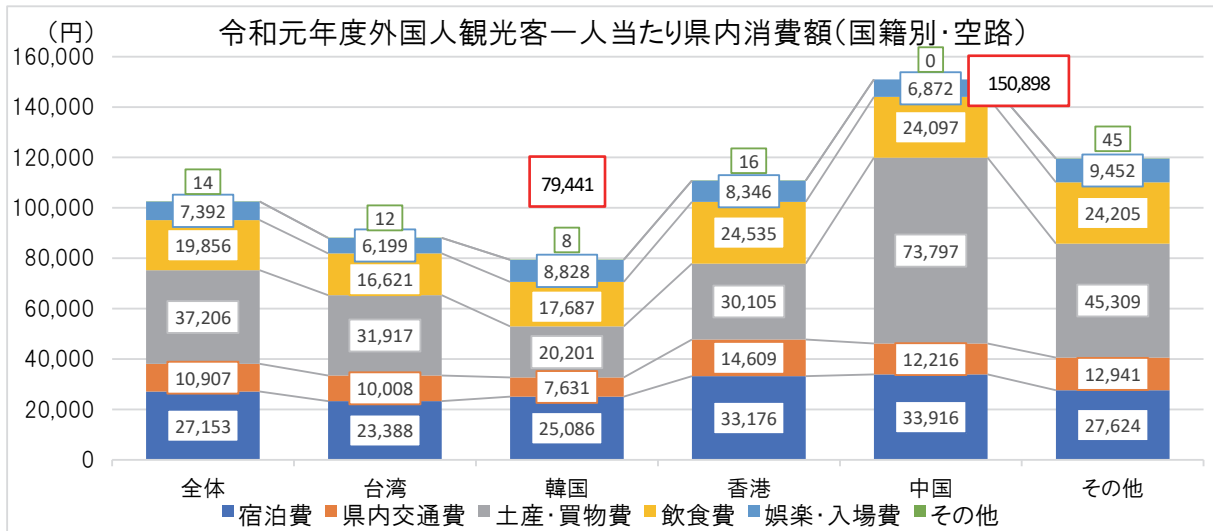
外国人観光客数については、訪日旅行の人気に加え、沖縄発着航空路線の新規就航及び既存路線の増便や、クルーズ船寄港回数の増加により毎年増加していた。しかし、令和元年度は年度後半からの新型コロナウイルス感染症の影響で、航空路線の減便やクルーズ船の寄港回数の減少により、約250万人と平成30年度を下回った。



出典: 沖縄県「令和元年度版観光要覧」

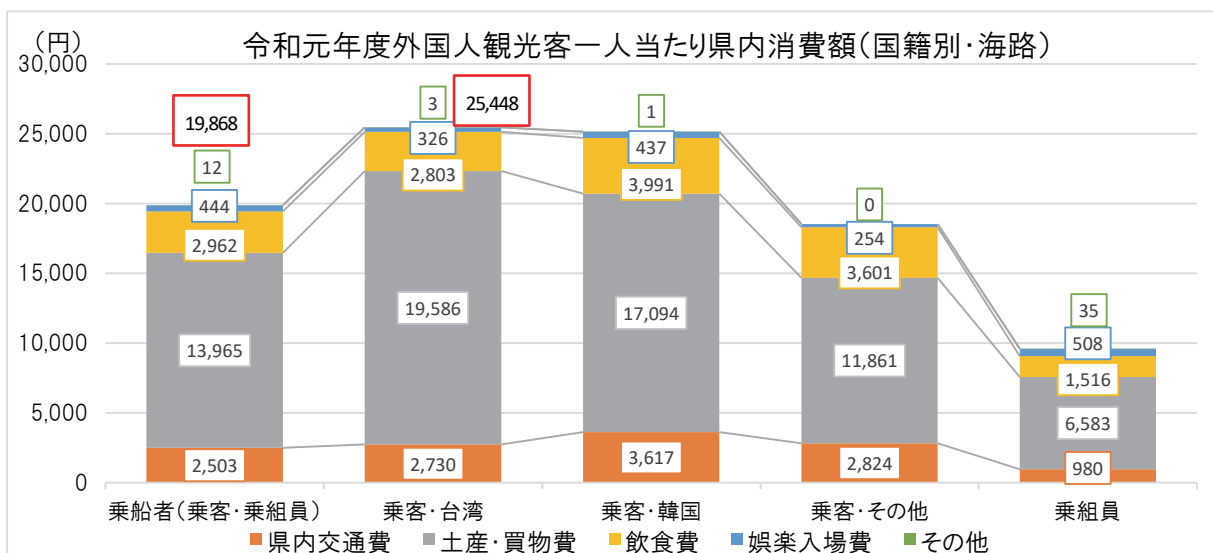
2) 外国人観光客一人当たりの県内消費額（国籍別・空路）

令和元年度の空路での外国人観光客一人当たりの県内消費額は、中国が150,898円と最も高く、韓国が79,441円と最も低くなっている。中国と韓国を比較すると「娯楽・入場費」を除く全ての費目で中国の消費額が高くなっているが、特に「土産・買物費」が73,797円と最も高く、韓国と約5万円の差がある。



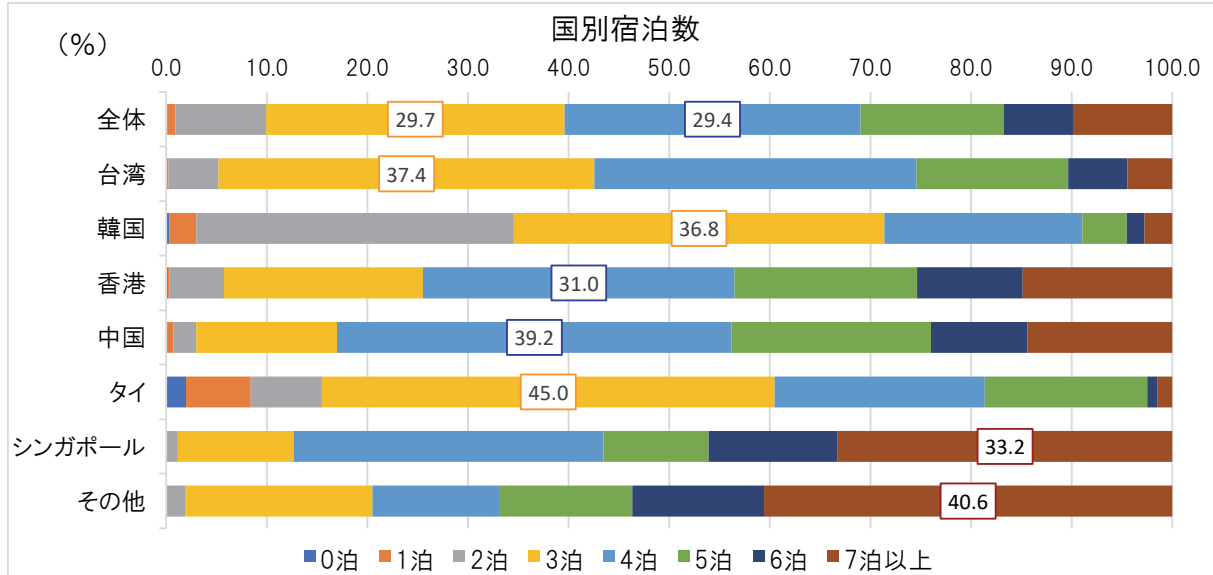
3) 外国人観光客一人当たりの県内消費額（国籍別・海路）

令和元年度の海路での外国人観光客一人当たりの県内消費額は19,868円で、中でも台湾が25,448円と最も高くなっている。海路で訪沖する外国人観光客は「土産・買物費」の消費が高く、特に台湾が19,586円と最も高くなっている。



4) 国別の宿泊数

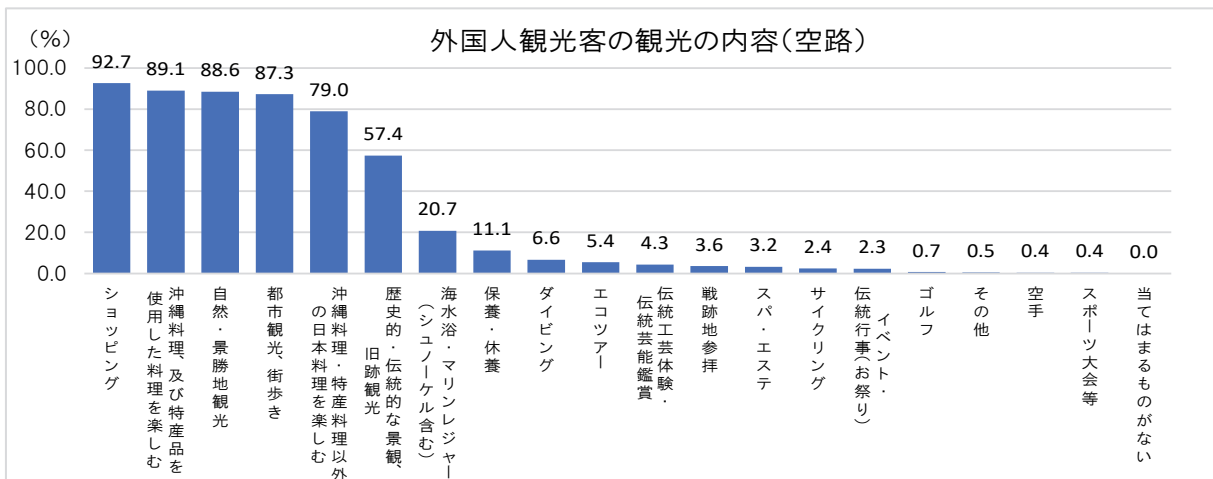
令和元年度における外国人観光客の宿泊数をみると、全体では3泊と4泊がそれぞれ約29%とほぼ同じ割合になった。しかし、国別で見ると、台湾、韓国、タイは3泊が最も多く、香港、中国は4泊が最も多い。また、シンガポール、その他は7泊以上が最も多く、それぞれの国で傾向が異なっている。



出典: 沖縄県「令和元年度外国人観光客実態調査報告書」
 ※グラフ中では各国で最も高い割合の数値を記載した。

5) 外国人観光客の観光の内容(空路)

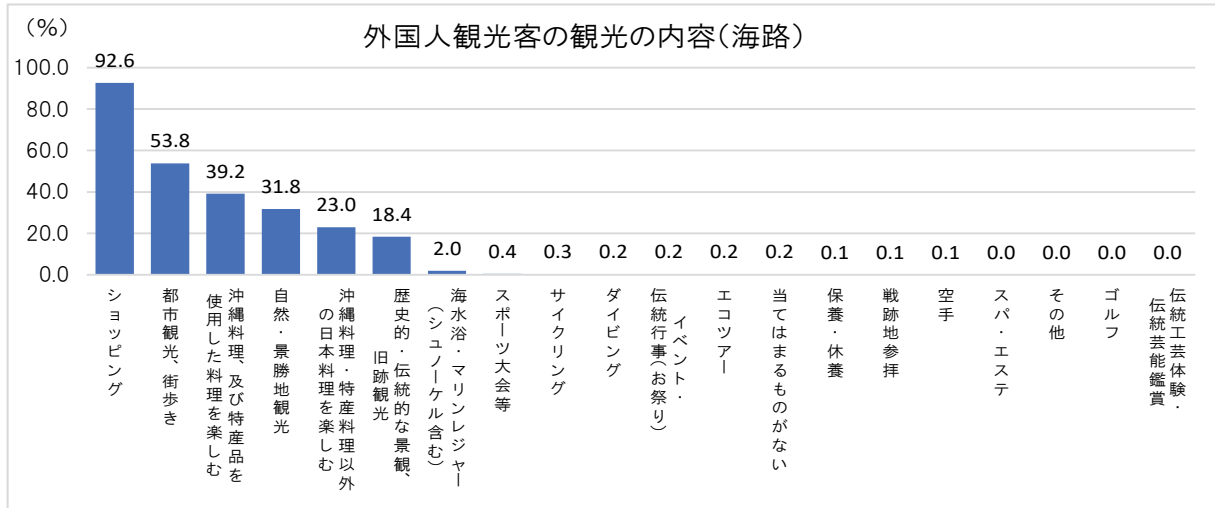
空路からの外国人観光客の観光の内容については、「ショッピング」が92.7%と最も高くなっており、次いで「沖縄料理、及び特産品を利用した料理を楽しむ」が89.1%、「自然・景勝地観光」が88.6%、「都市観光、街歩き」が87.3%となっている。



出典: 沖縄県「令和元年度外国人観光客実態調査報告書」
 ※複数回答。

6) 外国人観光客の観光の内容(海路)

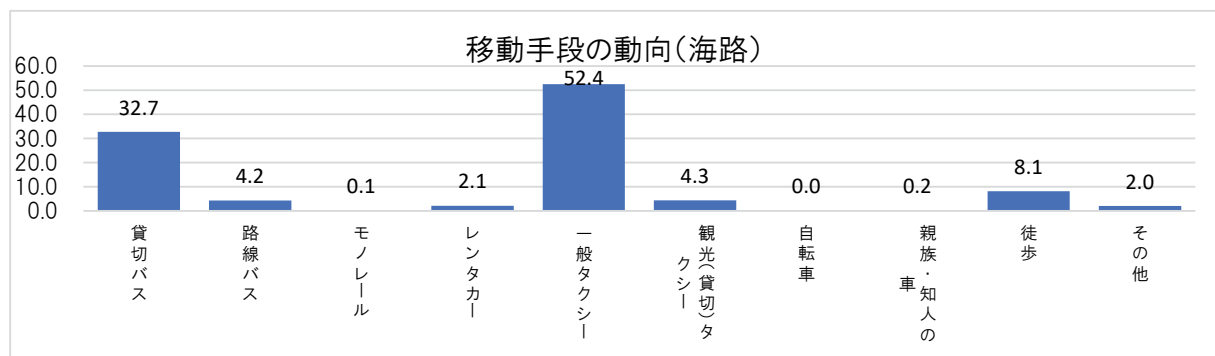
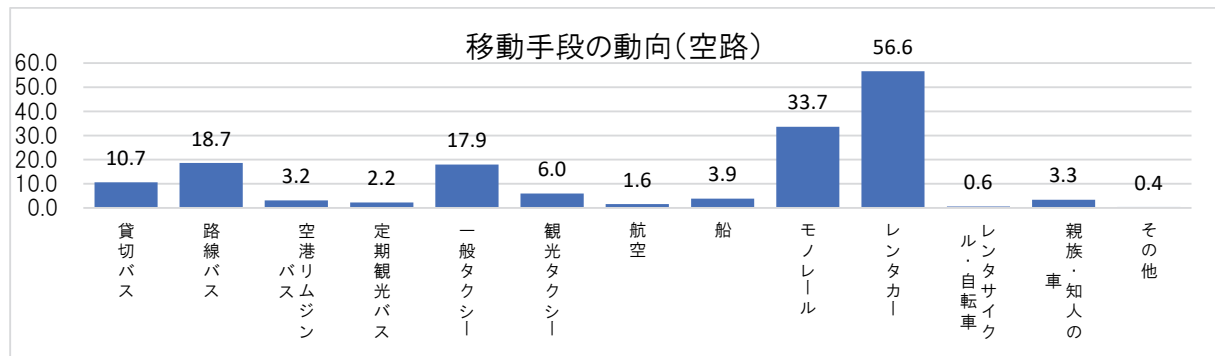
海路からの外国人観光客の観光の内容については、「ショッピング」が92.6%と最も高くなっており、次いで「都市観光、街歩き」の53.8%が高い。多くの観光客がショッピング目的で来訪している。



出典: 沖縄県「令和元年度外国人観光客実態調査報告書」
※複数回答。

7) 移動手段の動向(空路・海路)

外国人観光客における移動手段の動向として、空路からの外国人観光客は「レンタカー」が56.6%と最も高く、海路からの外国人観光客は「一般タクシー」が52.4%と最も高い。



出典: 沖縄県「令和元年度外国人観光客実態調査報告書」
※複数回答。

8) 新型コロナウイルス感染症終息後のインバウンド観光

国においては、「観光立国の実現」を国家戦略として位置付け、世界が訪れたいくなる「観光先進国・日本」への飛躍を図ることを目的に「観光立国推進基本計画」（平成29年度～令和2年度）が閣議決定された。国が考える沖縄振興の意義や方向、振興にあたっての基本的な視点を示す「沖縄振興基本方針」では、外国人観光客の誘致拡大と観光の高付加価値化を方向性として位置付けている。この5年間の国や県の政策により、インバウンド観光は好調で、沖縄県における外国人観光客数は、平成30年度に300万人を達成した。さらなるインバウンド観光の推進が見込まれたなか、令和元年度末に発生した新型コロナウイルス感染症の影響により、国外客が一切入域できない状況となった。

一方で、公益財団法人日本交通公社と日本政策投資銀行がアジア及び欧米豪の12地域を対象に実施した訪日外国人旅行者の意識調査では、新型コロナウイルス感染症終息後に旅行したい国・地域（複数回答可）について尋ねたところ、日本が31の調査対象国・地域全体で1位となった。また、訪日旅行に期待することは、「衛生面における配慮、清潔さ、消毒などのウイルス対策全般」が最も高い数値となっている。

今後、再び多くの国外客が訪れるまでに、パンデミック以前の東村観光における課題の解決や、新しい生活様式に即した持続可能な観光を本村でも推進していく必要がある。

新型コロナウイルス終息後に観光旅行したい国・地域（複数回答上位15か国・地域） (%)

順位	今後旅行したい国・地域	全体	韓国	中国	台湾	香港	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	イギリス	アメリカ	フランス	オーストラリア
1	日本	46	24	65	75	76	69	50	45	44	24	21	23	25
2	韓国	22	—	25	30	29	34	29	32	28	7	11	7	6
3	台湾	17	18	13	—	47	12	32	33	5	5	10	7	5
4	オーストラリア	16	18	14	16	16	7	22	20	17	21	17	12	—
5	タイ	16	14	15	13	27	—	27	—	16	15	10	11	13
6	シンガポール	15	14	17	12	11	16	—	—	33	13	9	7	18
7	ニュージーランド	15	15	15	18	11	9	15	11	8	—	11	—	13
8	アメリカ	14	18	10	13	7	6	10	3	6	39	—	25	21
9	スイス	12	21	10	14	10	9	15	11	8	—	11	—	13
10	イギリス	12	12	8	11	12	9	12	9	9	—	20	—	18
11	カナダ	12	17	8	11	8	3	6	4	3	23	—	20	17
12	フランス	11	13	13	10	8	7	11	7	7	—	18	—	15
13	中国	11	10	—	12	—	20	14	22	5	6	9	6	5
14	香港	11	14	—	8	—	14	12	11	9	11	11	7	8
15	マレーシア	10	7	10	9	10	—	—	—	19	10	7	6	11

出典：「DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査(2020年度 新型コロナ影響度 特別調査)」

※新型コロナ終息後に海外観光旅行について「(したい)と思わない」を選択した対象者及び次に海外観光旅行の検討を再開するタイミングについて「現在の状況からは海外旅行の検討再開は考えられない」と回答した対象者を除く全員から回答を得た。

※各国・地域の上位1～3位を塗りつぶしている。

7-5. Web アンケートの整理・分析

(1) Web アンケート調査の概要

1) 調査の目的

本調査は、令和4年度より5か年間の計画となる「東村第3次観光振興計画」を策定するにあたり、東村の観光に関するマーケティングデータを把握し、調査結果を施策等に反映させることを目的とする。また、対象をやんばる3村（東村、国頭村、大宜味村）訪問経験者とするこことで、やんばるに関心がある層の動向やニーズを把握し、東村への誘客施策に反映させる。

2) 調査の期間

令和3年7月16日（金）～令和3年7月20日（火）（5日間）

3) 調査対象・方法

- 調査方法：インターネット調査（リサーチ会社に調査を委託）
- 調査地域：全国（沖縄県を除く）
- 調査対象：リサーチ会社に登録しているモニター会員のうち、直近3か月の国内観光旅行経験者及び国内線航空機利用者のなかから、直近5年以内に沖縄県のやんばる3村（東村、国頭村、大宜味村）に訪問経験がある18～79歳男女個人を対象とした。
回収にあたっては、年代を3区分（18～29歳、30～59歳、60～79歳）に分け、各年代で100サンプル、合計300サンプルの回収を目標とした。

4) 回収状況

全体の回収状況

調査依頼対象者数	回収目標数	有効回答数	回収率
12,200件	300件	322件	2.6%

年代3区分別回収状況

年代区分	回収目標数	有効回答数	
		やんばる3村来訪経験有	うち東村来訪経験有
18～29歳	100件	107件	66件
30～59歳	100件	106件	58件
60～79歳	100件	109件	41件
合計	300件	322件	165件

(2) 調査結果の概要

1) 全体の傾向

① やんばる3村を訪れた観光客の動向とニーズ

- 82.3%が沖縄を複数回訪れているリピーターであり、特に「2~4回」が37.9%と最も高い。
- やんばるの滞在時間は、「半日程度」が31.7%と最も高く、全体的に1日未満の短期滞在者が多い。
- 宿泊先はホテルが87.5%と最も高く、宿泊先の市町村は、「国頭村」が27.9%、「那覇市」が13.1%、「名護市」が12.3%であった。やんばる3村の合計は35.3%で「東村」は3.3%と最も低い。
- やんばる訪問の目的は、「自然環境」が28.3%と最も高く、次いで「海」が20.2%であり、やんばるの豊富な自然を求めている人が多い傾向にある。
- 世界自然遺産「やんばる」で体験したいことは、「景色を楽しむ」が70.8%と最も高く、次いで「ヤンバルクイナなど固有種の観察」が46.0%となっており、やんばるにしかない景色や体験を望む傾向にある。

② 東村を訪れた観光客の動向とニーズ

- やんばる3村を訪れた人のうち、51.2%が東村を訪れており、村内の訪問場所は「道の駅サンライズひがし」が59.4%と最も高い。
- 東村への来訪時期は、「夏」が57.6%と最も高く、87.3%が「コロナ前」を訪れた。
- 季節別の東村内の訪問場所は、全体の傾向に比べて夏には「飲食店」が50.5%、冬には「道の駅サンライズひがし」が67.7%と高まる傾向にある。また、コロナ前後の訪問場所では、コロナ後は「観光施設」71.4%や、「公園」の52.4%が全体の傾向に比べて高まる傾向にある。
- 同伴者は、「夫婦・パートナーなど2人で」が41.8%、「家族・友達など2人以上で」が40.0%と、全体の81.8%が2人以上で訪れている。
- 来訪の情報源は、「旅行ウェブサイト」が52.1%と最も高く、次いで「ガイドブック」が44.2%となっている。
- 東村内の消費場所は「レストラン・食堂」と「道の駅」が62.4%と最も高い。また、村内での消費金額は「~5千円」が39.5%と最も高く、次いで「~1万円」が27.4%と低い傾向がみられる。消費場所を消費金額別にみると、東村内で1万円以下の消費をした人は「道の駅」が65.7%、「レストラン・食堂」が64.8%と高い傾向にある。一方で、1万円以上の消費をした人は、「レストラン・食堂」、「売店」、「道の駅」、「観光施設」、「宿泊」での消費がそれぞれ6割前後であった。
- 東村の観光資源のうち、「よく知っている」の割合が高かったのは、「海の自然」が32.0%、「マングローブ体験」が23.6%であった。「知らない」の割合が高かったのは、「エコパーク PA プログラム」が57.8%、「農家民泊」が47.2%であった。
- 東村の観光資源のうち、「興味がある」の割合が高かったのは、「海の自然」が56.8%、「森の自然(世界遺産)」が43.2%であった。「全く興味はない」の割合が高かったのは、「農家民泊」が9.9%、「エコパーク PA プログラム」が8.4%であった。
- 「海の自然」「マングローブ体験」「パイン生産地」「森の自然(世界遺産)」は、GAP分析で認知度・関心度がともに高く、今後も引き続き資源の磨き上げ、認知度の向上に努めていくことが求められる。「ご当地グルメ」「コーヒー園」は関心度が高いものの認知度が低いため、今後認知度の向上に努めていくことで、東村観光のメイン資源になる可能性を秘めている。
- 東村を訪れなかった人の理由では、「情報がなかった」が45.8%、「時間がなかった」が41.7%であり、観光目的地として認識してもらうためにも、東村の観光スポットや体験プログラムのプロモーションの強化に取り組んでいく必要があるといえる。

2) 年代別・やんばる3村滞在時間別の傾向

①年代別

東村を訪れる観光客の姿(年代別)

属性	傾向や関心
18～29歳 若者世代	<ul style="list-style-type: none"> 「自然環境」や「海」を目的にやんばるを訪問。世界自然遺産のやんばるで体験したいことは、「固有種の観察」や「景色を楽しむ」をはじめ、様々なことに関心がある。 村内では「道の駅」「自然資源」「観光施設」の他、様々な場所を訪れる。来訪時期は主に「夏」。 東村を訪れた男性は1人または2人以上のグループ、女性はパートナーなど2人組。6割が村来訪経験あり。 東村を訪れるきっかけとなった情報源は、主に「SNS」や「旅行ウェブサイト」「目的地のウェブサイト」など、インターネットでの情報収集の傾向がみられる。 村内の消費場所は「レストラン・食堂」をはじめ、宿泊、体験、施設など。1万円以上消費の傾向。 東村の観光資源の多くの項目で、他の世代より関心が高い傾向がみられる。他の世代と比べて、「パイン生産地」や「BBQ・キャンプ」、「エコパークPAプログラム」への関心が高い。
30～59歳 ミドル世代	<ul style="list-style-type: none"> 「自然環境」や「ドライブ」を目的にやんばるを訪問。世界自然遺産のやんばるで体験したいことは、「固有種の観察」や「景色を楽しむ」をはじめ、様々なことに関心がある。 村内では主に「道の駅」を訪れている。来訪時期は、「夏」が6割、「冬」が3割弱である。 東村を訪れた男性は1人または2人以上のグループ、女性は家族や友達など2人以上のグループ。5割が村来訪経験あり。 東村を訪れるきっかけとなった情報源は、主に「旅行ウェブサイト」である。 村内の消費場所は、「レストラン・食堂」や「道の駅」などの立ち寄り場所である。 東村の観光資源のうち、「マングローブ体験」「森の自然(世界遺産)」「海の自然」「コーヒー園」「ご当地グルメ」など、食に高い関心がみられる。
60～79歳 シニア世代	<ul style="list-style-type: none"> 「自然環境」や「のんびりリラックス」を目的にやんばるを訪問。世界自然遺産のやんばるで体験したいことは、主に「固有種の観察」や「景色を楽しむ」こと。 村内では「道の駅」の他に「観光施設」や「飲食店」を訪れる傾向あり。来訪時期の季節差はない。 東村を訪れた際の同伴者は、男女ともにパートナーなど2人組。村来訪経験は4割弱。 東村を訪れるきっかけとなった情報源は、主に「ガイドブック」である。 村内の消費場所は、「レストラン・食堂」や「道の駅」などの立ち寄り場所である。 東村の観光資源のほとんどの項目で関心が低い傾向にあるが、「つつじ祭り」「森の自然(世界遺産)」「海の自然」への関心が高い。

②やんばる3村滞在時間別

東村を訪れる観光客の姿(滞在時間別)

属性	傾向や関心
1泊未満 ドライブ層	<ul style="list-style-type: none"> 「自然環境」「海」「観光施設」「ドライブ・ツーリング」を目的にやんばるを訪れている。世界自然遺産のやんばるで体験したいことは、主に「景色を楽しむ」と「固有種の観察」。 村内では主に「道の駅」を訪れている。来訪時期は5割が「夏」で3割近くは春や秋に訪れている。 同伴者は5割近くが夫婦やパートナーなどの二人組。 村内の消費場所は主に「レストラン・食堂」「道の駅」である。 村内での消費金額は、5割が「～5千円」、3割が「～1万円」と金額が低い。

属性	傾向や関心
(1泊以上) ステイ層	<ul style="list-style-type: none"> 「自然環境」「海」「のんびりリラックス」を目的にやんばるを訪れている。世界自然遺産のやんばるで体験したいことは、「景色を楽しむ」「固有種の観察」の他、「トレッキング」「ナイトツアー(星空観察)」への関心も高い。 村内では、5割前後が「道の駅」「自然資源」「観光施設」「飲食店」「公園」を訪れており、比較的様々な場所を訪れている。来訪時期は主に「夏」である。 同伴者は5割が家族や友達などの2人以上のグループ。「宿泊なし」よりも東村来訪経験の割合が高い。 東村を訪れるきっかけとなった情報源は、「SNS」「旅行ウェブサイト」「目的地のウェブサイト」「ガイドブック」であり、「宿泊なし」よりも情報源は多岐にわたる。 村内の消費場所は、「レストラン・食堂」「道の駅」の他、「宿泊」「体験プログラム」「観光施設」「売店」など、様々な場所で消費している。 村内での消費金額は、5割は「～2万円」以上で金額が高い。 東村の観光資源の全ての項目で、「宿泊なし」より関心が高い傾向がみられる。特に「農家民泊」「マングローブ体験」「コーヒー園」は「宿泊なし」との関心の差が大きい。

3) まとめ

やんばる3村に訪れる観光客の多くは沖縄観光のリピーターであり、やんばる滞在は1日未満の割合が高い。やんばるの豊富な自然を求め、世界自然遺産である「やんばる」にしかない景色や体験を望む傾向にあり、年代や宿泊の有無に関わらず同様の傾向がみられた。ミドル世代や1日未満の滞在者は「ドライブ」、シニア世代やステイ層は「のんびりリラックス」もやんばる訪問の目的としている。

やんばる3村に訪れた観光客のうち約半数が東村を訪れており、若者世代の割合が高い。多くが二人以上のグループだが、若者世代とミドル世代の男性は1人で訪れる傾向もみられる。来訪時期は「夏」の割合が高く、標準化が課題といえるが、シニア世代では季節差があまりみられなかった。来村しなかった人は、情報や時間がなかったことを理由に挙げており、観光目的地として認識してもらためのプロモーション強化に取り組む必要がある。

村内の訪問場所として、多くが「道の駅サンライズひがし」を訪れるが、夏には「飲食店」を訪れる傾向が高まった。また、若者世代は様々な場所を訪れる傾向がみられる。東村来訪の情報源は「旅行ウェブサイト」や「ガイドブック」が主流だが、若者世代はインターネットでの情報収集の傾向もみられる。

村内で消費した人の約7割が1万円以下で低い傾向にあり、主な消費場所は「レストラン・食堂」と「道の駅サンライズひがし」であった。若者世代やステイ層は消費傾向が高く、宿泊や体験でも消費している。

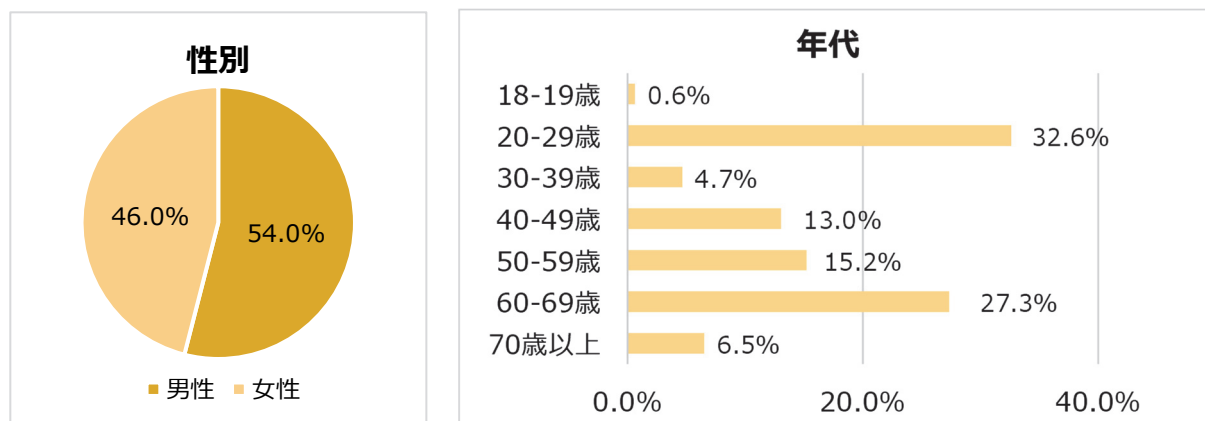
東村の観光資源について、「海の自然」「マングローブ体験」「パイン生産地」「森の自然(世界遺産)」は認知度、関心度がともに高い。「ご当地グルメ」「コーヒー園」は認知度向上を図ることで今後のメイン資源となる可能性がある。また、若者世代やステイ層ほど、観光資源の興味・関心度の幅が広い傾向にある。

(3) 調査結果の詳細

1) 全体の傾向

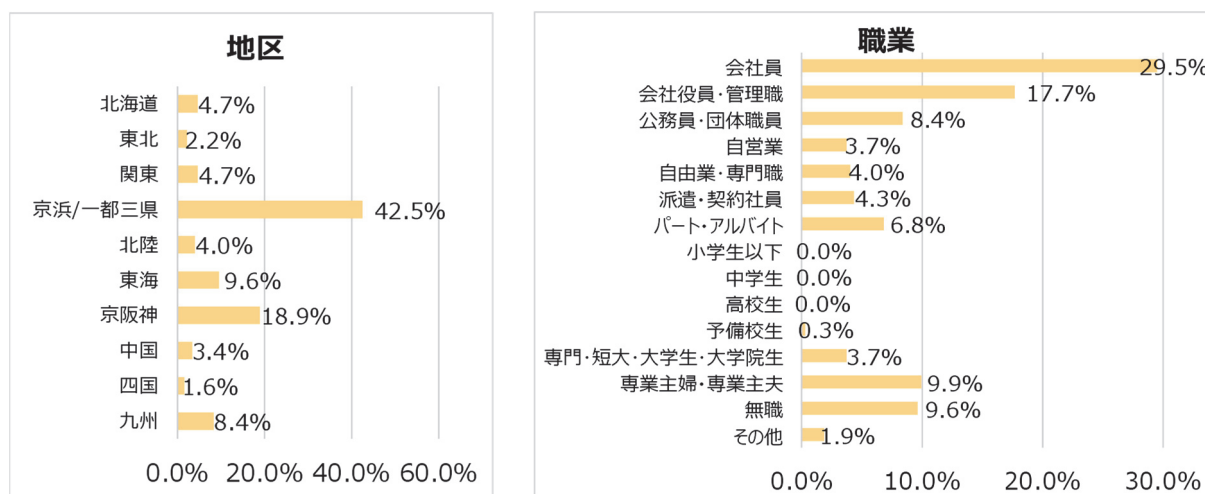
① 性別・年代

回答者の性別は、「男性」が54.0%、「女性」が46.0%で、約半数ずつである。年代は「20-29歳」が32.6%と最も高く、次いで「60-69歳」が27.3%となっており、合わせて全体の半数以上を占める。



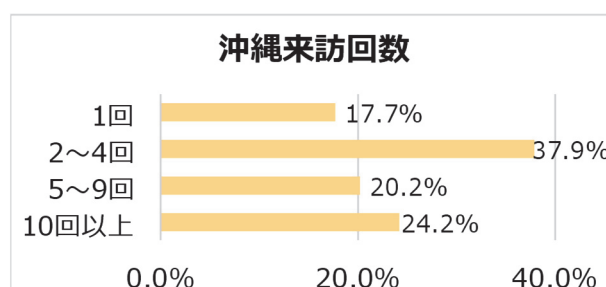
② 居住地区・職業

回答者の居住地区は、「京浜/一都三県（東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県）」の42.5%が最も高く、次いで「京阪神（京都・大阪・神戸）」が18.9%となっている。職業は「会社員」が29.5%と最も高く、次いで「会社役員・管理職」が17.7%となっている。



③ 沖縄来訪回数

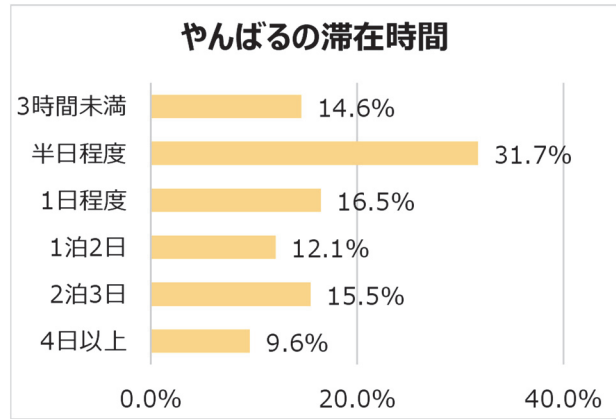
回答者の沖縄来訪の回数は、「2~4回」が37.9%と最も高く、次いで「10回以上」が24.2%となっている。



④ やんばるの滞在時間

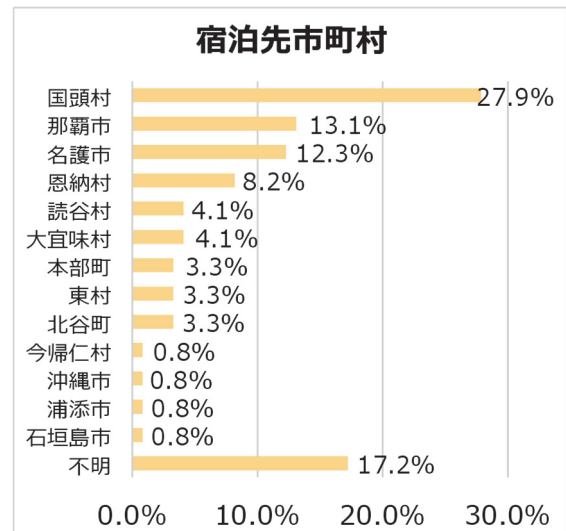
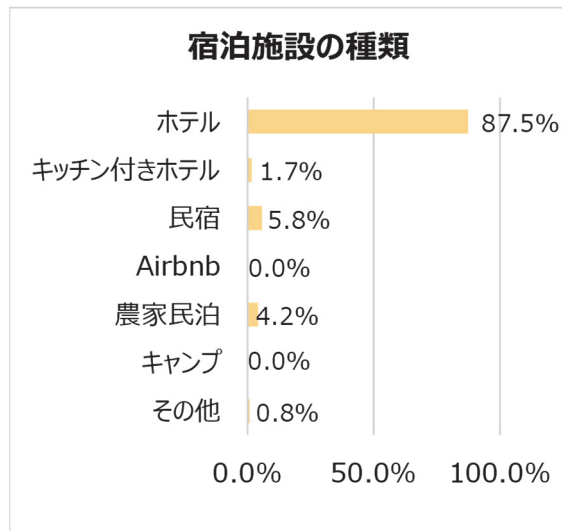
回答者のやんばるの滞在時間は、「半日程度」が31.7%と最も高く、次いで「1日程度」が16.5%、「2泊3日」が15.5%となっている。

1日以内の短期滞在者が多い傾向にある。



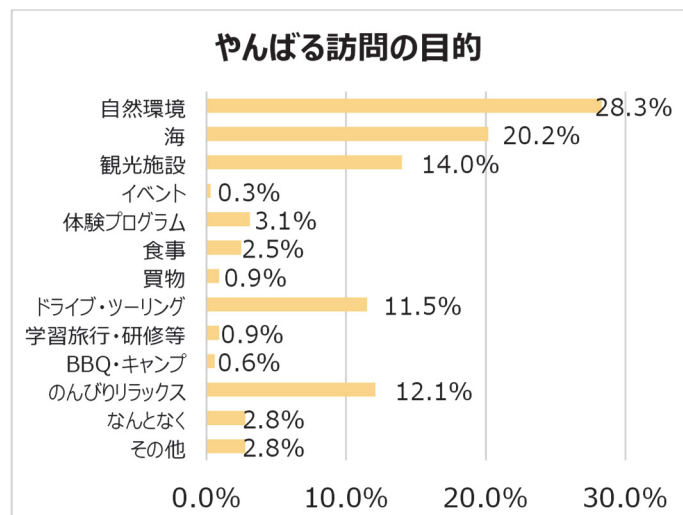
⑤ 宿泊先について

回答者の宿泊施設の種類は、「ホテル」が87.5%と9割近くを占めている。また、宿泊先の市町村は「国頭村」が27.9%と最も高く、次いで「那覇市」が13.1%、「名護市」が12.3%となっている。ホテルのタイプとしては、リゾートホテルが最も多い（オクマプライベートビーチ&リゾート、アダガーデンホテル沖縄 など）。



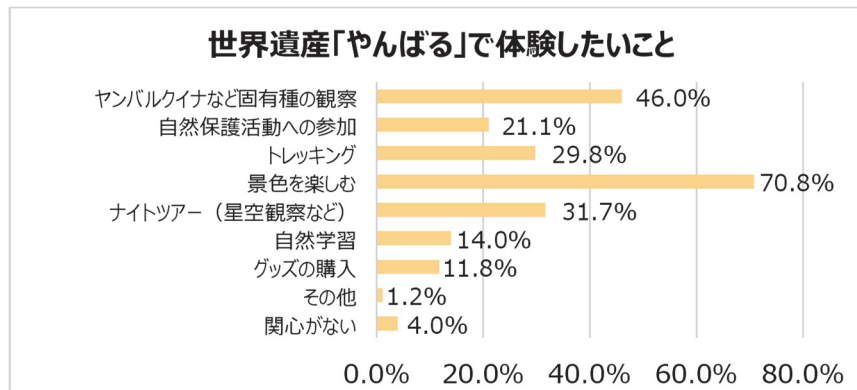
⑥ やんばる訪問の目的

回答者のやんばる訪問の一番の目的は、「自然環境」が28.3%と最も高くなっており、次いで「海」が20.2%、「観光施設」が14.0%となっている。



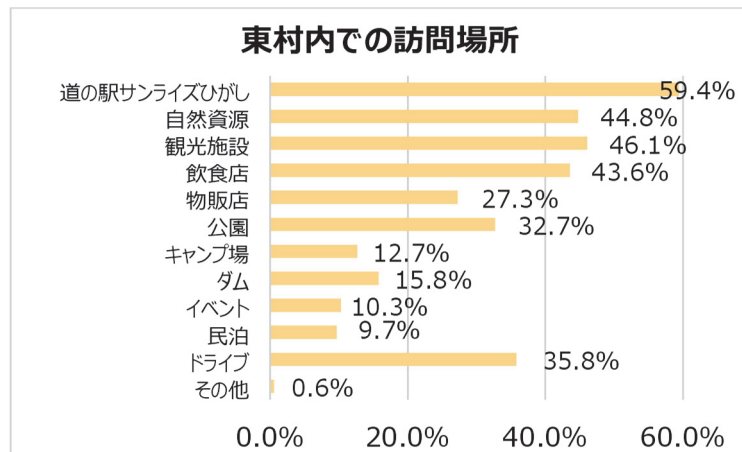
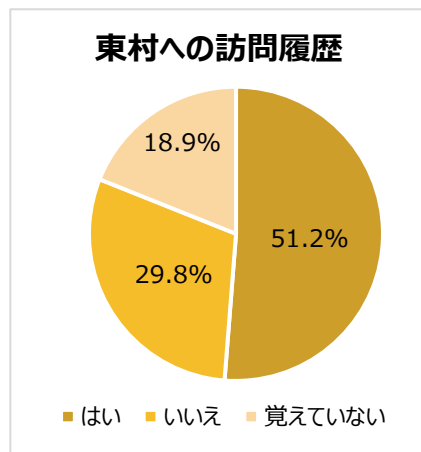
⑦世界自然遺産「やんばる」で体験したいこと（複数回答）

世界遺産「やんばる」で体験したいことは、「景色を楽しむ」が70.8%で最も高く、次いで、「ヤンバルクイナなど固有種の観察」が46.0%となっている。



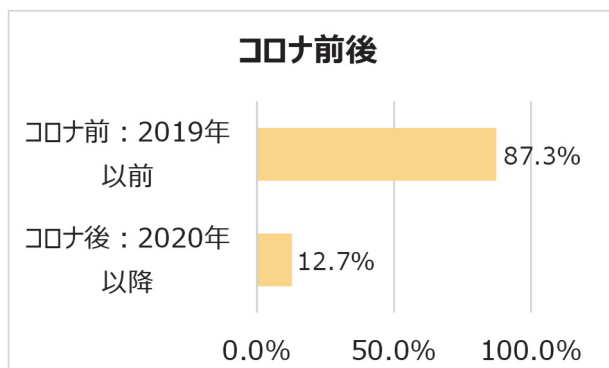
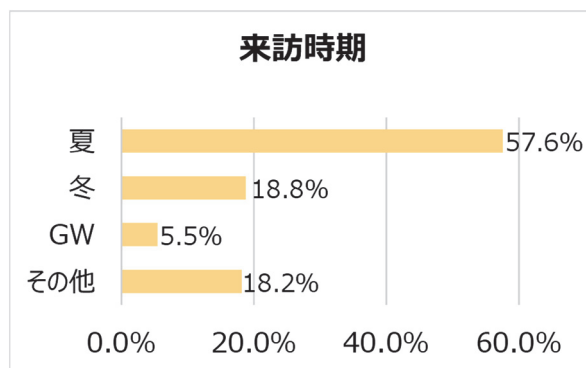
⑧東村への来訪履歴・訪れた場所（複数回答）

回答者の東村への来訪履歴については、51.2%が東村を訪れたことがあると回答した。回答者の東村内での訪問場所については、「道の駅サンライズひがし」が59.4%で最も高く、次いで「観光施設」が46.1%、「自然資源」が44.8%、ドライブが35.8%となっている。



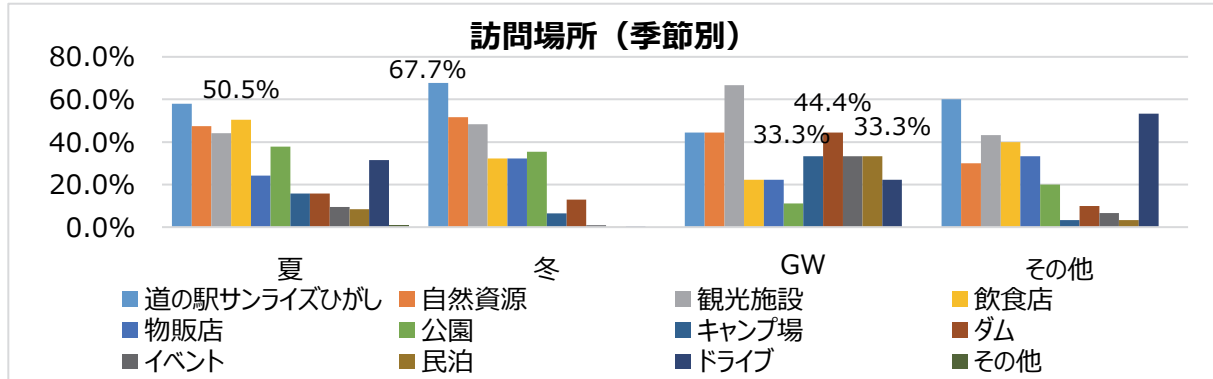
⑨東村への来訪時期

回答者の東村への来訪時期は「夏」が57.6%で最も高く、次いで「冬」が18.8%となっている。また、新型コロナウイルス感染症流行前に東村を訪れたのは87.3%で、流行後に訪れたのは12.7%であった。



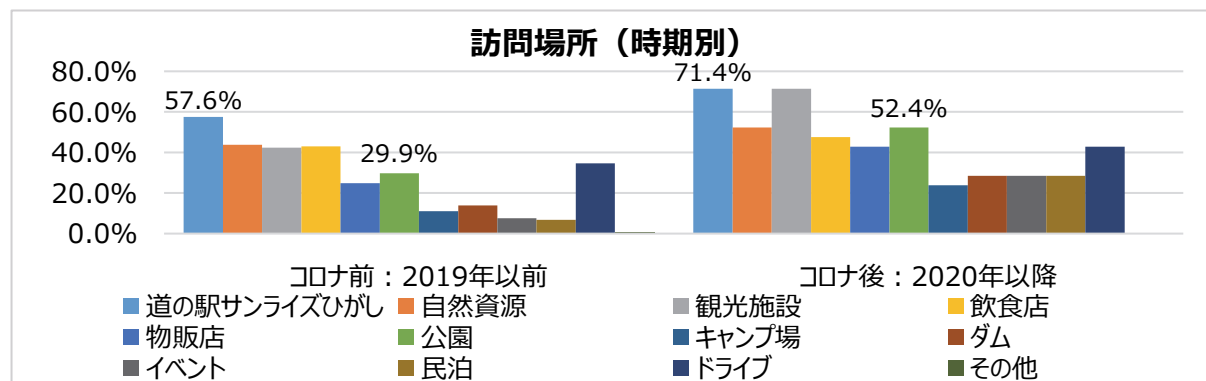
□ 東村内での訪問場所×来訪時期（季節別）

東村内での訪問場所を季節別にみると、全体の傾向に比べて、夏には「飲食店」が50.5%、冬には「道の駅サンライズひがし」67.7%と、それぞれ高まる傾向にある。また、ゴールデンウィークには、「キャンプ場」33.3%、「ダム」44.4%、「イベント」33.3%などが高い傾向にある。



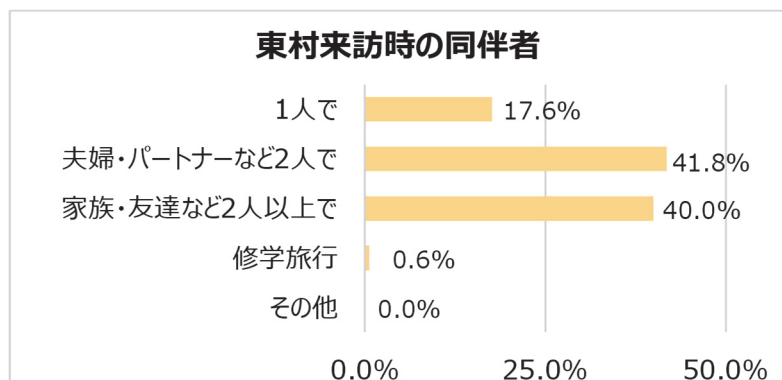
□ 東村内での訪問場所×来訪時期（コロナ前後）

東村内での訪問場所をコロナ前後でみると、コロナ後は「観光施設」71.4%や「公園」52.4%が全体の傾向に比べて高まる傾向がみられる。



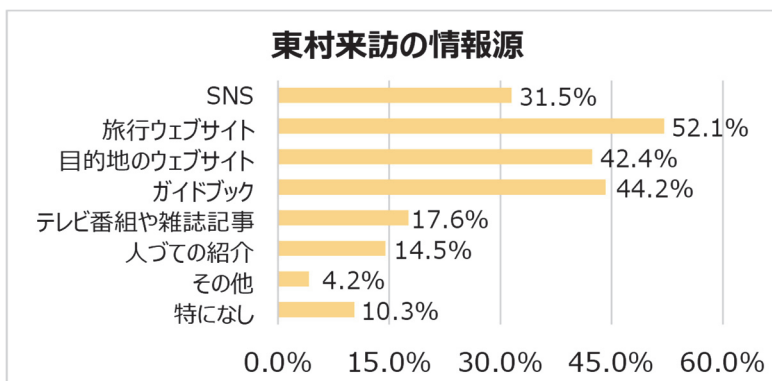
⑩ 来訪時の同伴者

東村来訪時の同伴者は、「夫婦・パートナーなど2人で」41.8%と最も高く、次いで「家族・友達など2人以上で」が40.0%となった。



⑪ 来訪のきっかけとなった情報源（複数回答）

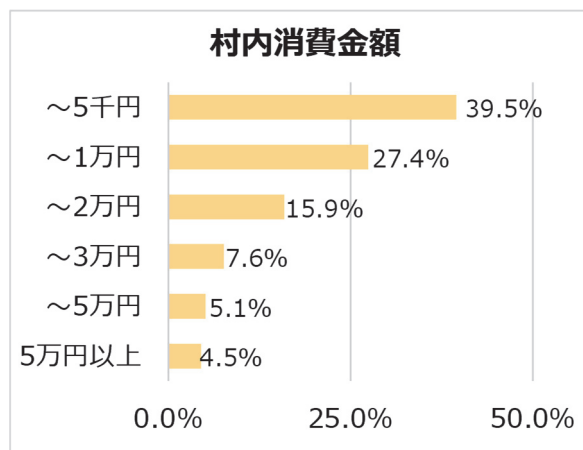
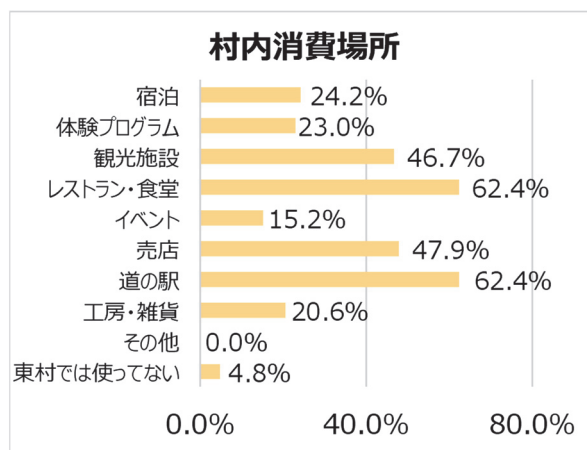
来訪のきっかけとなった情報源は、「旅行ウェブサイト」が52.1%と最も高く、次いで「ガイドブック」が44.2%となった。



⑫ 村内消費場所（複数回答）および消費金額

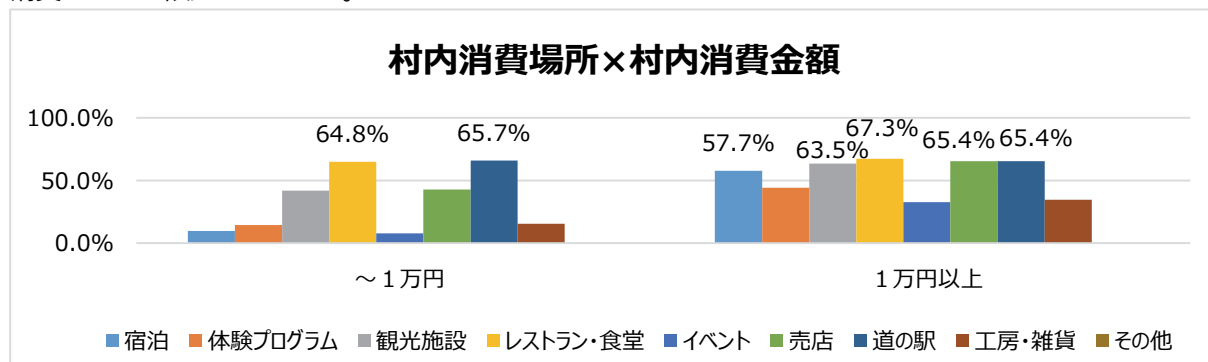
回答者の東村内消費場所は、「レストラン・食堂」と「道の駅」が62.4%と最も高く、次いで「売店」が47.9%、「観光施設」が46.7%であった。

消費金額は、「～5千円」が39.5%で最も高く、次いで「～1万円」が27.4%となっており、金額が上がるごとに割合が低くなるなど、村内ではあまり消費されていない傾向がみられる。



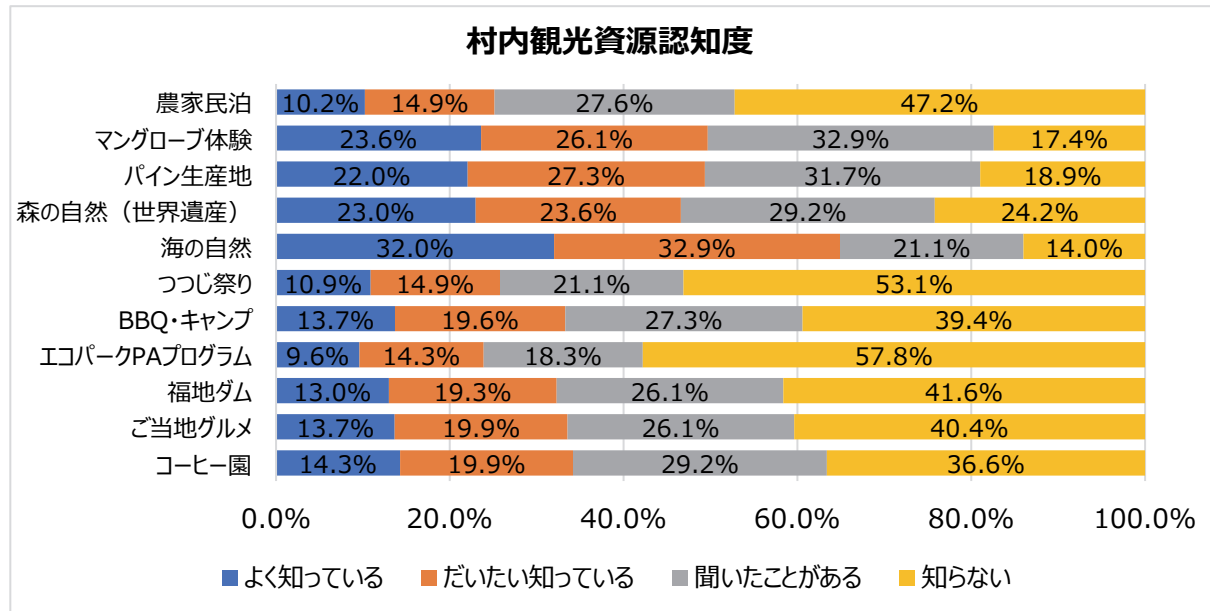
□ 村内消費場所×村内消費金額

東村内消費場所を消費金額別にみると、東村内で1万円以下の消費をした人は「道の駅」が65.7%、「レストラン・食堂」が64.8%と高い傾向にある。一方で、1万円以上の消費をした人は、「レストラン・食堂」67.3%、「売店」65.4%、「道の駅」65.4%、「観光施設」63.5%、「宿泊」57.7%とほぼ同じ割合で消費している傾向がみられる。



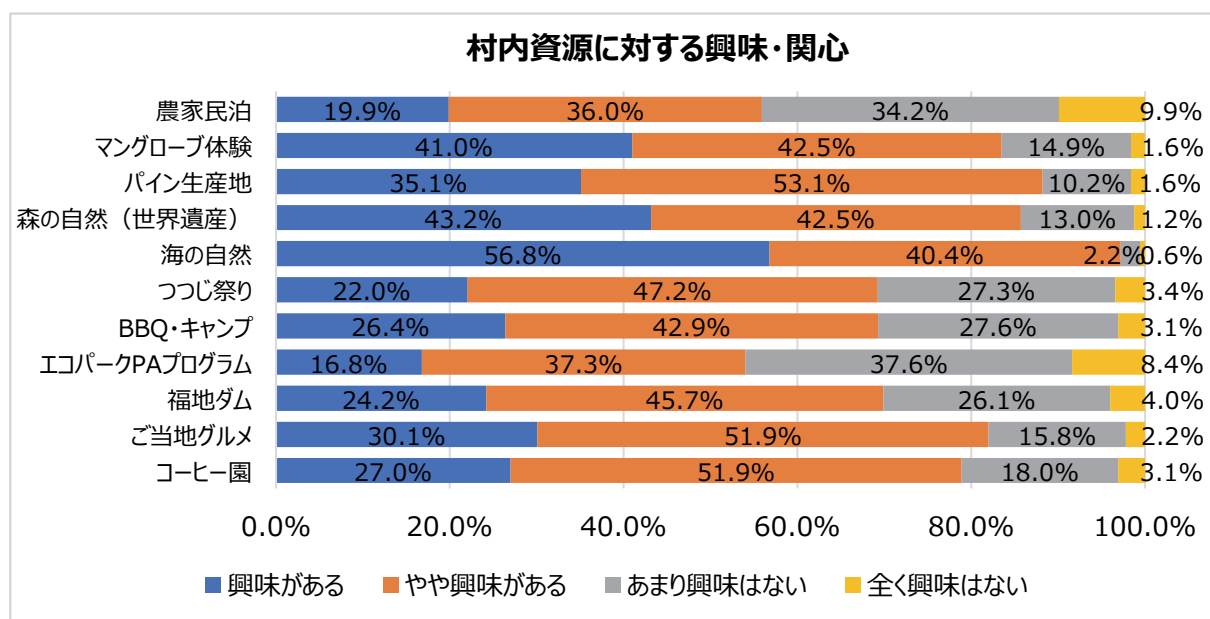
⑬東村の観光資源に対する認知度

東村の観光資源のうち、「よく知っている」の割合が高かったのは、「海の自然」が32.0%と最も高く、次いで「マングローブ体験」が23.6%となっている。一方で、「知らない」の割合が高かったのは、「エコパークPAプログラム」が57.8%と最も高く、認知度が低くなっている。次いで「農家民泊」が47.2%となっている。



⑭東村の観光資源に関する興味・関心度

東村の観光資源のうち、「興味がある」の割合が高かったのは、「海の自然」が56.8%と最も高く、次いで「森の自然（世界遺産）」が43.2%となっている。一方で、「全く興味はない」の割合が高かったのは、「農家民泊」が9.9%と最も高く、次いで「エコパークPAプログラム」が8.4%であった。



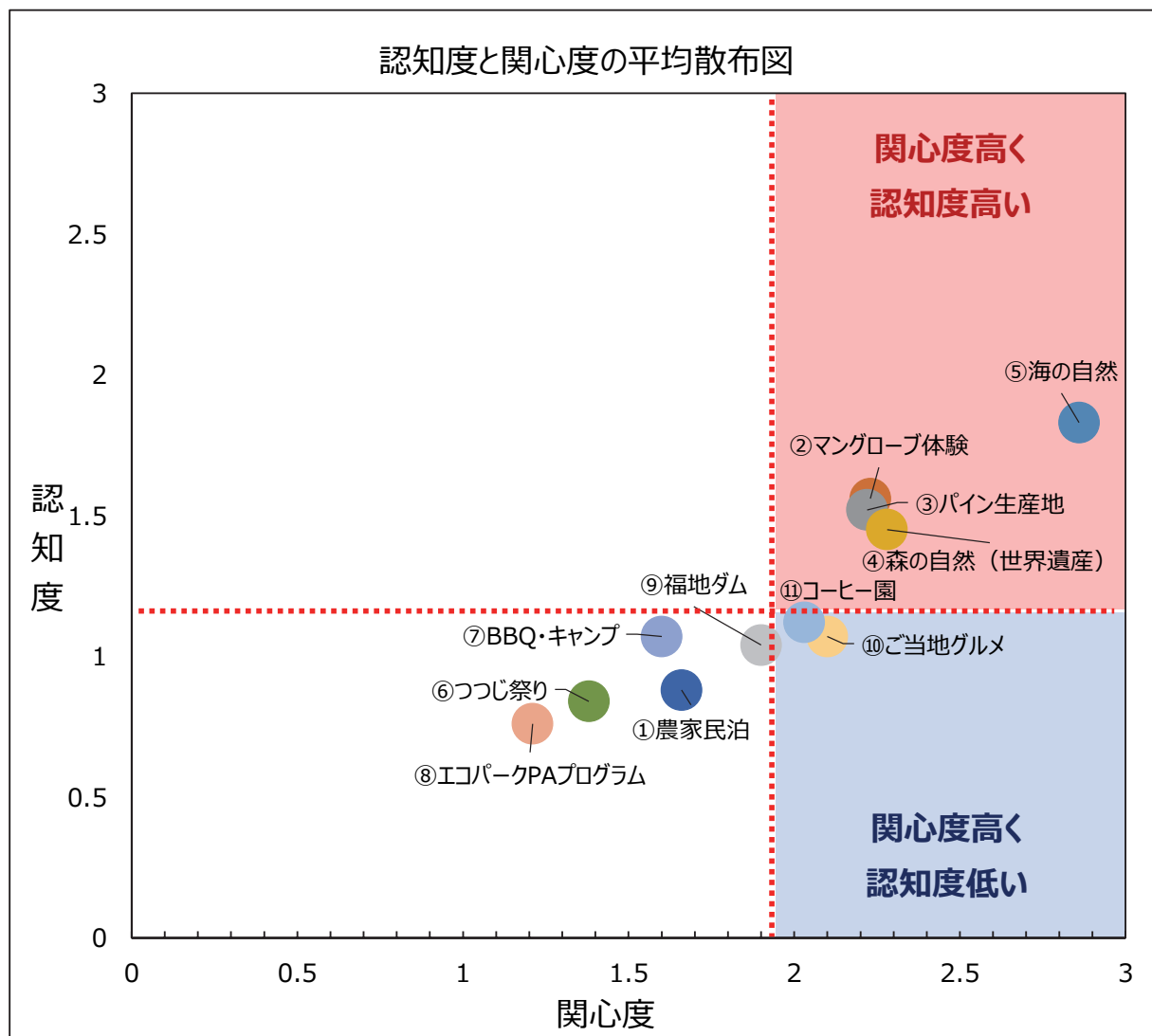
⑮東村の観光資源に対する GAP 分析

東村の観光資源について認知度・関心度をもとに GAP 分析を行った。分析の際には、認知度、関心度の選択肢をそれぞれ下表のとおり点数化し、それぞれの平均点を算出したものを散布図で表した。

	3点	2点	1点	0点
認知度	よく知っている	だいたい知っている	聞いたことがある	知らない
関心度	興味がある	やや興味がある	あまり興味はない	全く興味はない

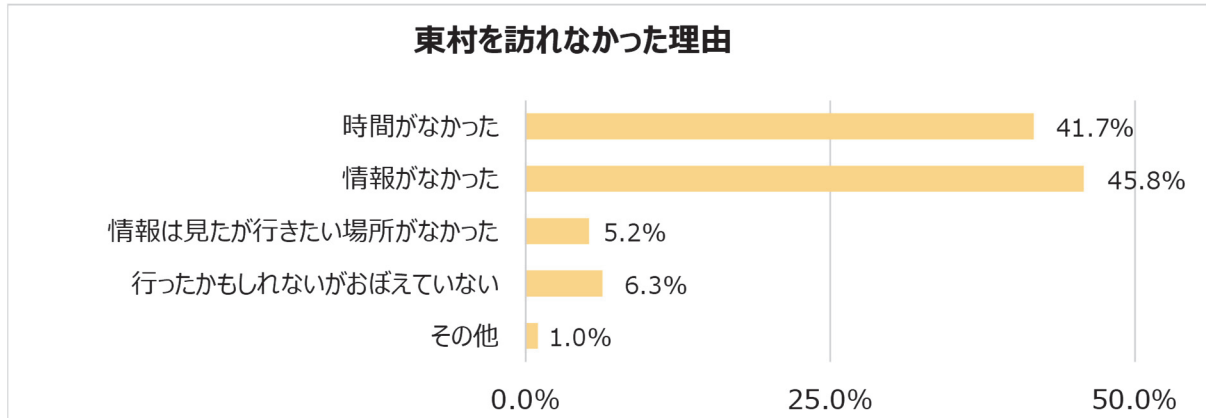
関心度が高く、認知度も高い項目は「⑤海の自然」「②マングローブ体験」「③パイン生産地」「④森の自然（世界遺産）」の4つである。これらは人気が高い項目であり、今後も引き続き資源の磨き上げ、認知度の向上に努めていくことが求められる。

関心度が高く、認知度が低い項目は「⑩ご当地グルメ」「⑪コーヒー園」の2つである。これらの項目について、関心度が高いものの認知度が低いため、今後認知度の向上に努めていくことで、東村観光のメイン資源になる可能性を秘めている。



⑩ 東村を訪れなかった理由

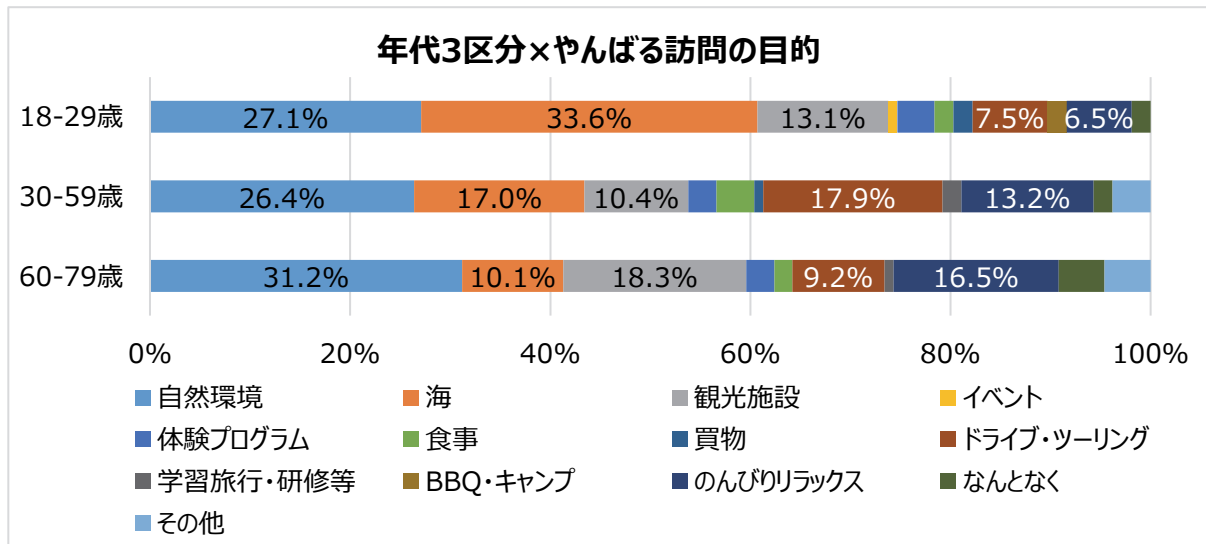
回答者のうち、東村を訪れなかった人の理由としては、「情報がなかった」が45.8%で最も高く、次いで「時間がなかった」が41.7%となっている。



2) クロス集計（年代3区分の傾向）

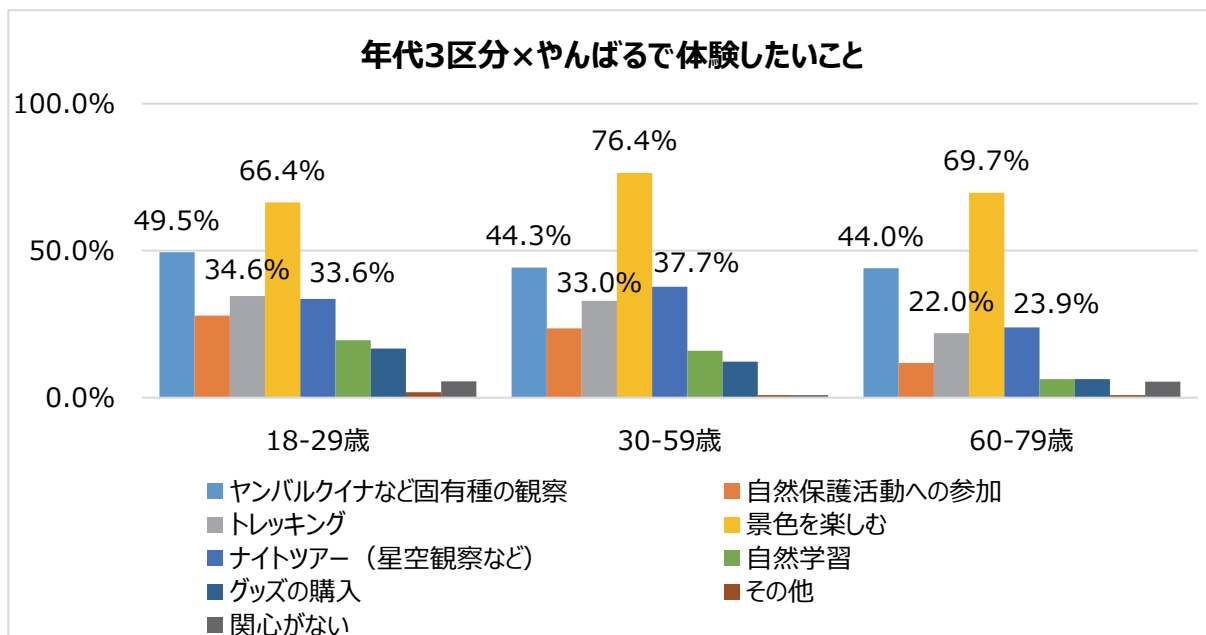
①やんばる訪問の目的

やんばるを訪れた一番の目的について、若者世代は「海」が33.6%となっており、他の2世代とは割合の差が大きくなっている。また、ミドル世代は「ドライブ・ツーリング」が17.9%、シニア世代は「のんびりリラックス」が16.5%と、それぞれの世代によって目的に特徴がみられる。



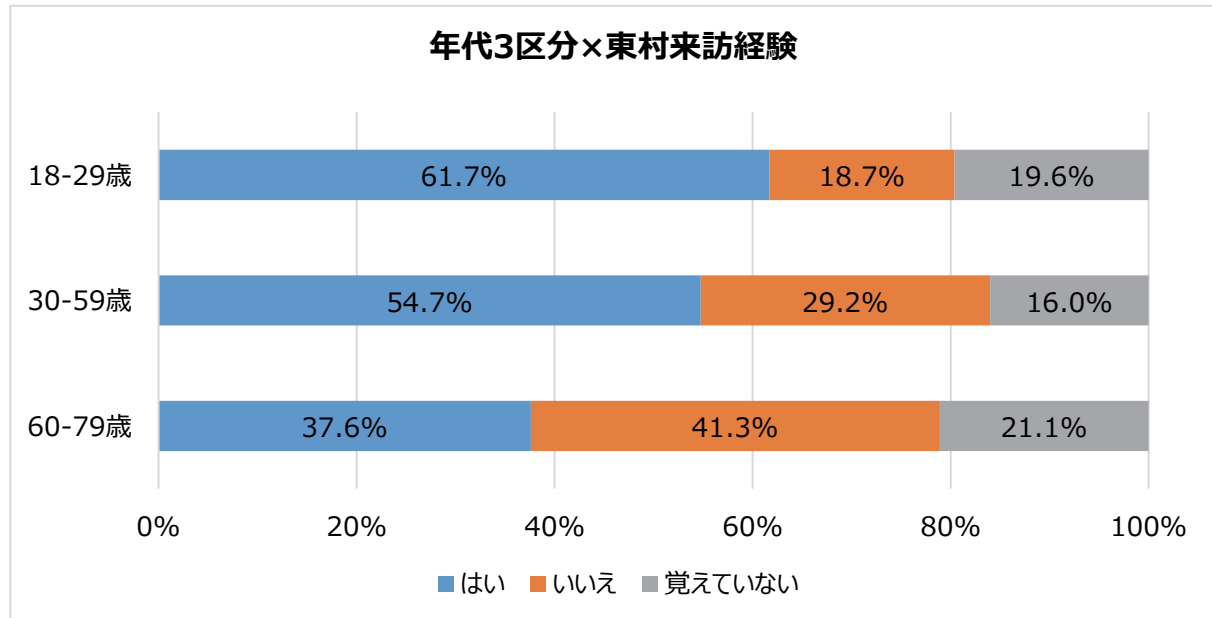
②やんばるで体験したいこと（複数回答）

世界遺産になった「やんばる」で体験したいことについて、若者世代やミドル世代は様々な体験に関心がある傾向にある。一方で、シニア世代は「ヤンバルクイナなど固有種の観察」が44.0%、「景色を楽しむ」が69.7%と、他の選択肢に比べて高くなっている。



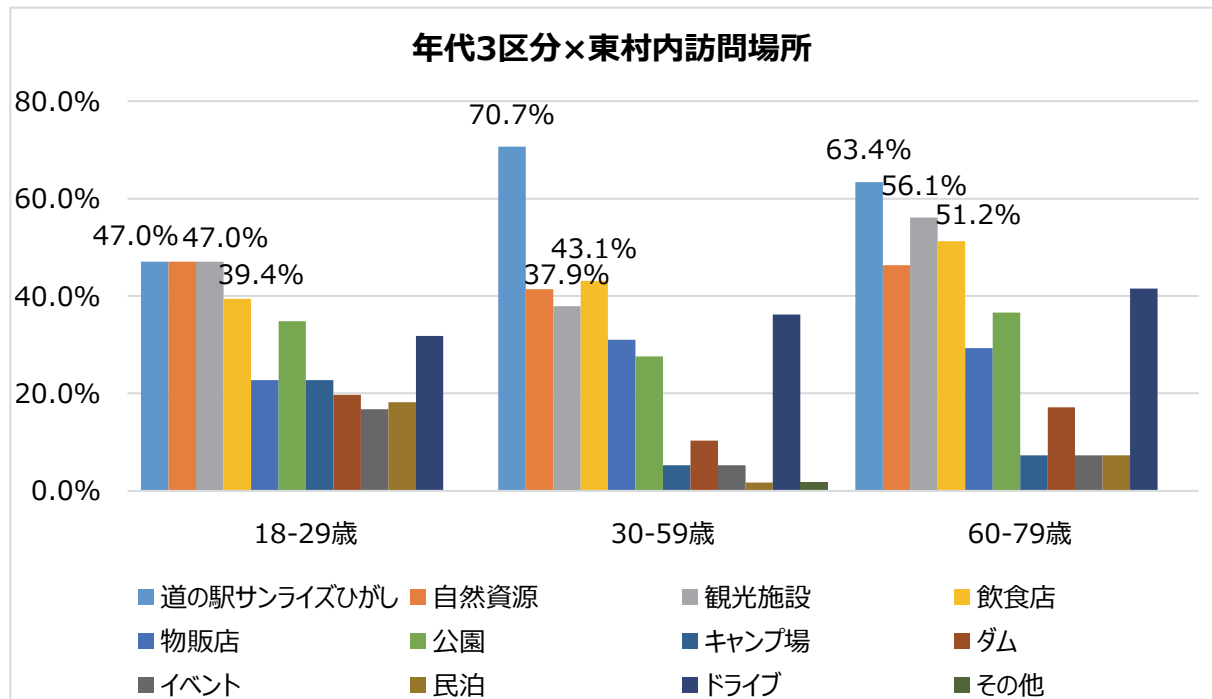
③東村来訪経験

東村の来訪経験について、若者世代は東村への来訪経験において「はい」が61.7%となっており、ミドル世代は54.7%、シニア世代は37.6%と、世代が若いほど割合が高くなる傾向がある。



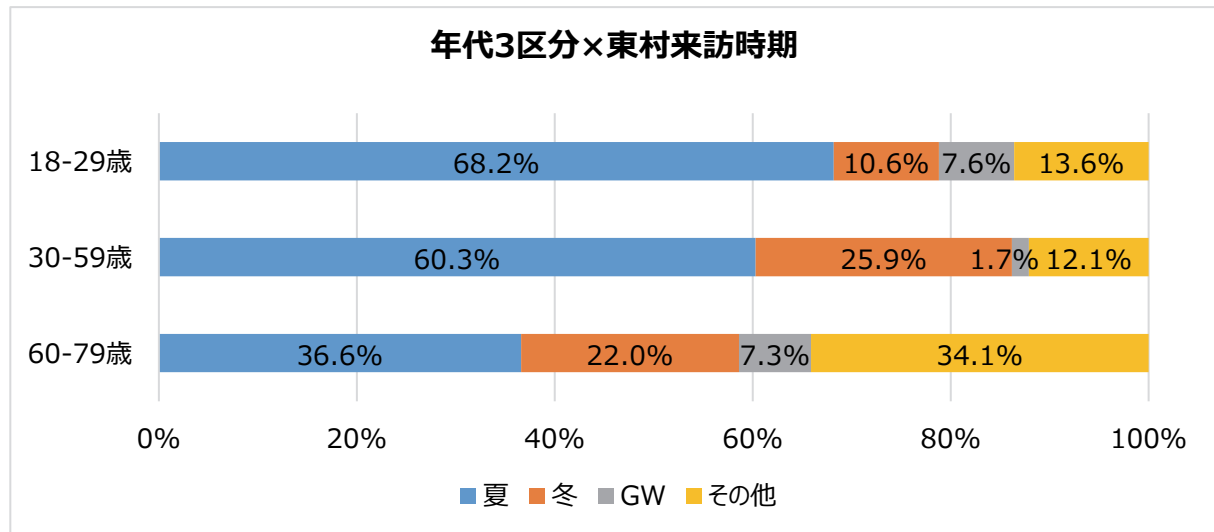
④東村内訪問場所（複数回答）

東村内で訪れた場所として、若者世代は、訪問場所による差の開きはあまりみられず、様々な場所を訪れる傾向がある。ミドル世代は、「道の駅サンライズひがし」への訪問の割合が70.7%と、他の世代と比較すると高い傾向がある。シニア世代は、「観光施設」56.1%、「飲食店」51.2%の割合が高い。



⑤ 東村来訪時期

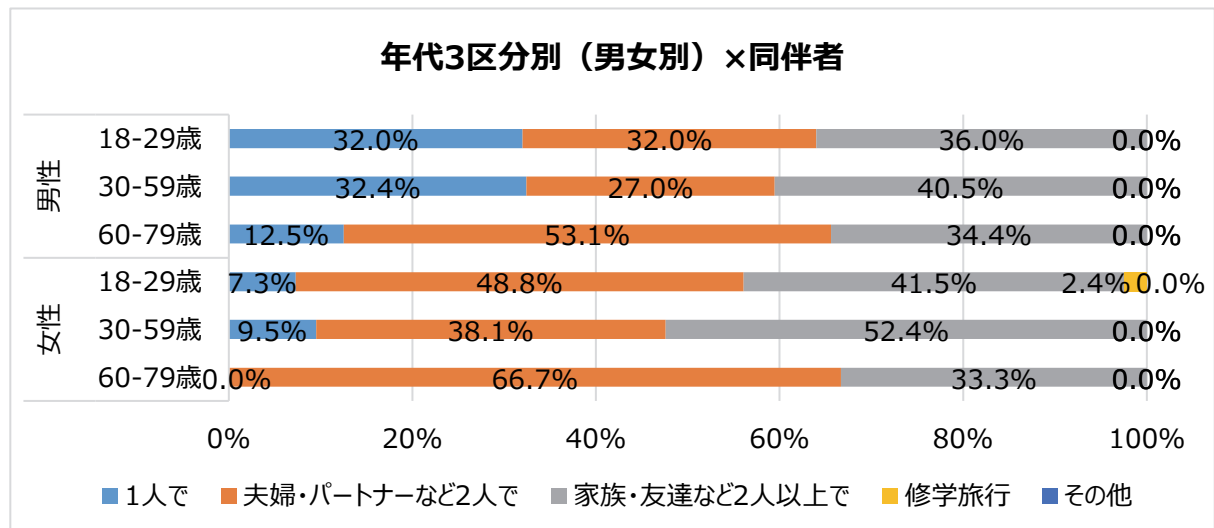
東村を訪れた季節は、シニア世代は、季節による差があまりみられず、季節を問わず訪れる傾向にある。一方で、若者世代は、「夏」が68.2%であるのに対して「冬」が10.6%と季節による差が大きく出ている。



⑥ 同伴者

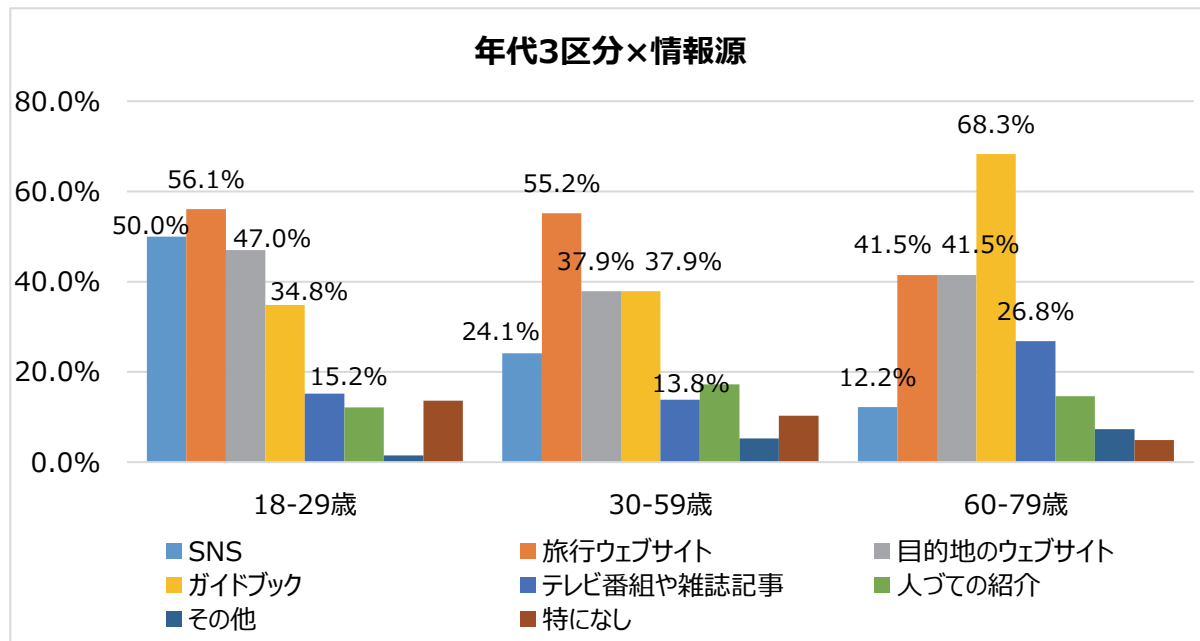
東村を訪れた際の同伴者は、男性は女性と比較して、「1人で」訪れることが多いが、シニア世代の男性は12.5%と、他の世代の男性と比べると「1人で」が少ない傾向が見られる。

シニア世代の男性は53.1%、若者世代の女性は48.8%と、「夫婦・パートナーなど2人で」訪れる割合が高い傾向にあり、ミドル世代の女性は「家族・友達など2人以上で」訪れる割合が52.4%と高い傾向にある。



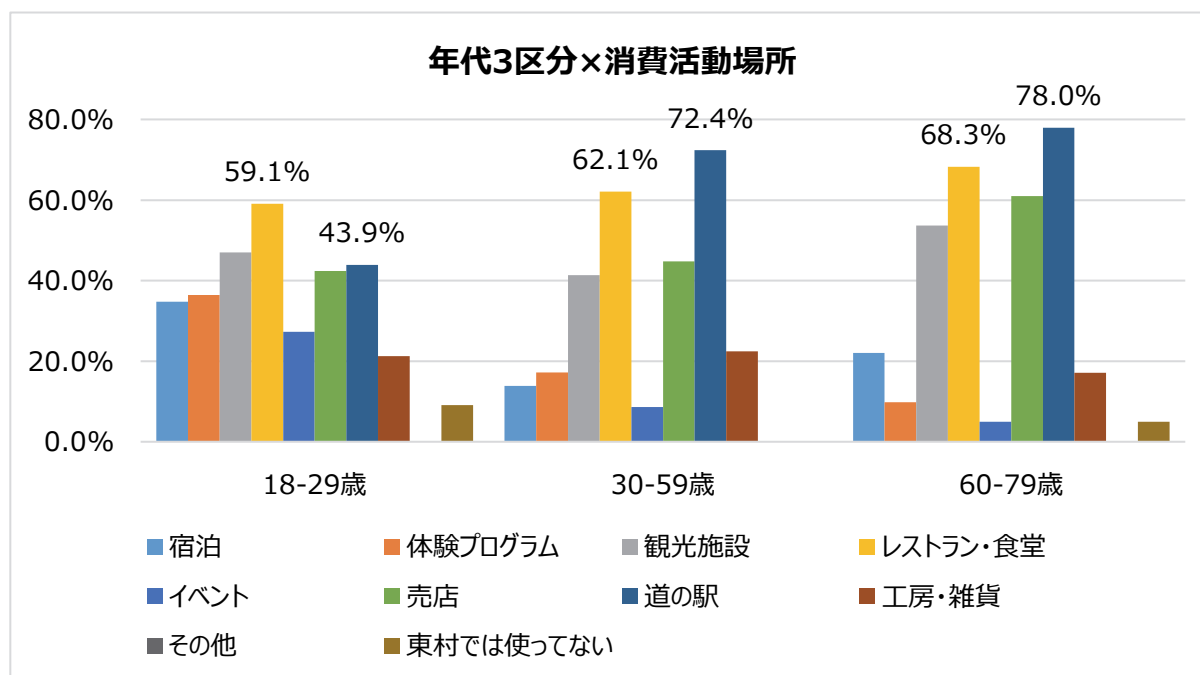
⑦情報源（複数回答）

東村を訪れるきっかけとなった情報源として、若者世代は「SNS」が50.0%となっており、インターネットでの情報収集が主になっている傾向がある。一方で、シニア世代は、「ガイドブック」が68.3%、「テレビ番組や雑誌記事」が26.8%と、紙やテレビなどの媒体から情報を集めている傾向がみられる。



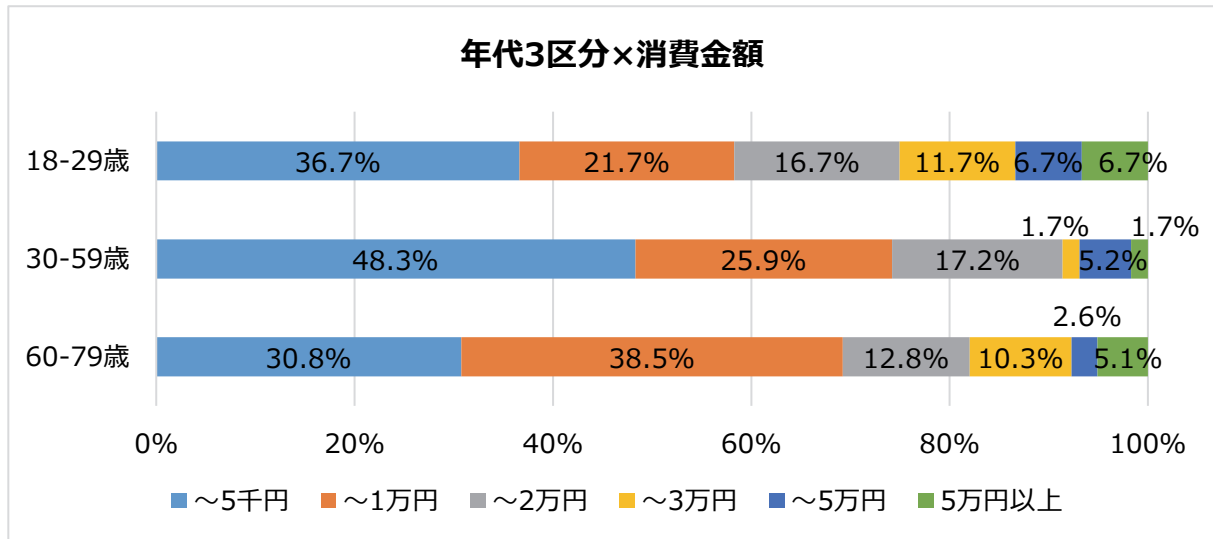
⑧村内消費活動場所（複数回答）

東村内で消費活動を行った場所は、若者世代は、宿泊、体験、施設問わず、様々な場所で消費する傾向にある。一方で、ミドル世代・シニア世代は、旅行中の「レストラン・食堂」「道の駅」など、立ち寄り場所での消費の割合が高い傾向にある。



⑨消費金額

東村内での消費金額は、若者世代が高いという傾向がみられる。

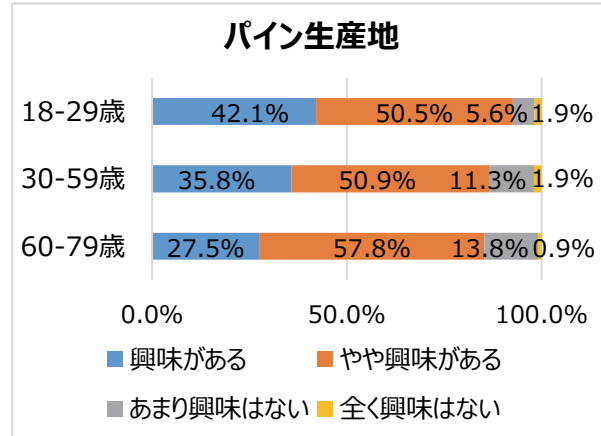
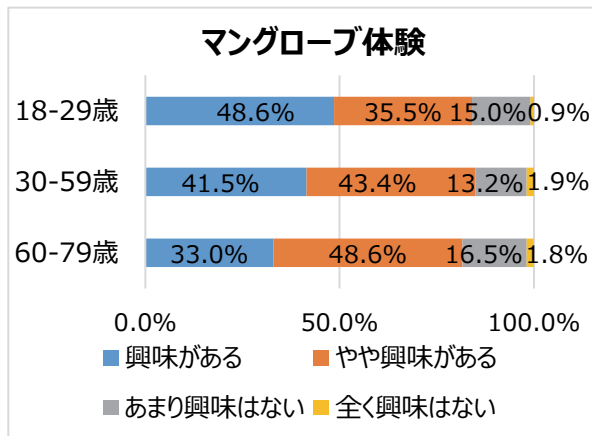
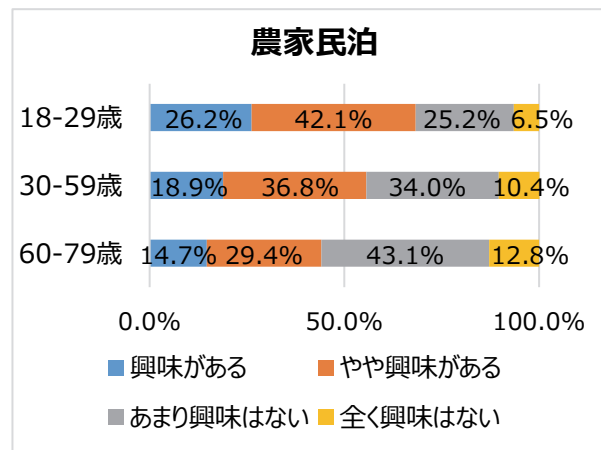


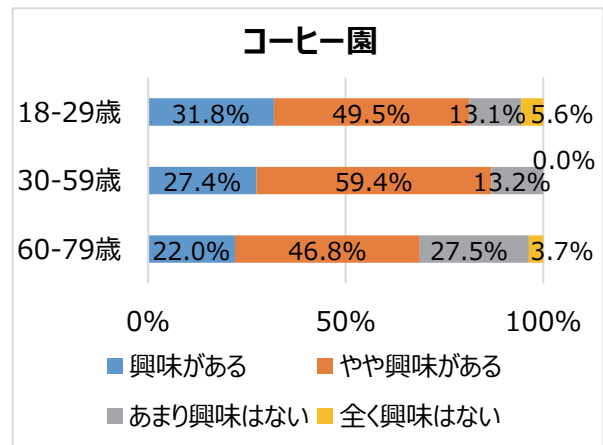
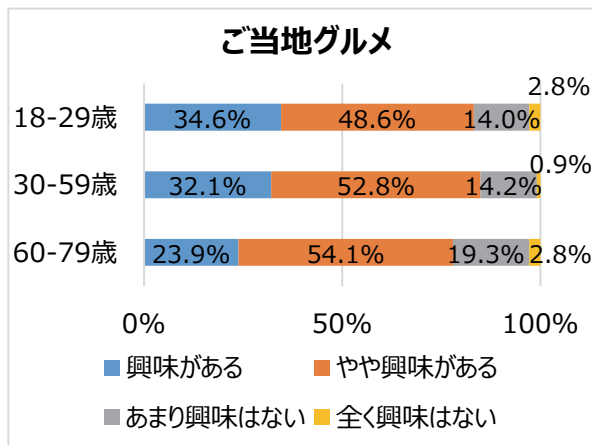
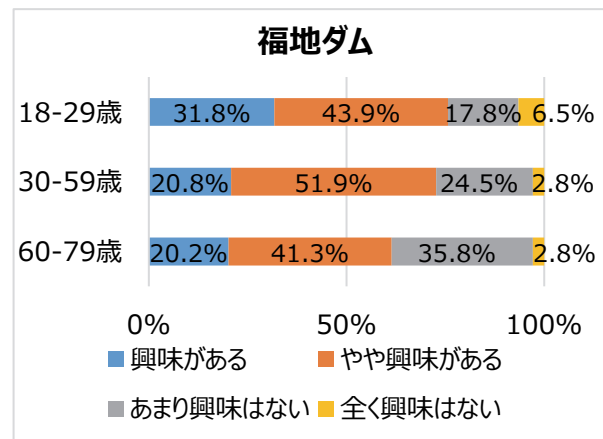
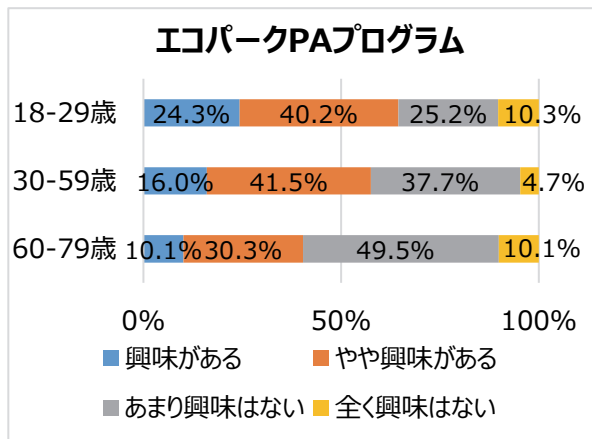
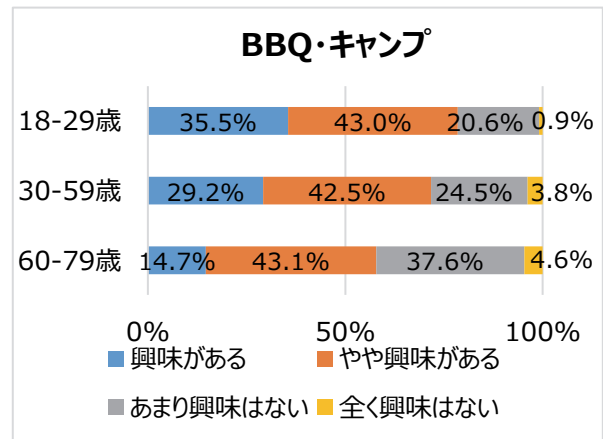
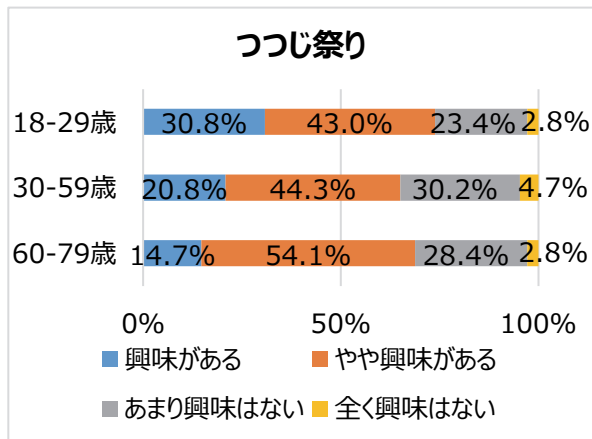
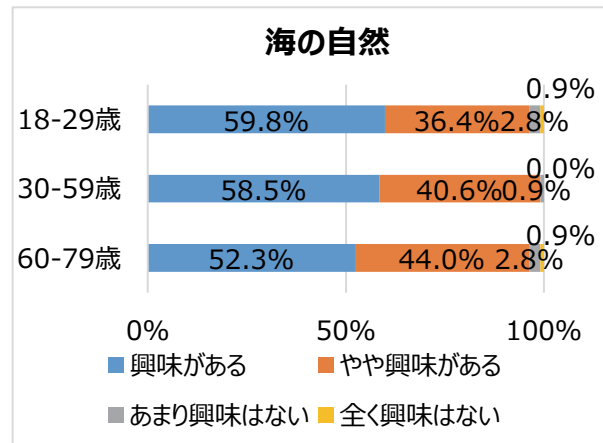
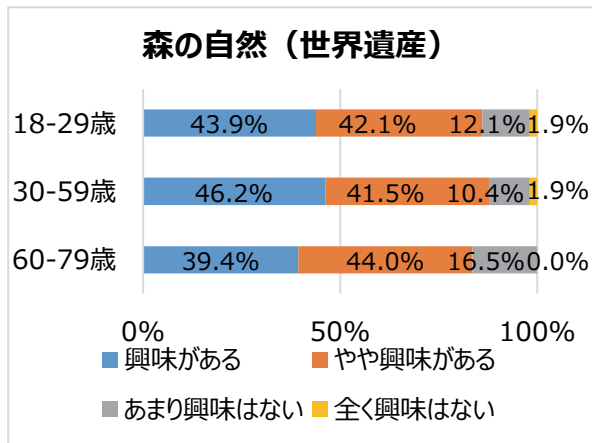
⑩観光資源に対する興味・関心

東村内の観光資源に対する興味・関心について、若者世代は、多くの項目で他の世代より関心が高い傾向がみられる。特に「パイン生産地」においては、「興味がある」「やや興味がある」が合わせて92.6%、「BBQ・キャンプ」では78.5%、「エコパークPAプログラム」では64.5%と高い傾向が見られる。

ミドル世代は「興味がある・やや興味がある」を合わせた割合が、「マングローブ体験」84.9%、「森の自然（世界遺産）」87.7%、「海の自然」99.1%、「コーヒー園」86.8%、「ご当地グルメ」84.9%において、3世代の中で一番高く、東村の「自然」や「食」に高い関心が見られる。

シニア世代は、他の年代に比べると全体的に関心が低い傾向にあるが、「つつじ祭り」においては「興味がある・やや興味がある」が合わせて68.8%と、ミドル世代よりも高い関心が見られる。また、「森の自然（世界遺産）」では、83.4%、「海の自然」では96.3%と比較的高い傾向が見られる。

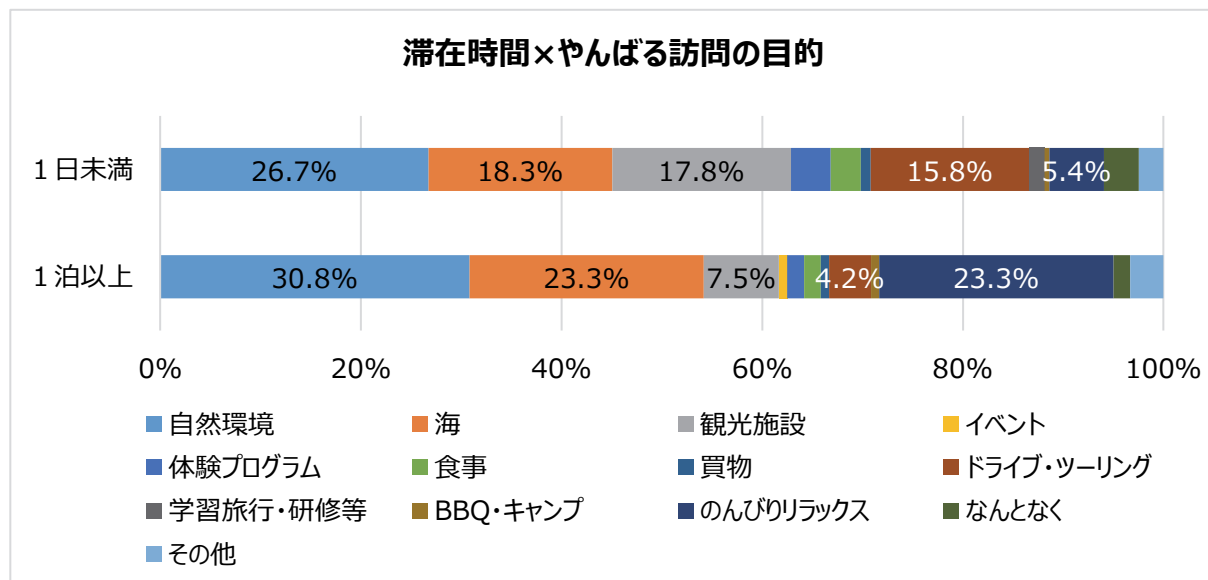




3) クロス集計【やんばる滞在時間別の傾向】

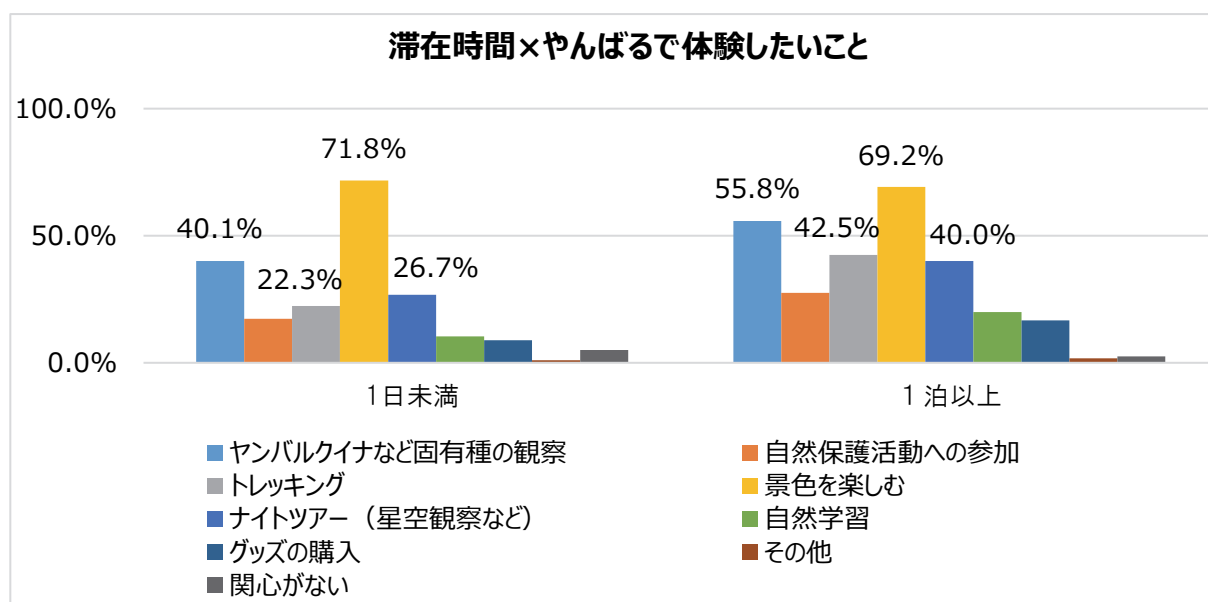
①やんばる訪問の目的

やんばる訪問の目的を滞在時間別にみると、「自然環境」「海」は滞在時間で大きな差はないが、1日未満では「観光施設」が17.8%、「ドライブ・ツーリング」が15.8%と割合が高い。一方、1泊以上では、「のんびりリラックス」が23.3%と「自然環境」に次いで「海」と並んで高く、アクティブに行動するよりも癒しや休息を求めていることがうかがえる。



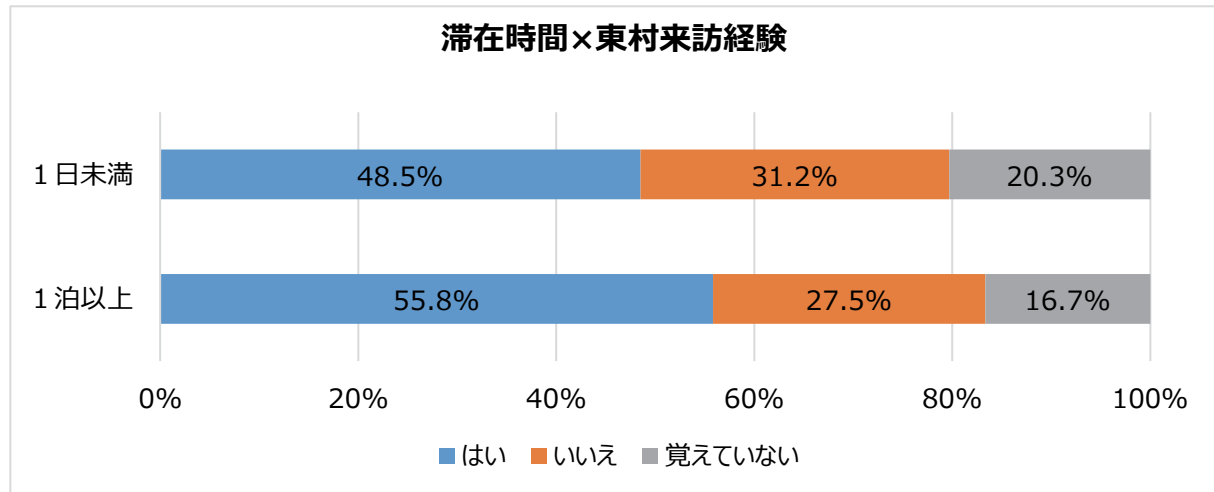
②やんばるで体験したいこと

やんばるで体験したいことについて滞在時間別にみると、「ヤンバルクイナなど固有種の観察」「景色を楽しむ」は1日未満、1泊以上ともに割合が高い。1泊以上は、「トレッキング」が42.5%、「ナイトツアー（星空観察など）」が40.0%と割合が高まる傾向がみられ、1日未満よりも体験を求めていることが推測される。



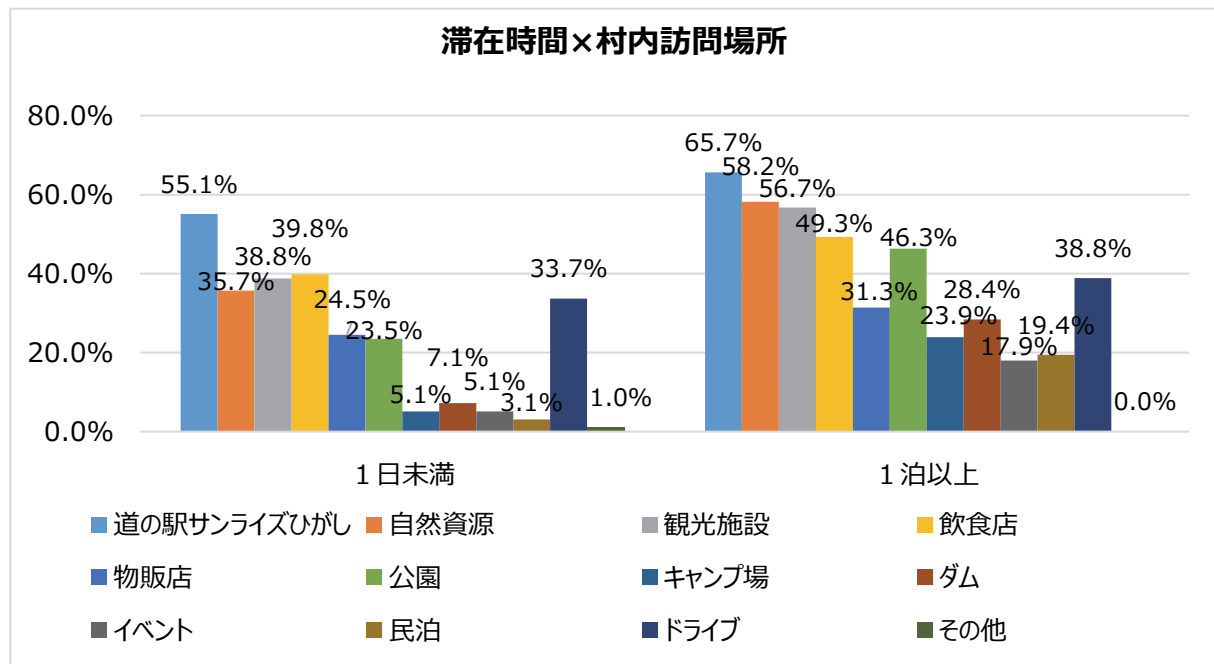
③東村来訪経験

東村来訪経験の有無を滞在時間別にみると、1泊以上は「はい」が55.8%と1日未満より7.3%高く、やんばるに宿泊し、滞在時間が長いほうが、東村来訪経験の割合が高いことがわかる。



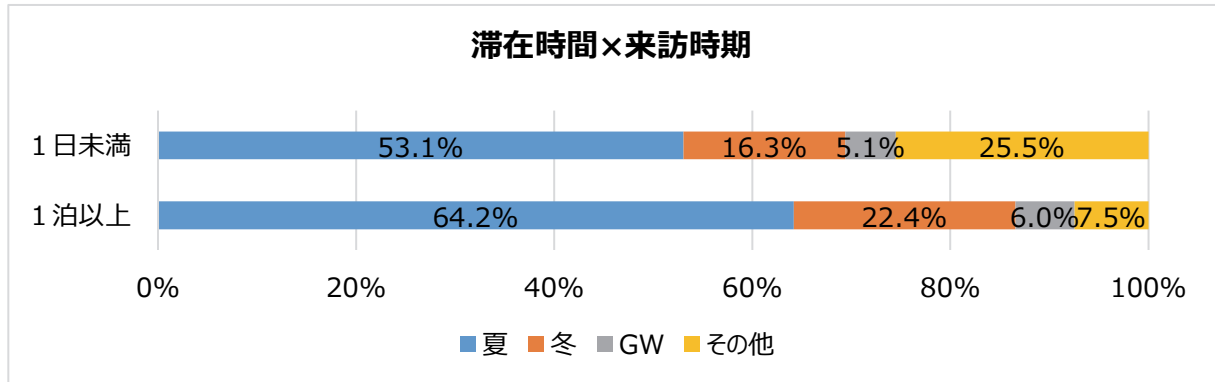
④東村内訪問場所

東村内訪問場所を滞在時間別に比較すると、1日未満では「道の駅サンライズひがし」のみの割合が高い傾向がみられる。1泊以上においては「道の駅サンライズひがし」「自然資源」「観光施設」「飲食店」「公園」が50.0%前後の割合となっていることや、「キャンプ」「ダム」「イベント」「農家民泊」も比較的高まる傾向にあることから、村内の様々なスポットを来訪していることがうかがえる。



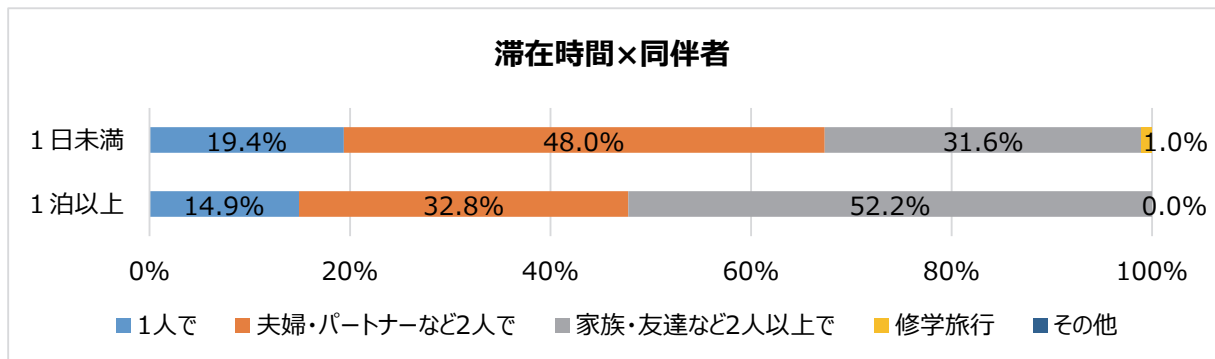
⑤ 来訪時期

東村に訪れた時期を滞在時間別にみると、1日未満も1泊以上も共通して「夏」の割合が最も高い。1日未満では「その他」が25.5%と2番目に高く、3割近くは春や秋に訪れている傾向がみられる。



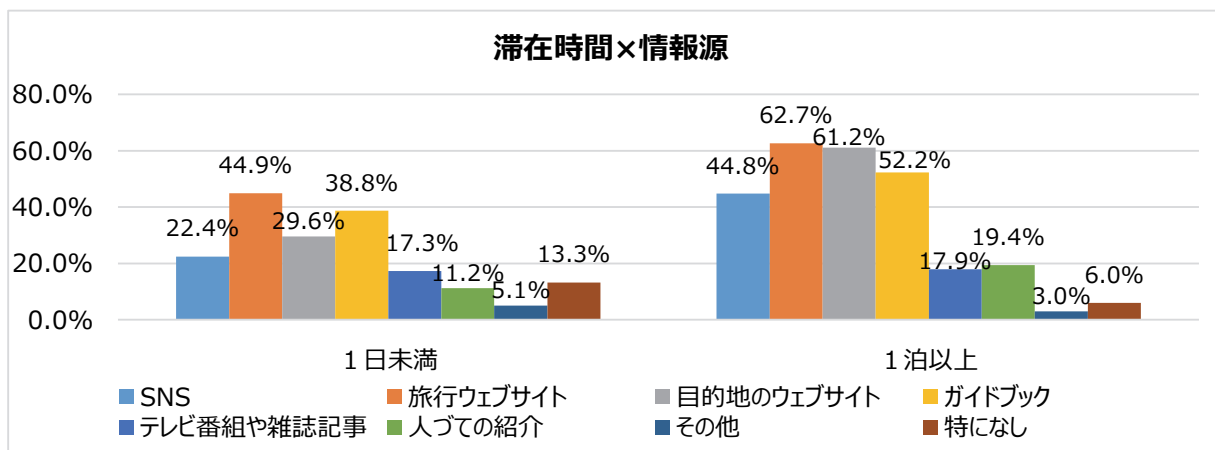
⑥ 同伴者

東村に訪れた同伴者を滞在時間別でみると、1日未満は「夫婦・パートナーなど2人で」が48.0%と最も高い一方で、1泊以上では「家族・友達など2人以上で」が52.2%と最も高い。やんばるに1泊以上の宿泊を伴う滞在をしている観光客ほど、複数人で東村を訪れていることがわかる。



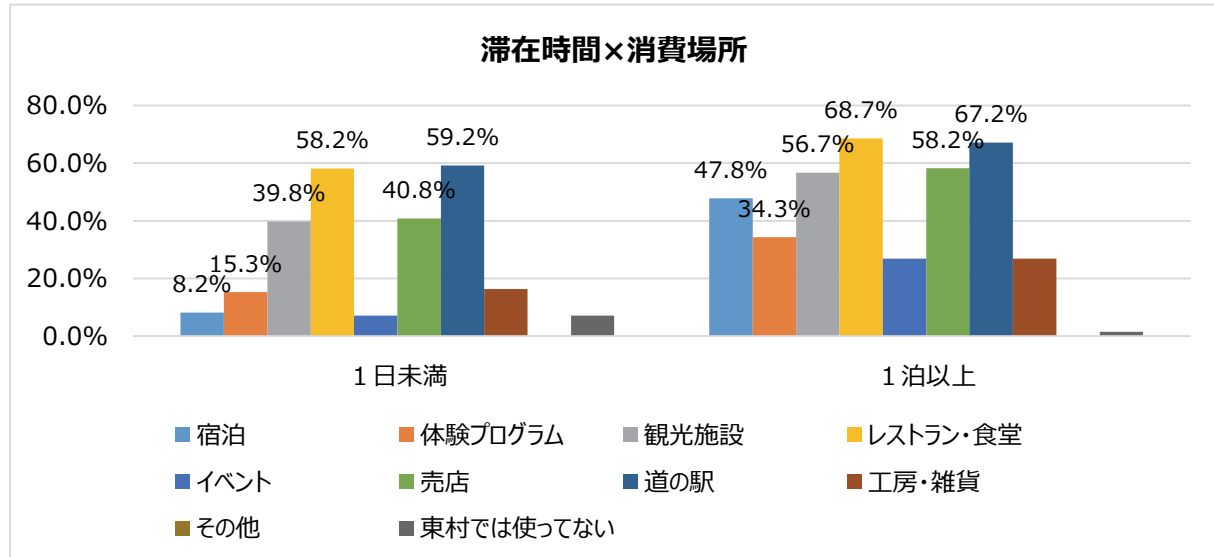
⑥ 情報源

東村に訪れるきっかけとなった情報源を滞在時間別にみると、1日未満、1泊以上ともに「旅行ウェブサイト」が最も高いが、1泊以上では「目的地のウェブサイト」「ガイドブック」「SNS」の割合も高く、訪れる決め手となる情報源も多岐にわたることがわかる。



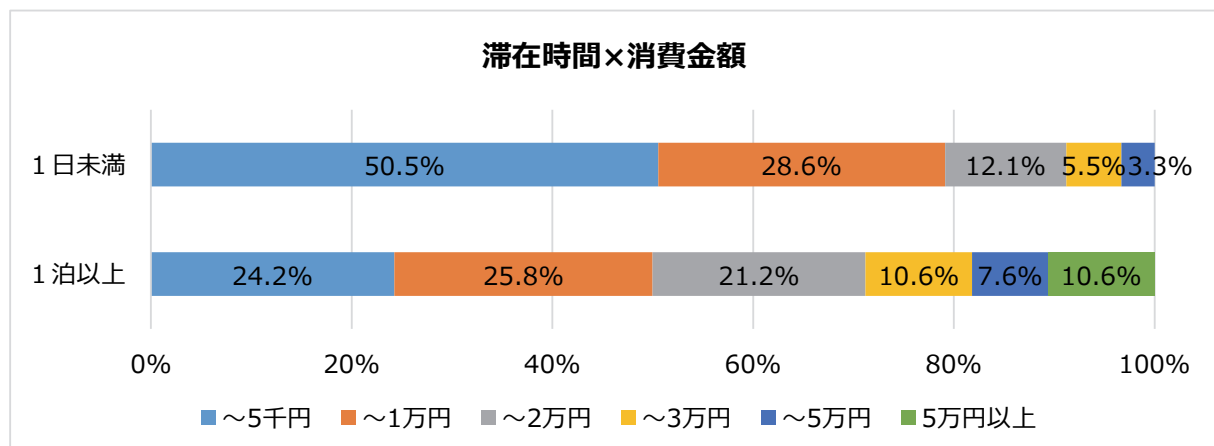
⑦消費場所

東村内での消費場所を滞在時間別にみると、1日未満と1泊以上ともに「レストラン・食堂」「道の駅」は多くのお金をお金を消費していることがわかる。1泊以上では「宿泊」「体験プログラム」「観光施設」「売店」での割合が高くなっている。



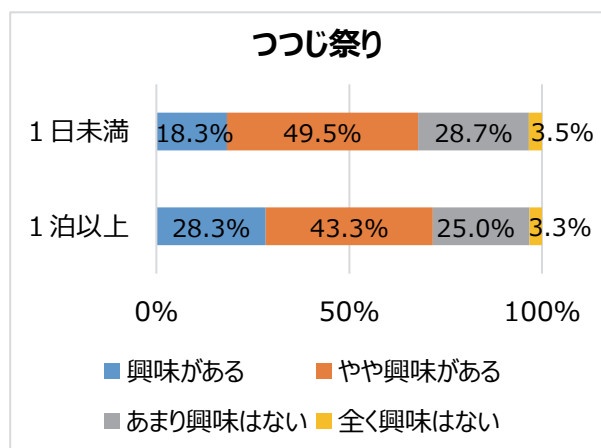
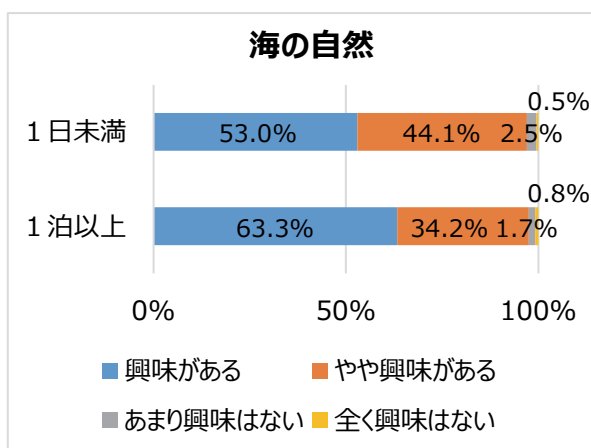
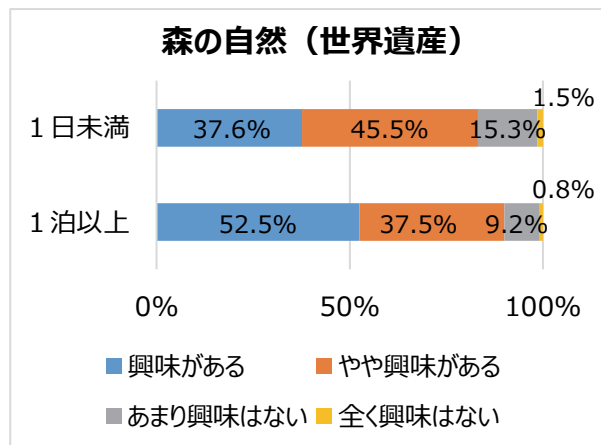
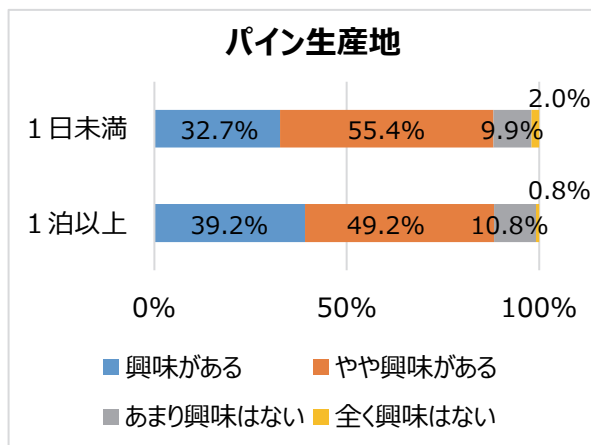
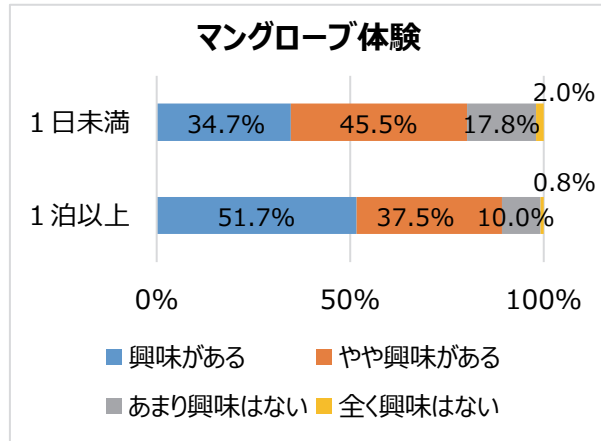
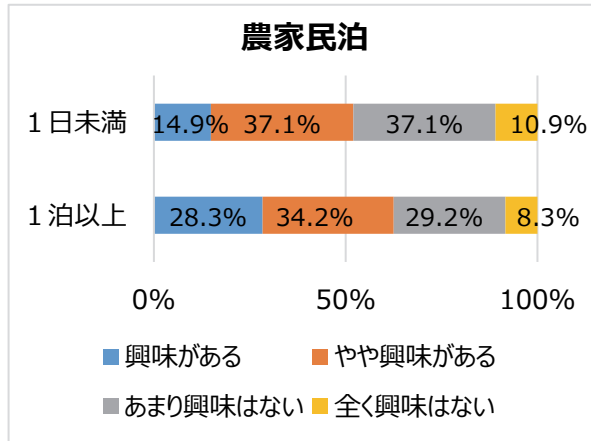
⑧消費金額

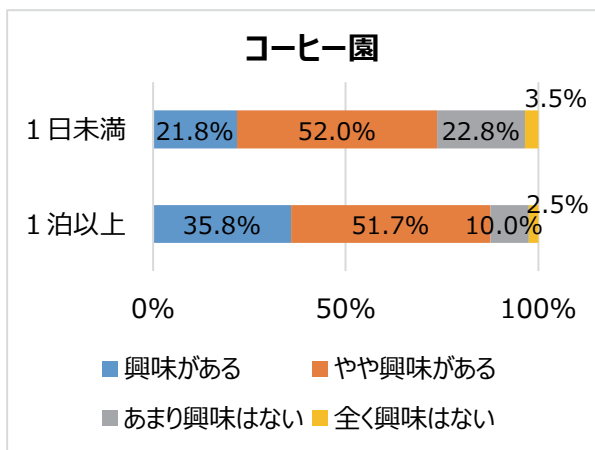
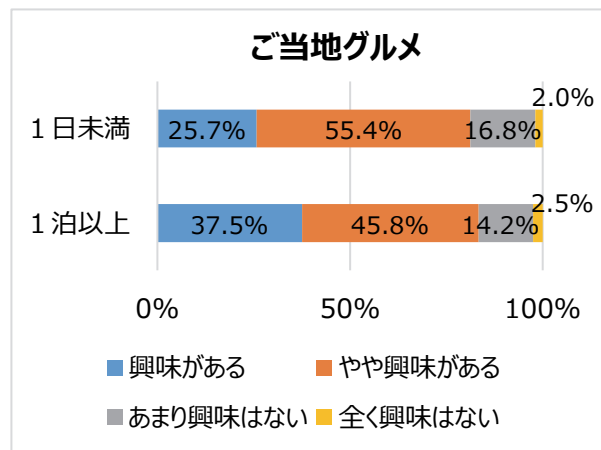
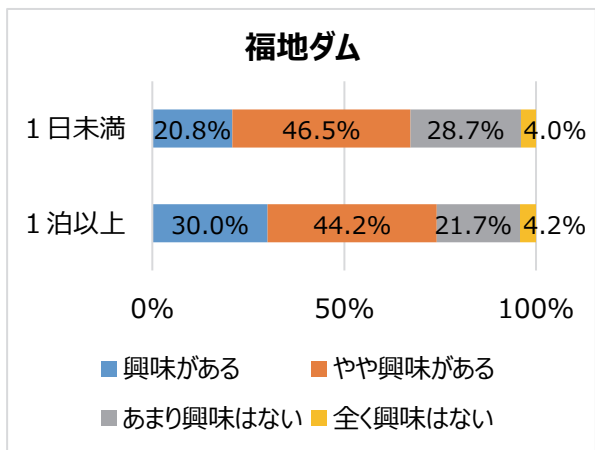
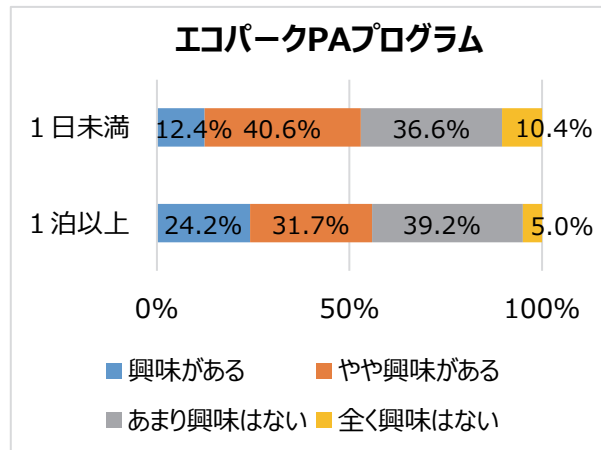
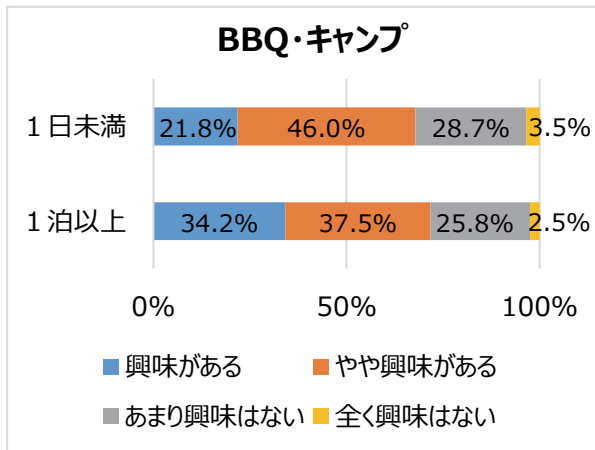
東村内での消費金額の合計を滞在時間別にみると、1日未満では「～5千円」が50.5%と半数を占めるが、1泊以上では「～5千円」「～1万円」「～2万円」が25.0%程度の割合となっている。また、1日未満では0%であった「5万円以上」が、1泊以上では10.6%となっていることから、滞在時間が長いほど、消費金額が増加する傾向がみられる。



⑨観光資源に対する興味・関心

東村内での観光資源に対する興味・関心を滞在時間別にみると、「興味がある」「やや興味がある」を合わせた割合は、1泊以上が高い。特に「農家民泊」「マングローブ体験」「コーヒー園」は1泊以上と1日未満で割合に差が出ており、1泊以上のほうが興味・関心が高いといえる。





Web アンケート 事前調査設問

設問数	回答	設問	選択肢
Q1	単一	直近5年間(2017年～現在)の間で、沖縄を旅行したことがありますか？	(はい/いいえ/覚えていない)
Q2	単一	直近5年間(2017年～現在)の間で、やんばる3村(東村、大宜味村、国頭村)を訪れたことはありますか？	(はい/いいえ/覚えていない)

Web アンケート 本調査設問

設問数	回答	設問	選択肢
Q1	単一	沖縄県には何回旅行されましたか？	(1回/2～4回/5～9回/10回以上)
Q2	単一	直近にやんばるを訪れた際ほどのくらい滞在しましたか？	(3時間未満/半日程度/1日程度/1泊2日/2泊3日/4日以上)
Q3	自由意見	直近に訪れた際、宿泊された方にお聞きます。宿泊先はどちらでしたか？宿泊先の施設名もしくは市町村名をお答えください。	自由意見
Q4	単一	直近に訪れた際、宿泊施設の種類は何ですか？	(ホテル/キッチン付きホテル/民宿/Airbnb/農家民泊/キャンプ/その他【 】)
Q5	単一	直近にやんばるを訪れた際の一番の目的は何ですか？	(自然環境/海/観光施設/イベント/体験プログラム/食事/買物/ドライブ・ツーリング/学習旅行・研修等/BBQ・キャンプ/のんびりリラックス/なんとなく/その他【 】)
Q6	複数	やんばるは世界自然遺産登録の勧告を受けていますが、世界自然遺産になった「やんばる」で体験したいことは何ですか？(回答はいくつでも)	(ヤンバルクイナなど固有種の観察/自然保護活動への参加/トレッキング/景色を楽しむ/ナイトツアー(星空観察など)/自然学習/グッズの購入/関心がない/その他【 】)
Q7	単一	東村を訪れたことはありますか？	(はい/いいえ/覚えていない)
Q8	複数	直近に訪れた際、東村内で訪れた場所について、当てはまるものを全てお選びください。(回答はいくつでも)	(道の駅サンライズひがし/自然資源/観光施設/飲食店/物販店/公園/キャンプ場/ダム/イベント/農家民泊/ドライブ/その他【 】)
Q9	単一	直近に東村を訪れた時期をお答えください。	(夏/冬/GW/その他) (コロナ前:2019年以前/コロナ後:2020年以降)
Q10	単一	直近に訪れた際、東村にはどなたといらっしゃいましたか？	(1人で/夫婦・パートナーなど2人で/家族・友達など3人以上で/修学旅行/その他【 】)

設問数	回答	設問	選択肢
Q11	複数	直近に訪れた際、東村を訪れるきっかけとなった情報源はどのようなものでしたか？(チェックはいくつでも)	(SNS/旅行ウェブサイト/目的地のウェブサイト/ガイドブック/テレビ番組や雑誌記事/人づての紹介/特になし/その他)
Q12	複数	直近に訪れた際、東村内でお金をお支払いになった場所はどこですか？(回答はいくつでも)	(宿泊/体験プログラム/観光施設/レストラン・食堂/イベント/売店/道の駅/工房・雑貨/東村では使ってない/その他【 】)
Q13	単一	それぞれを合わせた村内での一人当たりの消費金額はいくらですか？	(～5千円/～1万円/～2万円/～3万円/～5万円/5万円以上)
Q14	単一	東村を訪れなかった理由をお答えください。	(時間がなかった/情報がなかった/情報は見たが行きたい場所がなかった/行ったかもしれないがおぼえていない/その他【 】)
Q15 ～ Q17	単一	東村内の観光資源に対する認知についてお聞きします。下記の項目について、それぞれ当てはまるものをお答えください。 下記の選択肢ごとに回答。写真も添付。 (農家民泊/マングローブ体験/パイン生産地/森の自然(世界遺産)/海 of 自然/つつじ祭り/BBQ・キャンプ/エコパーク PA プログラム/福地ダム/ご当地グルメ/コーヒー園)	(よく知っている/だいたい知っている/聞いたことがある/知らない)
	単一	東村内の観光資源に対する興味・関心についてお聞きします。下記の項目について、それぞれ当てはまるものをお答えください。 下記の選択肢ごとに回答。写真も添付。 (農家民泊/マングローブ体験/パイン生産地/森の自然(世界遺産)/海 of 自然/つつじ祭り/BBQ・キャンプ/エコパーク PA プログラム/福地ダム/ご当地グルメ/コーヒー園)	(興味がある/やや興味がある/あまり興味はない/全く興味はない)

7-6. 前次計画の施策の進捗評価

(1) 東村第2次観光振興計画の施策体系

東村第2次観光振興計画（計画期間：平成29年度～令和3年度）では、「やんばるの自然環境と肝心（チムグクル）でおもてなし、感動とロマンあふれる村づくり」を将来像に掲げて観光振興に取り組んでいる。観光交流人口の目標値を「約37万人」に設定し、5つの基本方針のもとで施策の推進に取り組んできた。

東村第2次観光振興計画の施策体系図

基本方針	施策の基本方向	施策	重点PJ
1. やんばるの自然との深いふれあい、村民との交流を通じた心温まる感動で包む	①地域に眠る未利用の観光資源の活用・整備	1-1 自然体験型観光の新たなフィールド開拓	1
		1-2 福地ダム及び周辺地域の活用・整備	
		1-3 地域の歴史・文化資源の発掘・活用・整備	
		1-4 公共施設等の跡地利用、空き家等の有効活用	
	②独自性・魅力ある観光メニュー・プログラムづくり	2-1 エコ・グリーン・ブルー・ツーリズム及び地域資源を組み合わせたプログラム、環境保全体験等の開発	1
		2-2 各区の地域行事の継承と来訪者の参加促進、既存イベントと連携したメニュー開発	
		2-3 地域資源との組合せによる馬道トレッキングルート(かつての生業と生活体験)の整備	1
		2-4 各事業所、各区の参加による定期的な清掃の日、花いっぱいプロジェクトの実施	3
	③近隣地域との連携(地域協働によるやんばるの森観光の確立)	3-1 周辺地域との協力・連携	4
3-2 観光関係団体等との協力・連携		4	
2. やんばるの自然との共生、そこに暮らす人々の地場産品づくりへの取り組み、歴史・文化の継承から生まれる地域特性の創造	④ローカル色を活かした特産品開発の工夫	4-1 東村産パインアップルのブランド化(ゴールドハレル、その他品種のパインアップル)	2
		4-2 高付加価値の商品開発	
		4-3 従来の地場産品に加えて、オリジナル品種の品揃えを増やす	
		5-1 農業体験の質、新たなニーズへの対応	2
	⑤農業観光(グリーンツーリズム)の推進	5-2 担い手育成による農家民泊の推進	
		5-3 村内の観光資源と組み合わせた農業観光の村全域での本格的な推進	2
		⑥漁業観光(ブルーツーリズム)の推進	6-1 海洋資源の保全・活用、活動拠点の整備
	6-2 漁業者と観光業者との連携推進		
	⑦生産者意欲の向上に繋がる仕組みづくりの確立		7-1 産直売場の多様化、PRの充実
		7-2 農家のおもてなし力の向上による満足度を高める	
7-3 ご当地メニューの開発・提供			
3. 村民のおもてなしの心で、持続可能な観光振興による村づくりを進める	⑧自然環境の保全・賢明な活用・維持管理	8-1 地域特性を把握した、エコツアーフィールドの受入容量の設定や利用調整	3
		8-2 管理システムの開発・活用	
	⑨体系的な受入体制の整備	9-1 観光トータルコーディネート機関としての強化	
		9-2 観光関連事業者等の意見交換の場の創出	
		9-3 村民参画の促進と受入体制の構築	
		9-4 新たなニーズへの対応、外国人観光客受入体制の整備及び人材の育成	
	⑩住民のがんばりを支える体制づくり	10-1 魅力ある地域人材の発掘、担い手の育成	1
		10-2 各区に配置する村民ガイドの育成	
		10-3 きめ細かな表彰等の実施、村民メッセージ・アピールをデザイン	
		11-1 観光客アンケート成果の共有と評価・改善に向けた行動会議(作業部会)の開催	
4. 東村でしか体験できない感動とロマン溢れる記憶、また訪れたいと思う満足感を提供する	⑪本物のニーズをみつける努力と情報共有	11-2 来訪者ニーズを把握するためのモニタリングの実施	4
		11-3 SNS(ソーシャルネットワークサービス)等のネットコミュニケーションツールを活用した情報収集	
		11-4 旅行会社や専門機関等との情報共有	4
		12-1 観光案内機能の充実	4
	⑫情報ネットワークの整備・充実	12-2 ターゲットに応じた多様な情報提供	
		12-3 マスメディアへの積極的な情報提供	
		5. 地域資源の活用による東村地域ブランドの向上に努める	⑬東村独自の魅力の再構築と情報配信力の向上
13-2 やんばるの国立公園、奄美・琉球世界自然遺産登録に向けた取り組み(森林パトロール、自然遺産ルート整備)			
⑭地域CIの浸透を促す、新たな特産品づくり、土産品の開発	14-1 商品の統一したシンボルマーク、ロゴマークの使用		2
	14-2 地域ブランドの特産認定商品		
⑮新たな観光リーダー視点の形成	15-1 マスコットキャラクターグッズの作製		5
	15-2 観光リーディング拠点・世界水準のデスティネーション・リゾート整備	5	

重点プロジェクト…

- 1 新たな観光資源の開発プロジェクト、2 農業と連携した観光推進プロジェクト、3 地域環境整備プロジェクト
4 観光情報の発信と共有プロジェクト、5 やんばる地域の東村ブランディング戦略の策定

(2) 評価方法

現計画である東村第2次観光振興計画の施策の進捗と今後の方向性を評価するために、計画を推進する庁内関係課をはじめ、東村商工会及び東村観光推進協議会に対して、施策評価シートの記入依頼とヒアリングを実施した。

評価主体には、東村第2次観光振興計画の具体的な施策について、施策評価シートに「進捗」は（実施済み／順調／遅れ／未実施）から選択して「評価内容」へ具体的な内容を記入してもらい、「今後の方向性」は（継続／中止）から選択して「事業内容の追加・変更」に具体的な方向性の内容を記入してもらった。

施策評価シートの内容をふまえ、記入事項の内容の確認に加えて、これまでの5年間と今後の観光施策への意見や新型コロナウイルス感染症の影響等について意見を伺った。

施策評価シートにおける評価項目

評価項目	評価内容
進捗	現計画の施策の進捗状況について、実施済み／順調／遅れ／未実施から選択
評価内容	現計画の施策の具体的な進捗の内容や課題を記述
今後の方向性	次期計画における現計画の施策の方向性について、継続／中止から選択
事業内容の追加・変更	次期計画における事業内容の追加・変更を具体的に記述

ヒアリング対象一覧

年	月日	所属	ヒアリング対象者
令和3年	4月12日	教育委員会	上原朝文課長、田場兼昇主事
		農林水産課	宮田健次課長、又吉一樹課長補佐
		企画観光課	平田尚樹課長、平良洋一課長補佐、花城あゆみ係長、神谷拓弥主事、島袋翼主事
	4月23日	東村商工会	仲村実康経営指導員、伊波敏幸補助員
		東村観光推進協議会	小田晃久事務局長

(3) 計画の進捗状況の総括

数値目標として設定された、令和3年度における観光交流人口（入域観光客数）の目標値「約37万人」については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和2年度の実績値も19.2万人と未達成の状況となった。令和3年度も緊急事態宣言の発令や航空路線の減便の継続が想定されるため、目標値の達成は厳しいといえる。

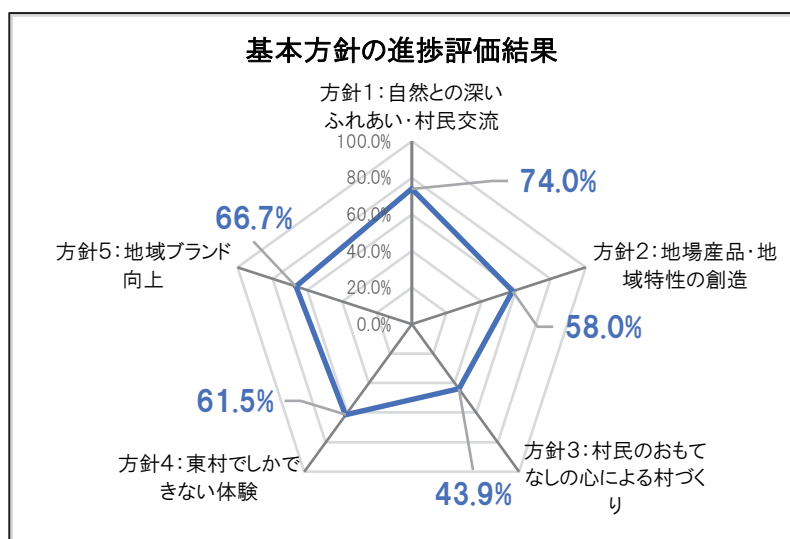
評価結果をまとめるにあたっては、進捗の割合を「実施済み(100%)」、「順調(75%)」、「遅れ(50%)」、「未実施(0%)」として算出した。算出の流れとしては、まず評価主体が評価した具体的な施策の進捗の割合を算出し、その平均値から基本方向及び基本方針の進捗の割合を算出した。複数の評価主体が評価を行った施策については、平均値を算出した。

東村第2次観光振興計画の進捗状況としては、概ね順調の施策が多くみられるが、一部の施策で遅れや未実施があり、次期計画での位置づけや内容の見直しが必要な施策もみられる。5つの施策（大項目）の進捗状況は次のとおりである。

- 「基本方針1 やんばるの自然との深いふれあい、村民との交流を通した心温まる感動で包む」の進捗は74.0%となっており、5つの施策のなかで最も順調に進捗した。新たな観光資源の活用・整備や世界自然遺産登録に向けた近隣地域との連携の取組が進められた。
- 「基本方針2 やんばるの自然との共生、そこに暮らす人々の地場産品づくりへの取組、歴史・文化の継承から生まれる地域特性の創造」の進捗は58.0%であり、比較的遅れている。生産者意欲向上の仕組みづくりは進められたが、ブルーツーリズムの推進の取組が遅れているとの評価となった。
- 「基本方針3 村民のおもてなしの心で、持続可能な観光振興による村づくりを進める」の進捗は43.9%であり、5つの施策のなかで最も進捗が遅れている。自然環境の保全や受入体制の整備、住民の意欲向上の施策で未実施との評価も複数みられた。
- 「基本方針4 東村でしか体験できない感動とロマン溢れる記憶、また訪れたいと思う満足感を提供する」の進捗は61.5%であり、情報発信や情報ネットワークの整備の面で、やや遅れ気味との評価となった。
- 「基本方針5 地域資源の活用による東村地域ブランドの向上に努める」の進捗は66.7%であり、比較的順調に進捗した。村独自の魅力の構築やロゴマークの活用、キャラクターグッズ作製、リーディング拠点整備の施策が進められた。

評価結果における進捗の割合

評価項目	進捗の割合
実施済み	100%
順調	75%
遅れ	50%
未実施	0%



施策評価結果一覧表

施策名	評価主体	進捗	方向性	
1. やんばるの自然との深いふれあい、村民との交流を通じた心温まる感動で包む			74.0%	
①地域に眠る未利用の観光資源の活用・整備			79.2%	
1-1 自然体験型観光の新たなフィールド開拓	企画観光課	順調	75.0%	継続
	観光推進協議会	順調		継続
1-2 福地ダム及び周辺地域の活用・整備	企画観光課	実施済	87.5%	継続
	観光推進協議会	順調		継続
1-3 地域の歴史・文化資源の発掘・活用・整備	教育委員会	順調	66.7%	継続
	企画観光課	遅れ		継続
	商工会	順調		継続
1-4 公共施設等の跡地利用、空き家等の有効活用	教育委員会	順調	87.5%	継続
	企画観光課	実施済		継続
②独自性・魅力ある観光メニュー・プログラムづくり			67.7%	
2-1 エコ・グリーン・ブルーツーリズム及び地域資源を 組み合わせたプログラム、環境保全体験等の開発	企画観光課	順調	75.0%	継続
	観光推進協議会	順調		継続
2-2 各区の地域行事の継承と来訪者の参加促進、 既存イベントと連携したメニュー開発	企画観光課	順調	58.3%	継続
	教育委員会	遅れ		継続
2-3 地域資源との組合せによる馬道トレッキングルート (かつての生業と生活体験)の整備	企画観光課	遅れ	50.0%	継続
	教育委員会	遅れ		継続
2-4 各事業所、各区の参加による定期的な清掃の日、 花いっぱいプロジェクトの実施	企画観光課	実施済	87.5%	継続
	教育委員会	順調		継続
③近隣地域との連携(地域協働によるやんばるの森観光の確立)			75.0%	
3-1 周辺地域との協力・連携	企画観光課	順調	75.0%	継続
	観光推進協議会	順調		継続
3-2 観光関係団体等との協力・連携	観光推進協議会	順調	75.0%	継続
2. やんばるの自然との共生、そこに暮らす人々の地場産品づくりへの取り組み、歴史・文化の 継承から生まれる地域特性の創造			58.0%	
④ローカル色を活かした特産品開発の工夫			61.1%	
4-1 東村産パインアップルのブランド化 (ゴールドバレル、その他品種のパインアップル)	企画観光課	遅れ	66.7%	継続
	農林水産課	順調		継続
	商工会	順調		継続
4-2 高付加価値の商品開発	企画観光課	遅れ	41.7%	継続
	農林水産課	未実施		中止
4-3 従来の地場産品に加えて、 オリジナル品種の品揃えを増やす	企画観光課	順調	75.0%	継続
	商工会	順調		継続
⑤農業観光(グリーンツーリズム)の推進			58.3%	
5-1 農業体験の質、新たなニーズへの対応	企画観光課	順調	62.5%	継続
	観光推進協議会	遅れ		継続
5-2 担い手育成による農家民泊の推進	企画観光課	順調	37.5%	継続
5-3 村内の観光資源と組み合わせた農業観光の 村全域での本格的な推進	観光推進協議会	未実施	75.0%	継続
	企画観光課	遅れ		継続
6-1 海洋資源の保全・活用、活動拠点の整備	商工会	実施済		継続
6-2 漁業者と観光業者との連携推進	企画観光課	遅れ	25.0%	継続
	観光推進協議会	未実施		継続
⑦生産者意欲の向上に繋がる仕組みづくりの確立			68.9%	
7-1 産品直売会会の多様化、PRの充実	企画観光課	遅れ	66.7%	継続
	農林水産課	順調		継続
	商工会	順調		継続
7-2 農家のおもてなし力の向上による満足度を高める	企画観光課	順調	75.0%	継続
7-3 ご当地メニューの開発・提供	企画観光課	未実施	65.0%	継続
	教育委員会	遅れ		中止
	農林水産課	実施済		継続
	観光推進協議会	実施済		継続
	商工会	順調		継続

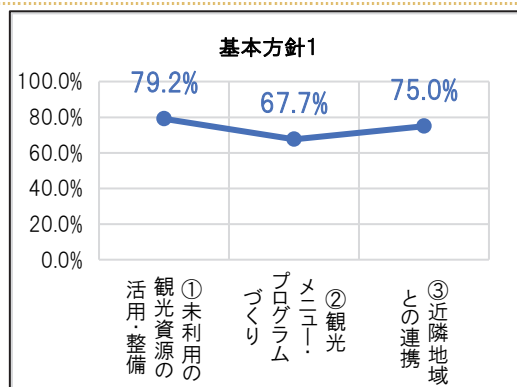
施策名	評価主体	進捗	方向性	
3. 村民のおもてなしの心で、持続可能な観光振興による村づくりを進める			43.9%	
⑧自然環境の保全・賢明な活用・維持管理			25.0%	
8-1 地域特性を把握した、エコツアーフィールドの受入容量の設定や利用調整	企画観光課	遅れ	50.0%	継続
	観光推進協議会	遅れ		継続
8-2 管理システムの開発・活用	企画観光課	未実施	0.0%	継続
	観光推進協議会	未実施		継続
⑨体系的な受入体制の整備			59.4%	
9-1 観光トータルコーディネート機関としての強化	企画観光課	未実施	37.5%	継続
	観光推進協議会	順調		継続
9-2 観光関連事業者等の意見交換の場の創出	企画観光課	遅れ	62.5%	継続
	観光推進協議会	順調		継続
9-3 村民参画の促進と受入体制の構築	企画観光課	遅れ	50.0%	継続
9-4 新たなニーズへの対応、外国人観光客受入体制の整備及び人材の育成	企画観光課	順調	87.5%	継続
	観光推進協議会	実施済		継続
⑩住民のがんばりを支える体制づくり			47.2%	
10-1 魅力ある地域人材の発掘、担い手の育成	企画観光課	未実施	37.5%	中止
	商工会	順調		継続
10-2 各区に配置する村民ガイドの育成	企画観光課	遅れ	66.7%	継続
	教育委員会	遅れ		継続
10-3 きめ細かな表彰等の実施、村民メッセージ・アピールをデザイン	観光推進協議会	実施済	37.5%	継続
	企画観光課	未実施		中止
商工会	順調	継続		
4. 東村でしか体験できない感動とロマン溢れる記憶、また訪れたいと思う満足感を提供する	評価担当	進捗	61.5%	方向性
⑪本物のニーズをみつける努力と情報共有			56.3%	
11-1 観光客アンケート成果の共有と評価・改善に向けた行動会議(作業部会)の開催	企画観光課	遅れ	50.0%	継続
	観光推進協議会	未実施		継続
	商工会	実施済		継続
11-2 来訪者ニーズを把握するためのモニタリングの実施	企画観光課	遅れ	50.0%	継続
11-3 SNS(ソーシャルネットワークサービス)等のネットコミュニケーションツールを活用した情報収集	企画観光課	遅れ	58.3%	継続
	観光推進協議会	遅れ		継続
11-4 旅行会社や専門機関等との情報共有	商工会	順調	66.7%	継続
	企画観光課	遅れ		継続
観光推進協議会	順調	継続		
商工会	順調	継続		
⑫情報ネットワークの整備・充実			66.7%	
12-1 観光案内機能の充実	企画観光課	遅れ	62.5%	継続
	商工会	順調		継続
12-2 ターゲットに応じた多様な情報提供	企画観光課	遅れ	62.5%	継続
	商工会	順調		継続
12-3 マスメディアへの積極的な情報提供	企画観光課	順調	75.0%	継続
	観光推進協議会	順調		継続
商工会	順調	継続		
5. 地域資源の活用による東村地域ブランドの向上に努める	評価担当	進捗	66.7%	方向性
⑬東村独自の魅力の再構築と情報配信力の向上			75.0%	
13-1 日の出、夜景等の観光資源化	企画観光課	順調	75.0%	継続
13-2 やんばる国立公園、奄美・琉球世界自然遺産登録に向けた取り組み(森林バトロール、自然遺産ルート整備)	企画観光課	順調	75.0%	継続
	観光推進協議会	順調		継続
⑭地域CIの浸透を促す、新たな特産品づくり、土産品の開発			56.3%	
14-1 商品の統一したシンボルマーク、ロゴマークの使用	企画観光課	順調	75.0%	継続
	商工会	順調		継続
14-2 地域ブランドの特産認定商品	企画観光課	未実施	37.5%	継続
	商工会	順調		継続
⑮新たな観光リーディング拠点の形成			68.8%	
15-1 マスコットキャラクターグッズの作製	企画観光課	遅れ	62.5%	継続
	商工会	順調		継続
15-2 観光リーディング拠点・世界水準のdestination・リゾート整備	企画観光課	順調	75.0%	継続

(4) 施策の評価内容及び課題

評価主体が評価した具体的な施策の評価内容やヒアリング結果等を元に、第2次東村観光振興計画の計画期間における施策の取組状況を次にまとめる。

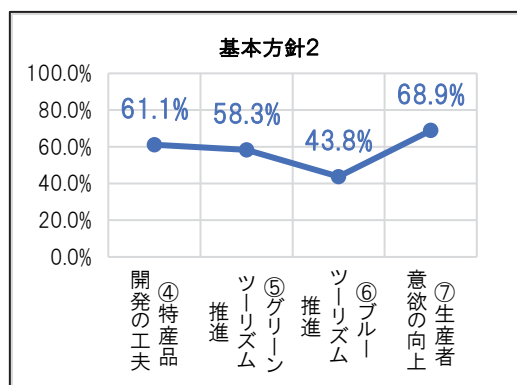
1) やんばるの自然との深いふれあい、村民との交流を通じた心温まる感動で包む

- 「①地域に眠る未利用の観光資源の活用・整備」は比較的順調であり、ダムツーリズムや森林ツーリズムのフィールドを新たに開拓し、地域資源の発掘がなされている。コロナ禍でキャンプ需要が高まり、福地川海浜公園の利用者数も前年度を上回った。
- 「②独自性・魅力ある観光メニュー・プログラムづくり」は、地域行事や地域資源との連携の施策で一部遅れとなっている。
- 「③近隣地域との連携」は、世界自然遺産登録に向けた取組で順調に進捗した。



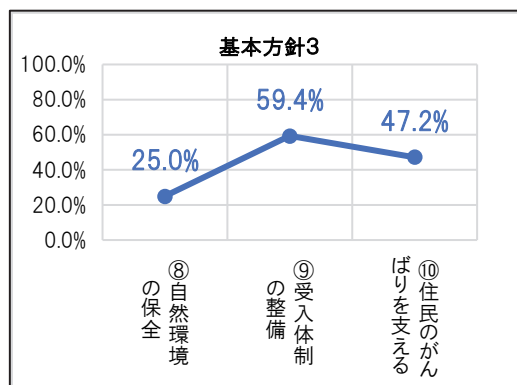
2) やんばるの自然との共生、そこに暮らす人々の地場産品づくりへの取り組み、歴史・文化の継承から生まれる地域特性の創造

- 「④ローカル色を活かした特産品の開発の工夫」は、商工会を中心に進められ概ね順調。パインアップルは差別化販売に取り組んでおり、東村産ゴールドバレルが認知されつつある。
- エコ/グリーン・ツーリズムの施策が進んでいるのに対して、施策の「⑥漁業観光(ブルーツーリズムの推進)」は遅れの状況があり、ブルーツーリズム体験施設の活用促進が課題となっている。
- 「⑦生産者意欲の向上に繋がる仕組みづくりの確立」は順調であり、新たな特産品の開発(かぼちゃプリン、パインフロゼン等)が進んでいる。



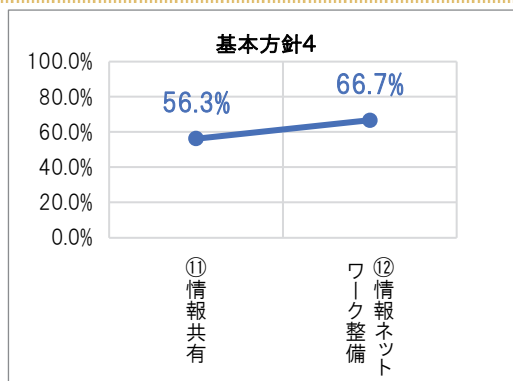
3) 村民のおもてなしの心で、持続可能な観光振興による村づくりを進める

- 施策の「⑧自然環境の保全・賢明な活用・維持管理」は遅れ、未実施となっている。今後さらなる観光客の増加が予想され、受入容量の設定や利用調整の施策実施が求められる。
- 「⑨体系的な受入体制の整備」は、観光推進協議会にて事業者との連携が図られるとともに、職員研修やガイドの語学講座等の取組が行われた。一方、観光推進連絡会議の定期的な開催や観光関連データ分析及び事業者間での情報共有が求められている。
- 「⑩住民のがんばりを支える体制づくり」は、村民ガイド育成や表彰の取組が行われなかったため遅れとなっている。



4) 東村でしか体験できない感動とロマン溢れる記憶、また訪れたいと思う満足感を提供する

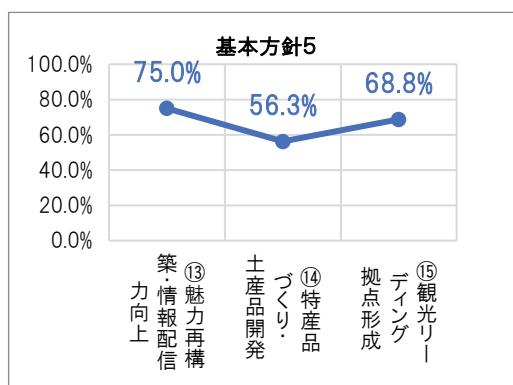
- 「⑪本物のニーズをみつける努力と情報共有」は、アンケート成果の共有やニーズ調査、SNSの情報分析等の取組が進められていないため、遅れとなっている。
- 「⑫情報ネットワークの整備・充実」は、マスメディアへの情報提供は順調に進められた一方、観光案内機能の充実やターゲットに応じた情報提供の取組は遅れとなっている。



5) 地域資源の活用による東村地域ブランドの向上

に努める

- 「⑬東村独自の魅力の再構築と情報発信力の向上」は順調であり、星空観察会の実施や世界自然遺産登録に向けた森林パトロールが実施された。
- 「⑭地域CIの浸透を促す、新たな特産品づくり、土産品の開発」は「やんばるの東」のロゴマークを利用したエコバックが製作されたが、東村独自の地域ブランドの特産認定の取組は行われていない。
- 「⑮新たな観光リーディング拠点の形成」について、五味観光跡地やブルーツーリズム体験施設近隣において、新たにホテル建設の協議が前向きに進められている。ロラン局跡地については、地域との話し合いが続けられており、具体的な施策についてまでは進捗がみられない。



7-7. 計画策定体制

(1) 東村観光振興計画策定委員会 委員名簿

	氏名	所属
委員長	宮城 調秀	東村役場 総務財政課
副委員長	渡久山 真一	東村観光推進協議会 理事長
委員	宮田 健次	東村役場 農林水産課
〃	上原 朝文	東村教育委員会
〃	神谷 牧夫	東村議会 産業経済委員長
〃	島袋 裕也	東村観光推進協議会 エコツーリズム部会長
〃	安仁屋 幸子	東村観光推進協議会 グリーン・ツーリズム部会長
〃	當山 一	東村観光推進協議会 ブルートツーリズム部会長
〃	宮城 善光	東村商工会長
〃	島袋 徳和	東村ふるさと振興株式会社 代表取締役社長
〃	仲村 修	区会 会長(慶佐次区)
〃	平安 京子	区会 副会長(宮城区)
〃	山城 定雄	公益社団法人沖縄県地域振興協会プログラムオフィサー
〃	大谷 健太郎	名桜大学 観光産業専攻教授
〃	中村 あやの	沖縄振興開発金融公庫 北部支店長

(2) ワーキング会議 参加者名簿

	氏名	所属
委員長	小田 晃久	東村観光推進協議会 事務局長
副委員長	又吉 一樹	東村役場 農林水産課 課長補佐
委員	仲村 実康	東村商工会 経営指導員
〃	玉村 浩	東村ふるさと振興株式会社 支配人
〃	儀間 紀章	東村ふるさと振興株式会社 サンライズひがし店長
〃	宮城 勇介	JA おきなわ パイン対策部
〃	渡久山 真一	東村観光推進協議会 理事長
〃	島袋 裕也	東村観光推進協議会 エコツーリズム部会長
〃	當山 一	東村観光推進協議会 ブルートツーリズム部会長
〃	渡久山 尚子	東村教育委員会 学芸員
〃	田場 兼昇	東村教育委員会 社会教育担当
〃	平良 洋一	東村役場 企画観光課 課長補佐
〃	神谷 拓弥	東村役場 企画観光課